

独立行政法人国際協力機構（JICA）
ベトナム国農業農村開発省（MARD）

ベトナム国

地域振興のための地場産業振興計画調査

最終報告書

第2編 パイロットプロジェクトと
省政府工芸マスタープラン

平成16年2月

株式会社 アルメック
財団法人 国際開発センター

注：本報告書では下記の為替レートを使用している。
1 米ドル=15,200 ベトナムドン (VND)

ベトナム国地域振興のための地場産業振興計画調査
最終報告書
第2編 パイロットプロジェクトと
省政府工芸マスタープラン

目 次

表目次
図目次
略語

第1部 パイロットプロジェクト

1. はじめに	
1.1 パイロットプロジェクトの目的と方法	1-1
1.2 パイロットプロジェクトの概要	1-3
2. パイロットプロジェクト	
2.1 工芸情報システム	2-1
2.2 工芸クラスター開発	2-6
2.3 工芸の伝統的価値保存システム構築	2-23
2.4 工芸品振興のためのデザイン振興策の構築	2-30
2.5 国際競争力のある工芸品開発	2-40
2.6 工芸村の環境改善	2-49
2.7 少数民族のマネジメントキャパシティ向上	2-55
2.8 工芸村開発戦略	2-61
3. パイロットプロジェクトの成果と課題	
3.1 工芸情報システム	3-1
3.2 工芸クラスター開発	3-2
3.3 工芸品の伝統的価値保存システムの構築	3-5
3.4 工芸品振興のためのデザイン振興システムの構築	3-7
3.5 国際競争力のある工芸品開発	3-9
3.6 工芸村の環境改善	3-11
3.7 少数民族のマネジメントキャパシティ強化	3-13
3.8 工芸村開発戦略	3-14
3.9 パイロットプロジェクトの評価	3-17

第2部 省政府工芸マスタープラン

1. はじめに	
1.1 必要性と役割	1-1
1.2 モデル省マスタープランの作成	1-2
1.3 ガイドライン作成の必要性	1-3
2. ガイドラインの概要	
2.1 省政府マスタープラン作成の方法	2-1
2.2 省政府マスタープランの内容	2-2
2.3 実施体制	2-24

表 目 次

第1部

表 1.1.1 工芸セクターに関わる主要課題	1-1
表 1.2.1 パイロットプロジェクトの概要	1-4
表 2.2.1 PP2 対象地域及び対象工芸品	2-9
表 2.2.2 絹製品の生産工程	2-11
表 2.2.3 ハタイ省の工芸セクターにおけるクラスター分析	2-12
表 2.2.4 クアンナム省の工芸セクターにおけるクラスター分析	2-13
表 2.2.5 経営の特徴、強み、課題	2-14
表 2.2.6 マネジメント・チェックリストによる事後評価	2-16
表 2.2.7 基盤別に求められる政策の例	2-18
表 2.2.8 経営改善・生産工程改善に関する活動の提案	2-19
表 2.2.9 BDS 機関・部門の設置の提案	2-20
表 2.2.10 コンサルティング・人材育成に関するメニュー	2-20
表 2.2.11 北部絹産業の成長予測	2-21
表 2.2.12 絹製品産業に関わる中央政府の権限の提案	2-22
表 2.3.1 PP3 対象地域及び対象工芸品	2-24
表 2.3.2 PP3 実施スケジュール	2-24
表 2.3.3 対象工芸村選定のクライテリア	2-25
表 2.3.4 工芸村における写真撮影のテーマ	2-25
表 2.3.5 伝統工芸村における課題	2-26
表 2.3.6 フォトボイス手法の長所・短所	2-27
表 2.4.1 PP4 実施スケジュール	2-31
表 2.5.1 製作プロトタイプ数	2-45
表 2.5.2 コーディネーターの開発システム	2-49
表 2.6.1 PP6 実施スケジュール	2-51
表 2.7.1 PP7 対象地域と対象工芸品	2-56
表 2.7.2 PP7 実施スケジュール	2-56
表 2.7.3 2対象地域の有利な点と課題	2-58
表 2.8.1 PP8 対象地域及び対象工芸品	2-62
表 2.8.2 PP8 実施スケジュール	2-63

第2部

表 2.2.1	全国工芸マッピング調査票の構成	2-3
表 2.2.2	中央政府による工芸セクターに関わる主要な政策・決定	2-4
表 2.2.3	省政府による工芸セクターに関わる主要な政策・決定	2-4
表 2.2.4	省の概況作成チェックリスト	2-5
表 2.2.5	気候及び水勢	2-5
表 2.2.6	土地利用	2-5
表 2.2.7	人口及び労働力	2-6
表 2.2.8	教育及び保健	2-6
表 2.2.9	交通	2-6
表 2.2.10	電力・通信・水供給・保健施設	2-6
表 2.2.11	経済構造	2-7
表 2.2.12	農産品及び主要穀物産地	2-7
表 2.2.13	森林地域	2-7
表 2.2.14	林産物	2-7
表 2.2.15	水産品	2-7
表 2.2.16	工業セクター生産高	2-7
表 2.2.17	輸出量	2-7
表 2.2.18	工芸品・工芸村概況チェックリスト	2-8
表 2.2.19	コミュニーの状況	2-8
表 2.2.20	工芸村の状況	2-8
表 2.2.21	代表的な工芸村・伝統工芸村と開発目的	2-9
表 2.2.22	主要工芸品及び各課題の評価	2-9
表 2.2.23	マスターアルティザン	2-9
表 2.2.24	工芸生産高と輸出量	2-10
表 2.2.25	工芸セクターに関わる主要課題チェックリスト	2-10
表 2.2.26	2010年までの省の社会経済開発指標	2-14
表 2.2.27	工芸開発指標	2-14
表 2.2.28	アクションデータシート(例)	2-17
表 2.2.29	戦略とアクションプラン	2-18
表 2.2.30	工芸アクション実施スケジュール	2-21
表 2.2.31	アクションの実施方策チェックリスト	2-21
表 2.2.32	目的・戦略別の省レベル関係省庁の役割分担	2-22
表 2.2.33	モニタリングの評価クライテリア	2-23

目 次

第1部

図 1.2.1	パイロットプロジェクトと実施地域	1-3
図 2.1.1	PP1 実施スケジュール	2-2
図 2.1.2	工芸情報ウェブサイトのカテゴリ	2-3
図 2.1.3	工芸村に対する情報支援	2-5
図 2.1.4	MARD 工芸ウェブサイトの構造	2-6
図 2.2.1	工芸クラスター開発の構成要素	2-7
図 2.2.2	PP2 実施スケジュール	2-9
図 2.2.3	作業環境の改善(クアンナム省竹・籐コーポラティブの例)	2-10
図 2.2.4	工芸職人訓練プログラム(クアンナム省)	2-10
図 2.2.5	竹・籐製品、木工品の生産(ハタイ省、クアンナム省)	2-12
図 2.2.6	絹製品の流通システムと検品制度	2-21
図 2.3.1	フォトボイスによる撮影写真とインタビュー風景	2-26
図 2.3.2	工芸村内でのフォトボイスの展示	2-28
図 2.4.1	デザイン実践における3つの段階	2-33
図 2.4.2	デザイン振興システムの提案	2-37

図 2.4.3 デザイン振興のための施策システム(提案)	2-38
図 2.4.4 デザイン振興体制の整備(提案)	2-39
図 2.4.5 デザインポテンシャルの活性化(提案)	2-39
図 2.4.6 工芸品デザイン開発支援のモデル事業の実施(提案)	2-40
図 2.5.1 PP5 実施スケジュール	2-42
図 2.5.2 工芸品製作におけるコーディネーターの役割	2-43
図 2.5.3 ステージ1によるプロトタイプ製作	2-44
図 2.5.4 ステージ2によるプロトタイプ開発	2-45
図 2.5.5 コーディネーターの業務の流れ	2-46
図 2.6.1 染色工場での化学染料の使用と廃水	2-51
図 2.6.2 マクロレベルでの環境影響	2-53
図 2.7.1 現地での活動	2-57
図 2.8.1 PP8 プロジェクトサイト	2-63
図 2.8.2 PRA トレーニング	2-68

第2部

図 1.1.1 省政府工芸振興マスタープランの位置づけ	1-1
図 2.1.1 省マスタープラン作成の方法と工程(案)	2-2
図 2.2.1 中央レベルの工芸振興マスタープランの全体像	2-13
図 2.2.2 工芸セクターの課題と戦略の計画フレーム(例)	2-16
図 2.2.3 省政府工芸カウンスルの組織概念	2-23
図 2.3.1 実施体制	2-24

略 語

ADB	Asian Development Bank
AEQM	Areawide Environmental Quality Management
AFTA	ASEAN Free Trade Area
APEC	Asia-Pacific Economic Cooperation Conference
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations
BDS	Business Development Services
BIDV	Bank for Investment and Development
BOD	Biochemical Oxygen Demand
BPSC	Business Promotion and Service Center
CBT	Community-Based Tourism
CCF	Central People's Credit Fund
CEM	Committee for Ethnic Minorities
CEPT	Common Effective Preferential Tariff
CIEM	Central Institute for Economic Management
COD	Chemical Oxygen Demand
COV	Copyright Office of Vietnam
CPC	Commune People's Committee
CPRGS	Comprehensive Poverty Reduction and Growth Strategy
CSRO	Central Sericulture Research Organization
DARD	Department of Agriculture and Rural Development
DOC	Department of Construction
DOCI	Department of Culture and Information
DOD	Department of Defense
DOET	Department of Education and Training
DOF	Department of Finance
DOI	Department of Industry
DOLH	Department of Land and Housing
DOLISA	Department of Labors, War Invalids and Social Affairs
DOP	Department of Police
DOS	Department of Statistics
DOSTE	Department of Science, Technology and Environment
DOTax	Department of Tax
DOTourism	Department of Tourism
DOTrade	Department of Trade
DOTransport	Department of Transport

DPC	District People's Committee
DPI	Department of Planning and Investment
EIA	Environmental Impact Assessment
EPA	Environmental Protection Agency
FDI	Foreign Direct Investment
FOB	Free On Board
FSC	Forest Stewardship Council
FU	Vietnam Farmer's Union
GDP	Gross Domestic Product
GMS	Greater Mekong Subregion
GSO	General Statistics Office
GTZ	German Technical Cooperation
HCMC	Ho Chi Minh City
HDI	Human Development Index
HRPC	Vietnam Handicraft Villages Research and Promotion Center
ICBV	Industrial and Commercial Bank of Vietnam
IFAT	International Fair Trade Association
ILO	International Labour Organization
ISO	International Standard Organization
ITC	International Trade Centre
ITCR	Institute for Tourism Research and Development
ITPC	Investment and Trade Promotion Center
IUCN	The World Conservation Union
JBIC	Japan Bank for International Corporation
JETRO	Japan External Trade Organization
JICA	Japan International Cooperation Agency
JIDPO	Japan Industrial Design Promotion Organization
MARD	Ministry of Agriculture and Rural Development
MDF	Medium-Density Fiber
MOAR	Ministry of Aquatic Resources
MOC	Ministry of Construction
MOCI	Ministry of Culture and Information
MOET	Ministry of Education and Training
MOF	Ministry of Finance
MOI	Ministry of Industry
MOJ	Ministry of Justice
MOLISA	Ministry of Labour, War Invalids and Social Affairs
MONE	Ministry of Natural and Environment
MOSTE	Ministry of Science, Technology and Environment
MoT	Ministry of Trade
MOT	Ministry of Transport
MPI	Ministry of Planning and Investment
MRDP	Mountain Rural Development Programme
NCSSH	National Centre for Social Sciences and Humanities
NFUAJ	National Federation of UNESCO Associations in Japan
NGO	Non-Governmental Organization
NOIP	National Office of Intellectual Property
ODA	Official Development Assistance
OECD	Organization for Economic Cooperation and Development
OJT	On the Job Training
PC	People's Committee
PCF	People's Credit Fund
PCT	Patent Cooperation Treaty
PPC	Provincial People's Committee
PPE	Personal Protective Equipment
PRA	Participatory Rural Appraisal
SA	Social Accountability
SBV	State Bank of Vietnam
SME	Small and Medium Enterprise
SMEPC	Small and Medium Enterprises Promotion Center
SNV	Netherlands Development Organization
SOE	State Owned Enterprise
STAMEQ	Directorate for Standards and Quality
SIYB	Start and Improve Your Business
TQM	Total Quality Management
UAE	United Arab Emirates
UNDP	United Nations Development Programme
UNICEF	United Nations Children's Fund
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

UNIDO	United Nations Industrial Development Organization
VACNE	Vietnam Association of Conservation of Nature and Environment
VARISME	Vietnam Association of Rural Industrial SME
VBA	Vietnam Bank for Agriculture
VBARD	Vietnam Bank for Agriculture and Rural Development
VBP	Vietnam Bank for Poor
VBSP	Vietnam Bank for Social Policies
VCA	Vietnam Cooperative Alliance
VCB	Vietcombank
VCCI	Vietnam Chamber of Commerce and Industry
VFSI	Vietnam Forest Science Institute
VIETRADE	Vietnam Trade Promotion Agency
VISERI	Vietnam Sericulture Cooperation
VNAT	Vietnam National Administration of Tourism
VNCP	Vietnam National Cleaner Production Centre
WB	World Bank
WIPO	World Intellectual Property Organization
WTO	World Trade Organization
WTO	World Tourism Organization
WU	Vietnam Women's Union
WWF	World Wildlife Fund

第一部

パイロットプロジェクト

1. はじめに

1.1 パイロットプロジェクトの目的と方法

パイロットプロジェクトは、マスタープランで作成し提案しようとする工芸セクターの開発・整備・改善手法が、政策として適用可能であること、もしくはパイロットプロジェクトの実施によって得られた教訓が適切な政策形成につながることを明らかにすること、さらにパイロットプロジェクトを通じて、他地域や他分野に適用可能な反復性のあるモデルを構築することを目的に行なうものである。

マッピング調査の結果と、調査団員や現地専門家による現地調査の結果を基に、問題点の抽出、問題改善策、主要課題への対処方針が立てられた(表 1.1.1 参照)。その後、第2回ステアリングコミッティ(2002年11月8日開催)にて、モデル省としてハタイ省(北部)、クアンナム省(中部)、アンザン省(南部)、ライチャウ省(山岳地域・北部)の4つが選定された。

表 1.1.1 工芸セクターに関わる主要課題

主要課題	課題の内容
原材料の確保	地場で入手していた原材料が枯渇し、村で生産が続けられない、安い原材料を購入して利用するため製品の品質が悪化するなどの弊害が出ている。工芸村での持続可能な工芸生産を維持するためにも、原材料不足の課題は政府から工芸村まで、各レベルが早急に対処すべき重要課題である。
技術改良	工業化の進展と市場の変化につれ、一部の工芸品製作のプロセスに機械が導入され、労働負担を減らし、品質向上に貢献する一方で、伝統的に受け継がれてきた技術が失われつつある。機械作業を伴わない工程の存在が農村の雇用促進に貢献している側面を重視し、「手づくり」が市場での差別化と競争力につながることを配慮した上で、技術改良の対応策を進めていく必要がある。
品質改善	工芸品の品質は、原材料の品質と生産技術の品質、それらの管理と改善努力にかかっている。しかし工芸村では技術・設備不足や品質基準が存在しないこと、また品質検査を行なう公的機関が存在しないことから、品質の向上と平準化が必要とされている。
生産工程	工芸関連企業のほとんどが、バイヤーの希望する仕様、納期に対応した受注生産形態をとっている。作業員や下請け業者の技術的未成熟、作業員や家内工業で発生する不良品の修正・つくり直しの発生、材料・原材料保管場所の未整理によるムダの発生等が長い納期の原因となっている。生産工程の改善のためには、企業内だけでなく、産地及び地元行政の取り組みの双方が必要である。
デザイン	伝統工芸品の中にある技術を活用した製品や、既存技術を活かした異素材との組み合わせによる新しい製品の開発など、伝統技術・技法の活用が重要になってきている。伝統工芸品のデザイン振興の基本的方向は、伝統的資源を活かしつつデザインの方法を導入することである。デザインに対する共通認識と、デザイン振興を支援するためのシステム整備が求められている。
情報	市場のニーズが分からないために、同じ工芸品を作り続けたり、外部(流通業者等)の注文にあわせて商品を改良したりすることがほとんどで、工芸村自らがマーケット情報にアクセスする手段をほとんど持ち合わせていない。工芸に関するデータ・情報が一元的に集積され、関係者・利用者が自由にアクセスできるような施設もシステムも存在しない。企業や工芸村での振興活動を活性化するためには、情報の一元化と、収集した情報を使いこなすためのノウハウや具体的なアクションが必要である。

…表 1.1.1 続く

表 1.1.1 続き…

主要課題	課題の内容
クラスター開発	工芸クラスターは共通のバイヤー、原材料供給者又はサービスプロバイダーを持った工芸生産者と企業の集合体である。これらの企業や生産者は同一の地域に集積しているために、地理的優位性を有する。いくつかの地域では既に競争力を持った工芸産業の集積がみられるものの、省政府や支援機関は生産クラスターの設立と開発に対するインセンティブを持たず、積極的かつ能動的な支援の手段を講じていない。工芸生産クラスターは共同化による活力向上と地域経済の活性化、競争力の優位性を高めるための共通の活動戦略を確立すべきである。
人材育成	工芸村の多くは、豊富な労働力には恵まれているものの、その技術力が不足しているために競争力に欠けている。政府が積極的に支援をしている人材育成プログラムは主に生産技術や経営者など、専門的な分野に特化しており、工芸セクター振興に必要な人材とは何か、という視点に欠けている。工芸村での技術不足と市場情報不足といった課題を解決するためには、優れた技術者の育成、商品開発に関わる人材の育成が必要である。
ビジネス・経営管理能力	創業者経営者は開発、マーケティング、品質管理、資金管理といったすべての機能を直接管理しており、組織的機能分担がない。つまり企業は、経営者が不在になると企業活動自体が機能停止する脆弱な構造にある。経営マネジメントの向上のための体質改善や経営者教育が求められている。
労働環境	環境汚染産業の管理の必要性に対する認識は高まりつつあるが、小規模家内工業型の工芸製作には関心が払われておらず、工芸製作による健康への影響に関する調査や情報はほとんど存在しない。労働環境に関する生産者の意識向上と、政府による環境改善システムが求められる。
金融・資金	農村部や貧困層を対象にした制度金融は存在するが、零細企業や工芸村での生産者・輸出者にとって借りやすいシステムとなっておらず、資金不足に陥っている。工芸生産の仕組みや資金借入目的に適った、適切な金融システムの構築が必要である。
流通	工芸村の製品が都市部の市場に出るまでには、多くの仲介業者が存在する。工芸村には市場情報が存在しないため、適正な価格設定や品質改善が出来ず、競争力を失っている。仲介業者がBDSプロバイダーとしての役割を果たしながら、公正な流通システムを構築する必要がある。
マーケティング	市場で売れる製品を作るためには、技術と品質だけでなく、宣伝広告、流通対策、価格対策、環境対策など総合的なアプローチが必要になる。商品開発プロセスのノウハウがベトナムには存在しておらず、工芸村では市場に対応したものづくりをするための技術と人材が求められている。
観光とのリンク	観光地や都市近郊部では、観光客をターゲットとした工芸村の開発が進んでいる。また、少数民族は観光客への直接販売が唯一の現金収入となることが多い。工芸振興による観光開発に対する政府や地域の関心は高いが、観光開発によるプラス（販売促進など）とマイナス（伝統の変化など）の影響に配慮しながら、地域の人々と共に検討を進める必要がある。
自然環境への影響	工芸品は元来、地場の原材料を用いながらも、環境との共生に配慮した地場産業である。しかし木材や土などの原材料の枯渇、排水や空気汚染による工芸村の環境汚染など、工芸が盛んになるにつれて、自然環境へ与える影響が大きくなっている。持続可能な工芸振興のためには、政府レベルでの検討と、環境にインパクトを与えない工芸産業振興のための、産地（原材料流通業者、企業、工芸村）への適切な指導が必要である。
少数民族の支援	少数民族にとって工芸品は自家消費が主であるが、ベトナムの文化的財産であり、地域固有の伝統的価値である。政府による少数民族の支援と工芸振興にあたっては、少数民族の多様性や抱えている問題点を十分に理解したうえで、地元政府や NGO との連携を図りながら進める必要がある。
伝統的価値の保全	伝統的な工芸品は数百年の長い歴史をかけてベトナムの風土に調和し、地域固有の文化として根付いてきたものであるが、政府や人々の工芸振興の関心は市場価値や経済発展に向いており、工芸品の伝統的価値を評価し保全するための土壌が未熟である。伝統的な工芸品の弱点は、その限られた市場と商品価値の低さにあり、伝統的価値の保全と、それを商品価値として活用する方策が求められている。

出典: JICA 調査団作成

1.2 パイロットプロジェクトの概要

先に掲げた主要課題に取り組むための8件のパイロットプロジェクト案を作成し、第3回ステアリングコミッティ(2002年11月8日開催)で合意を得たのち、各パイロットプロジェクトのタスクフォースを中心に活動を開始した(2002年11月～2003年9月実施、図1.2.1、表1.2.1、表1.2.2参照)。また、2003年8月より9件目のパイロットプロジェクトとして「ベトナム工芸コンペティション」を実施した(2003年8月～2004年1月実施)。

図 1.2.1 パイロットプロジェクト実施地域

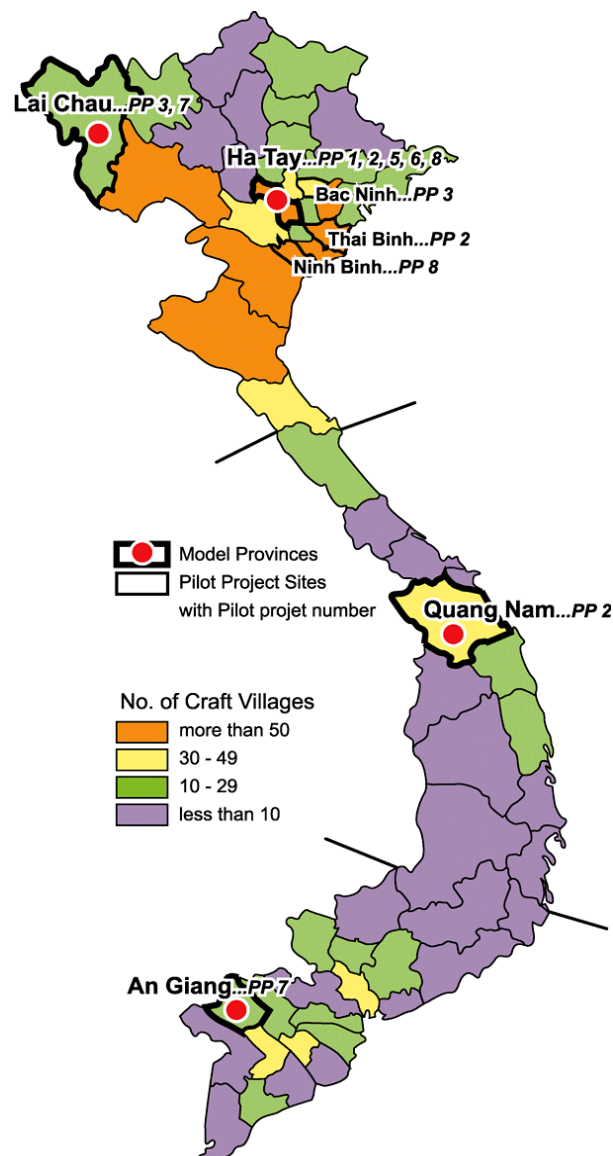


表 1.2.1 パイロットプロジェクトの概要

プロジェクト名	目的・成果品	越側の中心となる実施機関	対象候補地域・工芸品目等
1. 工芸情報システム	<ul style="list-style-type: none"> 工芸情報（マッピング調査結果、調査での収集情報、工芸品、工芸村、工芸家、BDS プロバイダー、マーケット等）の公開 モデル省における機材供与と利用方法のトレーニング 工芸情報システムネットワークの構築 ① ウェブサイトの構築 ② 工芸情報システムの提案 	MARD	<ul style="list-style-type: none"> 全 61 省(ただし4モデル省が機材供与、トレーニング対象) 全 11 品目
2. 工芸クラスター開発	<ul style="list-style-type: none"> 工芸振興のためのクラスター開発戦略の策定（ビジネスインフラ整備、BDS プロバイダーの育成） コーポラティブや民間工芸製造業者を対象とした、経営改善、製造工程改善、作業現場改善に関するトレーニングコースの実施 工芸品の品質改善と検品制度（絹製品）の確立 ① 開発戦略プランの構築 ② マニュアル（トレーニングシステム）の作成 ③ 支援制度の提案 	ハタイ省 DOI、クアンナム省 DARD、タイビン省 DOI、各省職業訓練校、VCA、VARISME	<ul style="list-style-type: none"> ハタイ省、クアンナム省について竹・籐製品、木工の2品目 検品制度についてはタイビン省の絹製品を加える
3. 工芸の伝統的価値保存システム構築	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的工芸品の発掘と定義 工芸村の歴史的背景や工芸製作に関わる情報（伝統的工芸品、マスターアルティザン等）の収集・記録・文書化方法の確立 ① モデル研究報告書 ② 研究方法と体制の確立 	ベトナム民俗学博物館、地方政府・人民委員会	<ul style="list-style-type: none"> バックニン省ダイバイ村（ブロンズ）、ライチャウ省ナサンII村（ラオ族織物）
4. 工芸品振興のためのデザイン振興策の構築	<ul style="list-style-type: none"> 「デザイン」の概念の整理とデザイン行政のための定義づけ デザイン振興のための制度及び機構のあり方 デザインプロジェクトのためのモデル戦略の提案と実施 ① デザインガイドの作成 ② デザイン振興支援制度・組織の提案 ③ デザイン振興モデルアクションプラン 	ハノイ工業デザイン大学、VCA、VCCI	<ul style="list-style-type: none"> 対象地域は指定しない 全 11 品目
5. 国際競争力のある工芸品開発	<ul style="list-style-type: none"> 国際競争力を持つ商品開発を可能にするノウハウの習得 マーケットニーズに応える品質の高い商品開発と開発プロセスの指導 ① 商品開発から市場評価までのノウハウのモデル化 ② 工芸品開発コーディネーター育成の提案 	ハノイ工業デザイン大学	<ul style="list-style-type: none"> ハタイ省、ナムディン省、バックニン省 石彫・漆器、金属、木彫の4品目
6. 工芸村の環境改善	<ul style="list-style-type: none"> 工芸村、工芸従事世帯での環境問題（工芸廃棄物処理、原材料、労働環境等）の実態把握と改善 ① 工芸村の地域環境や家内製作での労働環境の改善のためのアクションプランの提案 ② 工芸製作に関わる環境ガイドライン（基準）の提案 	ハタイ省 DOI、DOSTE、人民委員会	<ul style="list-style-type: none"> ハタイ省ヴァンフック村（絹織物）
7. 少数民族のマネジメントキャパシティ向上	<ul style="list-style-type: none"> 少数民族コミュニティの工芸生産販売プロセスでのマネジメント能力の強化 トレーニングの実施 ① マネジメント改善マニュアルの作成 ② 少数民族支援方策の提案 	クラフトリンク（NGO）、女性連合、DARD、人民委員会	<ul style="list-style-type: none"> ライチャウ省タラカオ村（モン族織物）、アンザン省ヴァンザオ村（クメール族織物）
8. 工芸村開発戦略	<ul style="list-style-type: none"> 工芸村での参加型開発計画策定の可能性と方向の検討 工芸活動の組織化の検討 ① 工芸村開発戦略とアクションプラン ② 参加型工芸村開発マニュアル（PRA マニュアル） ③ 政府による支援メカニズム（組織、財政、人材育成、技術指導等）の提案 	ハタイ省 DOI、ニンビン省 DARD、コミュニケーション人民委員会、首相府、CIEM	<ul style="list-style-type: none"> ハタイ省ハータイ村（漆器）、ニンビン省 No.8 村（い草）
9. ベトナム工芸コンペティション	<ul style="list-style-type: none"> 「ベトナム人の生活の質を高める工芸品」を全国から公募 工芸への認識を高め、工芸振興活動のムーブメントとして位置づける ① 工芸コンペティション審査会の開催 	MARD、MOCI	<ul style="list-style-type: none"> 全国 全 11 品目

表 1.2.2 パイロットプロジェクトの実施機関及び対象

パイロットプロジェクト	実施機関 ¹⁾ (タスクマネージャー)	関係機関	地方政府 ²⁾	プロジェクト対象地域			対象工芸品			
				ディストリクト	コミューン	工芸村				
工芸情報システム	DAFPPSI of MARD(Mr. Ha Son)	-	4モデル省 DOI・DARD	-	-	-				
工芸クラスター開発	ローカルコンサルタント (Mr. Dinh Van Khoi)	VCA、VARISME、ハタイ省美術工芸学校、クアンナム省職業訓練学校	ハタイ省 DOI*	Thach That	Binh Phu	Thai Hoa	竹・籐製品			
				Chuong My	Phu Nghia	Phu Vinh	木彫			
				Thuong Tin	Ninh So	Xam Duong 3	木彫			
				Hoai Duc	Son Dong	Son Dong	竹・籐製品			
				Thanh Oai	Thanh Thuy	Du Du	竹・籐製品			
				Thuong Tin	Van Diem	Van Diem	木彫			
				Phu Xuyen	Phu Tuc	Luu Thuong	ガラス			
				クアンナム省 DARD*			Duy Xuyen	Duy Son	Tra Kieu	木工製品
				Duy Xuyen	Duy Phuoc	Hamlet 3	木工製品			
				Nui Thanh	Nui Thanh	Hamlet 3	木彫			
				Tam Ky Town	Tan Phu	Tam Phu	竹・籐製品			
				Tam Ky Town	Tan Thanh	Phan Boi Chau St.	竹・籐製品			
				Hoi An	Cam Kim	Kim Bong	竹・籐製品			
				ローカルコンサルタント (Ms. Chu Thanh Hang)	中央養蚕研究所 (CSRO)	タイビン省 DOI*、コミューン女性連合、DOSTE	Kien Xuong	Nam Cao	Nam Cao	絹製品
工芸の伝統的価値保存システム構築	ベトナム民族学博物館 (Prof. Nguyen Van Huy 及び調査員)	-	バックニン省	Gia Binh	Dai Bai	Dai Bai*	ブロンズ			
			ライチャウ省 DARD*	Dien Bien	Nua Ngam	Na Sang II	ラオ族織物			
工芸品振興のためのデザイン振興策の構築	ベトナム工業デザイン大学 (Mr. Le Huy Van)	VCA、VCCI、NCSSH	-	-	-	-	-			
国際競争力のある工芸品開発 ³⁾	ベトナム工業デザイン大学 (Mr. Phan Hoa 及び卒業生)	-	ハノイ	Hai Ba Trung		Bach Mai St.	漆器			
			ハタイ省	Thuong Tin						
			ハタイ省	Thuong Tin	Nhan Hien	Hien Giang hamlet	木彫			
			ハタイ省	Thuong Tin	Nhan Hien	Hien Giang hamlet	石彫			
			ナムディン省	Y Yen		Lam Town	ブロンズ			
			バックニン省	Gia Binh	Dai Bai	Dai Bai				
工芸村の環境改善	ENTEC (Dr. Phung Chi Sy)	-	ハタイ省 DOI*、DONE、タウン PC	Ha Dong Town		Van Phuc	絹製品			
少数民族のマネジメントキャパシティ向上	クラフトリンク (Ms. Tran Thi Thu Huong)	-	アンザン省 DOI*、コミューン女性連合	Tinh Bien	Van Giao	Van Giao	クメール族織物			
		-	ライチャウ省 DARD*、コミューン女性連合	Tua Chua	Xinh Phinh	Ta La Cao	モン族刺繍			
工芸村開発戦略	ローカルコンサルタントチーム (Ms. Nguyen Thi Thanh Tam&Ms. Nguyen Thi Thu Que)	首相府、CIEM	ハタイ省 DOI*、ニンビン省 DARD*、コミューン人民委員会	Thoung Tin	Duyen Thai	Ha Thai	漆器			
				Kim Son	An Hoa	Village. No 8	い草			
ベトナム工芸コンペティション	コンペ事務局 (Mr. Hoang Duc Toan, Dep. of Fine Art, MOCI 他)	MARD, MOCI	-	-	-	-	-			

1) 実施機関は、政府機関、大学、博物館、NGO などの組織またはベトナム人コンサルタントであり、いずれも各 PP に対応した専門技術を持ったタスクフォースである。

2) *は、政府内スタッフがカウンターパートとしてプロジェクト活動に直接参加した省政府である。

3) PP5 では特定の地域ではなく、マスターアルティザンや優れた技術を持った職人を対象にプロジェクトを選定した。

2. パイロットプロジェクト

2.1 工芸情報システム

2.1.1 背景

工芸マッピング調査からも明らかなおり、工芸セクターの情報は不足し、必要な情報を入手できない状況下にある。情報不足によって引き起こされる問題として、1)生産者にとってマーケットやデザインの情報不足により、技術やデザインの向上の機会が不足する。2)流通業者にとって流通の実態や新製品の情報が不足する。3)消費者にとって工芸品に関する一般的な情報が不足する。4)行政にとってベトナムの工芸及び工芸村の総合的情報と、工芸セクターを管理する情報ネットワークが不足する。などがあげられる。

政府はこのような工芸村の現状と抱えている課題を理解した上で支援をする必要がある。しかし工芸村の情報やデータは欠如し、工芸セクターに関する情報ネットワークが確立されていないため、これらの支援がうまく機能していない。

2.1.2 目的とアウトプット

本パイロットプロジェクトの目的は、工芸情報ウェブサイトの構築を通じて工芸セクターに関わる人材や組織の情報を共有し、連携を図ることにある。情報収集の過程で、MARD が工芸情報の管理を行ない、他の関連省庁や省政府とのネットワークを確立することが目的である。

- (イ) MARD 工芸ウェブサイトの構築:生産者(工芸従事世帯、組織、企業等)、流通業者、消費者、行政が共有できるベトナム工芸情報をウェブサイト上に構築する。
- (ロ) トレーニングコースの実施と技術移転:ウェブサイト構築と管理にあたって必要な技術移転を行なう。対象者は MARD 及び関連省庁とし、ウェブサイトの使用方法や簡単なページ作成技術を身につける。
- (ハ) 工芸情報システムの構築:中央政府レベルでのウェブサイト情報管理プログラムの提案とともに、長期的な工芸セクターと地域振興に向けた、中央政府から工芸村レベルまでの情報リンケージを図るためのネットワークを強化する。

プロジェクトの成果品は以下の通りである。

- (イ) 工芸情報ウェブサイト(www.mard-craft.org.vn)
- (ロ) 工芸情報システムの提案
- (ハ) インターネット及びウェブデザインのトレーニングマニュアル

2.1.3 タスクフォース

タスクフォースは以下のように構成される。

カウンターパート: MARD
タスクマネージャー: Mr. Ha Son (DAFPPRI of MARD)
ローカルチーム: Mr. Nguyen Minh Duc
Mr. Vu Thanh Trung
Ms. Duong Huong Lien
JICA 調査団: 岡村 直 (システムエンジニア)
Mr. Edlin ROGUEL (ウェブデザイン)
阿部 朋子 (情報システム)

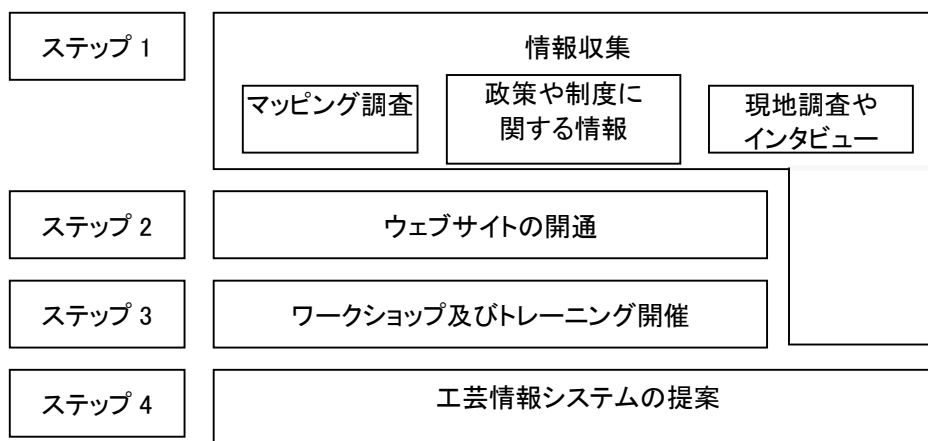
2.1.4 対象地域と工芸品目

ウェブサイトで公開する情報は全 61 省と全国の工芸村及び対象 11 品目(い草、漆器、竹・籐製品、陶器、刺繍、織物、木工、石彫、紙、版画、金属)である。4モデル省については必要な機材供与及び技術移転を行なう。

2.1.5 実施スケジュール

パイロットプロジェクトの実施スケジュールは以下の通りである。

図 2.1.1 PP1 実施スケジュール



2.1.6 活動内容

1) 主な活動内容

パイロットプロジェクトの主な活動は以下の通りである。

- (イ) ウェブサイト情報の収集: 全国工芸マッピング調査、省へのインタビュー調査、既存文献、及びこれまでの現地調査で収集した情報について、ウェブサイトで掲載すべき情報について整理し、コンテンツを作成する。
- (ロ) ウェブサイトの公開: 主に①本調査の概要と進捗、②工芸振興に関わる情報、の2つに大別された情報をウェブサイトとして作成し、公開する。

- (ハ) トレーニングコースの開催:MARD 及び4モデル省を対象としたトレーニングコースを開催する。機材供与・接続後、インターネットや電子メールへのアクセス方法、データ収集及び管理方法等についてレクチャーを行なう。
- (ニ) 工芸情報システムに関する提案:工芸に関わる情報の整理と、政府による情報支援、管理体制などを取りまとめた工芸情報システムを作成し、政府関係者や関係機関とこれらのシステムについて協議する。
- (ホ) ハノイセミナーの開催:工芸ウェブサイトの内容及び関係者によるウェブ活用状況報告と、今後の工芸情報システムの方向性等について議論を行なうためのセミナーを開催する。

2) ウェブサイトの内容

MARD や関係機関との議論に基づいて作成したウェブサイトの主要な機能とカテゴリは以下の通りである(表 2.1.1 参照)。

- (イ) ベトナム工芸セクターの包括的な情報データベースを構築する
- (ロ) MARD 及び関係機関で情報を交換する
- (ハ) 地方政府や工芸従事者に対して必要な情報を供給する

表 2.1.1 工芸情報ウェブサイトのカテゴリ

カテゴリ	ウェブページ	情報
ホーム	調査の概要、パイロットプロジェクト、機構及び政策、クラフトニュース	<ul style="list-style-type: none"> • 工芸及び工芸村の包括的情報、MARD-JICA 調査の進捗
工芸	省情報、工芸村情報、工芸品情報、関連組織(コーポラティブ、アソシエーション、職業訓練校、大学、NGO、ドナー等)	<ul style="list-style-type: none"> • 中央から村レベルの工芸関連情報、全国的な工芸品及び工芸村の分布状況と実態
その他	トレードフェア、展示会、セミナー等	<ul style="list-style-type: none"> • 工芸セクターに関する活動
リンク	関連省庁、VCA,VCCI, Vietrade, NGO,政府関係組織等	<ul style="list-style-type: none"> • マーケット情報及びEコマース

出典:JICA 調査団作成

2.1.7 実施上の問題点と課題

工芸品と工芸村に関する情報不足:戦争や貧困によって、工芸品、特に伝統的な工芸品についての情報は保存されておらず、非常に限られている。また、多くの工芸従事者は自分たちの製作する工芸品が例え歴史が古く伝統的であったとしても、その価値を十分に認識していない。

さらに、政府レベルでは村レベルの統計的な情報やデータはほとんど存在しない。工芸村の情報やデータを選ぶには、調査員は村に出向き情報を直接入手する必要がある。中央政府や省政府は、人気が高く、また復興の必要のある伝統的な工芸村については十分な情報を得ているが、貧しくて支援を必要としているその他の多くの村についてはその実態を把握して

いない場合が多い。

工芸情報の核となる組織の欠如:ベトナム工芸の情報を収集し、提供するための核となる組織は政府、非政府機関のどちらにも存在しない。中央政府や省政府は工芸村や生産者とのコミュニケーションが欠如しているため、その現況を把握することが難しい。

不十分な情報フロー:民間企業は海外市場にネットワークを持つ大規模な流通業者のみに接触し、情報を得ている。しかし工芸産業を支える多くの中小・零細企業は市場へのアクセスが欠如し、農村部の工芸従事世帯に直接接触することは少ない。そのために貧しい家内工業は価格や市場価値などに関する情報を得ることが出来ず、市場価格に比べて、十分な利益を受けることが出来ずにいる。

2.1.8 活動結果

ウェブサイトの設立:活動は計画通りの進捗が見られ、MARDに工芸情報ウェブサイトが設置された。2003年5月より情報の更新についても活動を開始している。またこの工芸ウェブサイトはMARDの公式サイトとなることから、ビジネス・マーケット情報は他のサイト(VCCI、Vietrade、JETRO等)とリンクさせ、MARDのウェブサイトではその基本となる工芸・工芸村情報を適切に開示することで、互いに不足する情報を補完することが出来るようになった。

モデル省との情報伝達:4つのモデル省に対し、工芸情報システム確立のための技術訓練と実施と機材供与により、特にこれまで電話以外の情報伝達手段が無かった山岳地帯のライチャウ省についても電子メールによる情報伝達が可能となった。

工芸村・工芸品の情報提供:工芸マッピング調査で得られた情報やデータをウェブサイトで公開することにより、全国の工芸分布状況が把握できる。データの精度向上と、定期的なフォローアップ調査により、政府機関や調査研究機関にとっては分析に活用できる統計データとして、バイヤーにとっては産地情報の入手先として、工芸村にとっては情報提供ツールとして活用することが出来る。

2.1.9 得られた教訓

インターネットの普及率は都市部に集中しており、地方での普及は進んでいない。特に山岳地帯では通信インフラが未整備であり、ITによる情報支援活動には限界がある。インターネットによる情報は主に都市部の企業、海外、観光客を対象にした内容を充実する必要がある。

農村部での工芸従事者や工芸村に対する情報支援は、その内容だけでなく、活用方法についても指導できるような体制が必要である。すなわち工芸従事者は、「何が売れているか」「何をどこに売ればよいか」という商品情報を主に必要としているが、実際にはそのような情報を得られても、その情報を咀嚼し、自らの商品開発につなげる能力も社会的な環境も不足している。市場や情報から孤立している工芸従事者に対しては、単に情報を提供するだけでなく、そ

の情報を使えるように教育や参加の機会を与えることが必要である。また、工芸村内で情報収集の核となるグループや個人(起業家)などを見つけ、彼らを中心にこれらの活動を進め、広く普及させていくことが望まれる(表 2.1.2 参照)。

表 2.1.2 工芸村に対する情報支援

情報	情報入手の手段	情報活用のための支援
生産している工芸品の市場評価(市場、価格、人気)	産地組合の形成による共同の情報収集	産地組合活動に対する省政府の財政支援
	消費者と産地をつなぐ直接販売(フェアトレード等)	NGO や政府による生産者グループに対する技術・資金支援
	市場調査や展示会への参加	省政府による市場調査の実施、展示会の開催
	インターネット上での工芸品関連の情報収集	情報通信設備の整備 IT 研修会の開催
	工芸村の観光客による消費者評価	省政府による観光ルート設定
	省中心部でのアンテナショップ設立	アンテナショップの場の提供 観光業との連携
近郊部の同業種・異業種の工芸品・工芸村	産地ブランドの形成と、産地直売会の開催	産地組合活動に対する省政府の財政支援
	産地間や企業間の技術交流	技術交流会の場の提供と財政支援

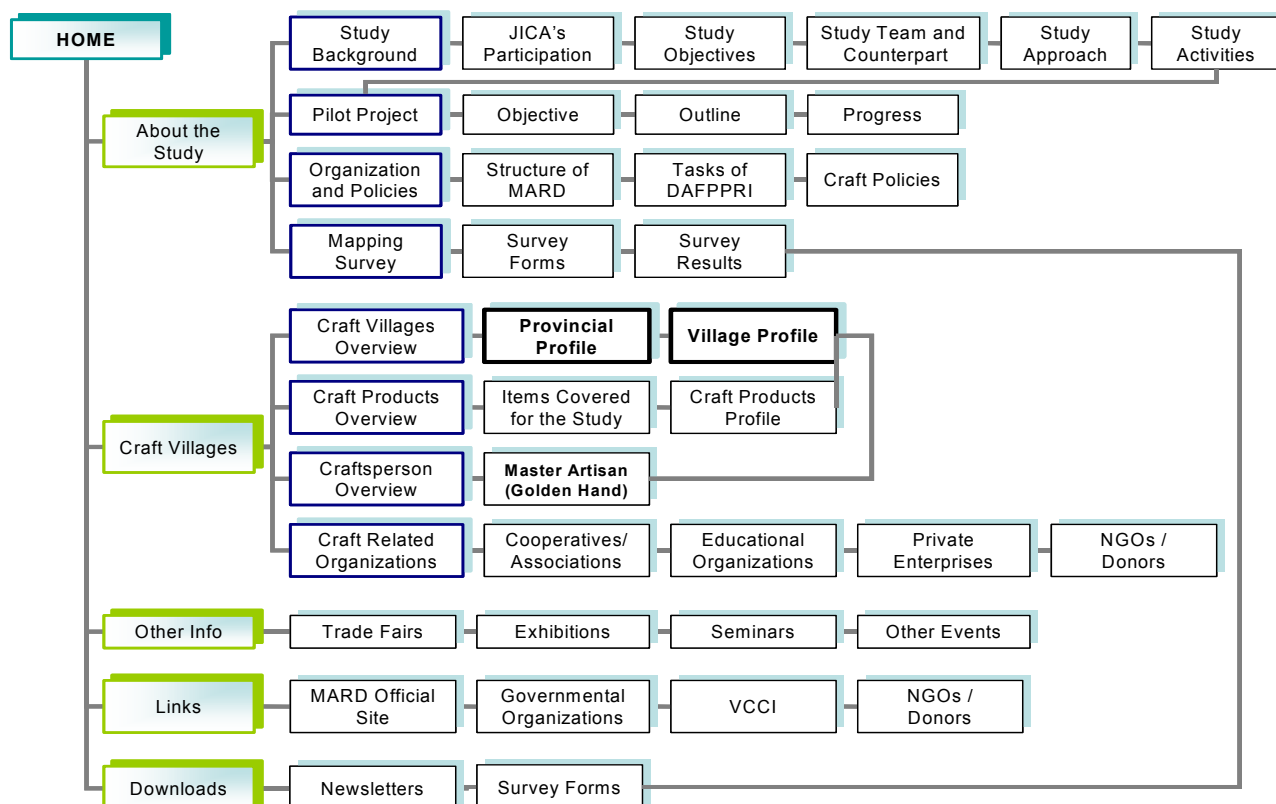
出典: JICA 調査団作成

2.1.10 マスタープランへの提言

工芸情報は各課題に横断的に関わる重要課題である。政府間での問題意識の共有と役割分担が明らかになった上で、各政府が担当すべき課題に関する情報、民間セクターが必要とする情報、産地としての工芸村が必要とする情報を収集し、一元化する。さらにその情報を使い新たな活動を生み出すための機会を定期的に提供するなど、情報蓄積→情報提供→情報活用の三段階で工芸情報システムを構築する必要がある。

- (イ) 情報から孤立した農村部の工芸村に対する、各種支援(技術・経営指導等)と一体となった情報提供と、様々な活動への参加の場の提供
- (ロ) 参加意欲のある中小企業を対象にしたセミナーやイベントを通じた情報提供と、交流の場の提供
- (ハ) 省政府での地場産業振興を目的とした産地情報の収集と調査
- (ニ) 各課題(技術指導、デザイン、伝統保全等)に対する民間の専門組織の設立と活動支援
- (ホ) 政府傘下機関として、工芸関連情報を一元化する工芸振興組織の設立

図 2.1.2 MARD 工芸ウェブサイトの構造



出典: JICA 調査団作成

2.2 工芸クラスター開発

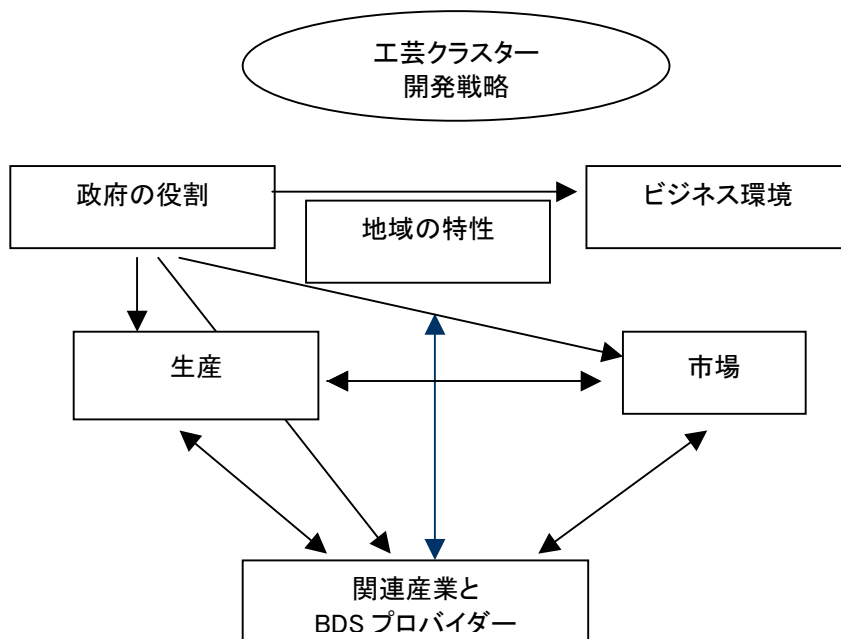
2.2.1 背景

ベトナムの伝統工芸開発を進めるうえで重要な問題は、競争力を如何に高めるかということである。この競争力とは、ただ単に、安価な労働力、自然資源、政府によるインセンティブの付与といった比較優位に焦点を置くのではなく、長期にわたって持続的な競争力の優位性に焦点を置くのである。工芸産業の競争力の優位性を確立するためには、次の相互に関連する2つの要因が重要である。

- (イ) 共通の戦略ビジョンに向けての、民間と公営企業、融資機関、BDS プロバイダー、大学及び職業訓練機関、政府の政策・法令、業界団体・専門分野別団体、マーケティング活動による相互の協力
- (ロ) 競合地域の製品と差別化できる当該地域の能力

そうしてこのような工芸産業の競争力の優位性は工芸クラスターの設立によってさらに高めることが出来る(図 2.2.1 参照)。

図 2.2.1 工芸クラスター開発の構成要素



出典:JICA 調査団作成

マッピング調査結果からも明らかなように、工芸村は都市部を中心とした省に分布している。このような地域は競争力を高め、様々な工芸品の輸出に貢献しながら成長していくことが望ましい。しかし工芸品開発に関する政府の政策は工芸村レベルでは不明確であり、それゆえに工芸セクターを競争力があり、かつ持続可能なものとするだけの資源や機会に欠けている。また、消費者は手作りの工芸品をより高い値段で買うという傾向に見合うためには、国際的な基準にあった品質に改良していく必要がある。

2.2.2 目的とアウトプット

本パイロットプロジェクトの目的は省レベルの工芸振興政策及び工芸クラスターの振興活動について支援を行なうことであるが、クラスター開発の全ての分野について十分な検討を行ったわけではなく、「経営管理者及び工芸技術者の能力開発及び確保」と「省政府による工芸クラスター開発政策・政策手段」、さらに「絹製品の品質基準と検定制度の設立」に重点を置いて実施された。成果としては以下があげられる。

- (イ) ハタイ省及びクアンナム省を対象とした、工芸クラスター開発戦略の策定及び工芸クラスター開発に係わる関連機関との連携の確立
- (ロ) 経営管理、生産工程、技術改善に関する診断プログラムのためのトレーニングマニュアル
- (ハ) タイビン省を対象とした、黄繭、蚕糸、絹織物の検定制度及び品質基準の策定

2.2.3 タスクフォース

タスクフォースは以下のように構成される。

カウンターパート	MARD, ハタイ省 DOI, クアンナム省 DARD, タイビン省 DOI, VARISME
タスクマネージャー:	Mr. Dinh Van Khoi(ハタイ省及びクアンナム省担当) Ms Chu Thanh Hang(タイビン省担当)
MARD カウンターパート: プロジェクトマネージャー:	Ms. Thanh Thi Ngoc Son(DAFPPRI of MARD) Mr. Nguyen Xuan Chinh(ハタイ省 DOI) Mr. Tran Thanh Diep(クアンナム省 DARD) Mr. Vu Thanh Xuan(タイビン省 DOI)
ローカルチーム:	DOI (5 名), 職業訓練校 (2 名), VARISME (2 名) DARD (1 名), 職業訓練校 (1 名), Tam Ky town PC (1 名), 民間企業 (1 名) DOI (1 名), 養蚕専門家 (2 名), 女性連合織物専門家 (2 名), 民間企業 (1 名)
JICA 調査団:	堀口一則(産業開発戦略/政策・制度) 黒田一光(製造技術/生産工程/経営改善) 藤田健司(生産工程改善) 吉田信明(絹産業) 浅井英成(検定)

2.2.4 対象地域と工芸品目

対象省は北部のハタイ省及び中部のクアンナム省の竹・籐製品、木工品、及び北部タイビン省の絹織物である(表 2.2.1 参照)。選定理由は下記の通りである。

- (イ) ハタイ省は本調査での北部のモデル省である。ベトナム全土で最も工芸村数が多く、省政府の工芸振興に対する意欲が非常に高い。工芸村の集積はみられるものの、クラスター開発の考え方についてはまだ共通認識がなされておらず、今回のパイロットプロジェクトを通じてクラスター開発に向けた取り組みが一層高まると考えられた。
- (ロ) クアンナム省は本調査での中部のモデル省である。比較的新しい省で、山岳地帯も多く、工芸品の原材料供給地としてもポテンシャルが高い。また世界遺産のホイアンが位置し、観光開発のポテンシャルもある。工芸村数は少なく、集積もまだみられないものの、今後の省の工芸振興にクラスター開発の考え方が活用できると考えられた。
- (ハ) タイビン省は北部でハタイ省に次いで工芸村が多く集積する省であり、省政府の工芸振興に対する関心が高い。今回絹製品の品質向上を目的としたプロジェクトを実施するにあたって、絹製品の技術開発、普及、蓄積の可能性を持つ組織である CSRO(中央養蚕研究所)の支局が存在し、養蚕、製糸、織物業が併在するタイビン省を選択した。
- (ニ) 竹・籐製品はベトナムで最も工芸村数が多い工芸品であり、工芸村が集積していることが多い。また、木工品は高い技術を要求され、輸出量が多い工芸品である。いずれもベトナム工芸品としての開発ポテンシャルの高い工芸品で、今回のプロジェクトを通じて国際競争力を高めることの出来る品目と考えられた。
- (ホ) 絹製品はベトナムの伝統的な手織技術が残る一方で、機械化によって大量生産が進め

られ、輸出量の増えている工芸品である。しかし未だに品質が悪く、検品制度がないために安価で近隣諸国に輸出されている。工芸品が国際競争力を高めるために品質の安定化は欠かせないが、なかでも絹製品は特にその改善効果が得やすいと考えられた。

表 2.2.2 PP2 対象地域及び対象工芸品

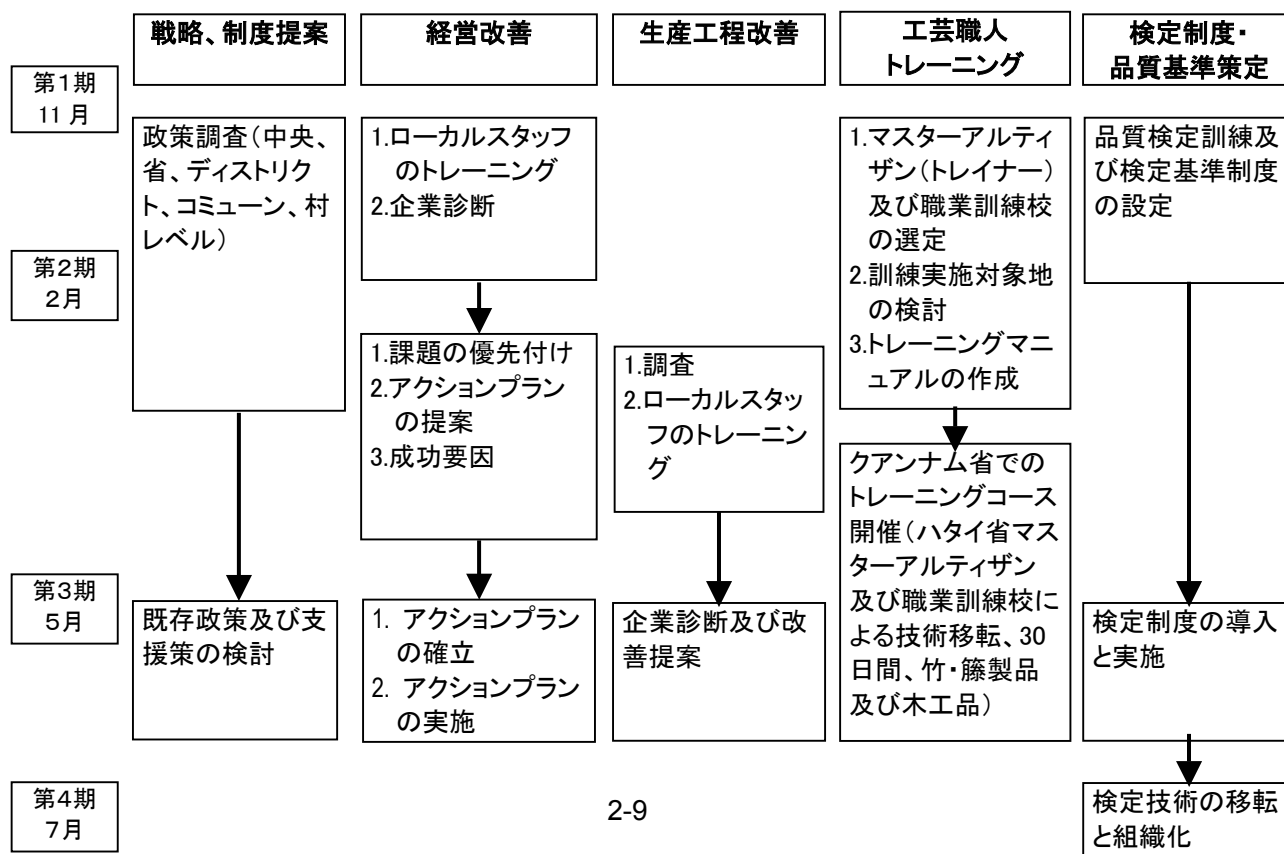
省	ディストリクト	コミューン	工芸村	工芸品
ハタイ Ha Tay	Thach That	Binh Phu	Thai Hoa	竹・籐製品
	Hoai Duc	Son Dong	Son Dong	木彫品
	Thanh Oai	Thanh Thuy	Du Du	木彫品
	Chuong My	Phu Nghia	Phu Vinh	竹・籐製品
	Thuong Tin	Ninh So	Xam Duong 3	竹・籐製品
		Van Diem	Van Diem	木彫品
Phu Xuyen	Phu Tuc	Luu Thuong	グラス	
クアンナム Quang Nam	Tam Ky Town	Tan Phu	Tam Phu	木工品
		Tan Thanh	Phan Boi Chau St.	木工品
	Hoi An	Cam Kim	Kim Bong	木彫品
	Duy Xuyen	Duy Son	Tra Kieu	竹・籐製品
		Duy Phuoc	Hamlet 3	竹・籐製品
Nui Thanh	Nui Thanh	Hamlet 3	竹・籐製品	
タイビン Thai Binh	Kien Xuong	Nam Cao	Cao Bat	絹製品
	Thai Binh	Phu Khanh	Phu Khanh	絹製品

出典: JICA 調査団作成

2.2.5 実施スケジュール

実施スケジュールは下記の通りである。

図 2.2.2 PP2 実施スケジュール



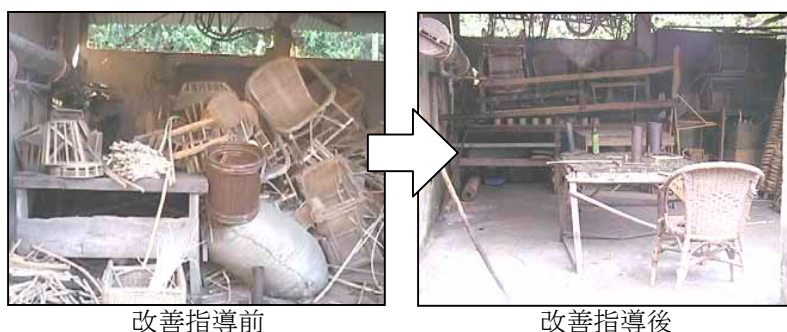
2.2.6 活動内容

(イ) 経営改善指導プログラム・作業改善指導プログラムの実施

ハタイ省、クアンナム省それぞれについて、省政府スタッフ(DARD,DOI)、VARISME(ハタイ省のみ)、企業経営者がローカルコンサルタントとして日本人専門家2名の指導を受けながら、竹・籐製品及び木工製品の13の工芸関連企業を訪問し、以下の2つの診断プログラムを7ヶ月間、3回に分けて実施した。

- (i) 経営管理能力及び指導者育成を図るための指導プログラム:経営診断レーダーチャートの指導、経営診断の実習、改善指導の実習
- (ii) 作業・生産工程改善を図るための指導プログラム:「5S 運動」「赤札」¹⁾による、品質・作業分析技術の訓練、作業・生産性及び品質向上の改善策策定、改善案の実施と事後指導(図 2.2.3 参照)。

図 2.2.3 作業環境の改善(クアンナム省竹・籐コーポラティブの例)



(ロ) 工芸職人訓練プログラムの実施

工芸職人技術訓練の制度拡大及びベトナム国内での工芸技術の平準化を目的とした工芸職人育成・訓練プログラムを実施した。2003年5月19日から6月20日の1ヶ月間、ハタイ省のマスターアルティザン及び職人訓練校の技術者が、クアンナム省において木工及び竹・籐製品政策の技術指導を行なった(図 2.2.4 参照)。

図 2.2.4 工芸職人訓練プログラム(クアンナム省)







¹⁾ 5S 運動は職場の整理・整頓・清掃活動のこと。また赤札は作業場の不要物を取り除くように指示する赤い札を貼ること。いずれも製造業の作業現場管理で実施されている手法である。

(ハ) 絹製品の品質管理プログラムの構築と実施

工芸品の品質管理制度の確立に向け、適切な検品器の導入と利用による検品基準の設定、品質向上のためのプログラムを実施し、技術移転を行なった。はじめに生産者及び管理者が、蚕糸の品質基準策定及び絹製品管理者トレーニングのための共同調査を実施した。その結果、絹製品の生産工程を4段階に分けて各段階の課題を明らかにし、改善案を提案した(表 2.2.2 参照)。

表 2.2.2 絹製品の生産工程

	第1段階 黄繭の選定	第2段階 黄繭の煮沸及び糸つむぎ	第3段階 撚糸	第4段階 絹織り
生産工程				
課題	様々な地域から繭を購入するため品質にばらつきがある。これらの繭を無選別のまま混合するため、異なった品質の繭原料の特性を製品に反映することが出来ない。	一鍋高温製糸は生産性が高いが生糸品質が悪い。製糸時に使用した水が産地管理されていない為、水に起因した染ムラが多い。	染色技術の問題があり、市場より多くのクレームが寄せられている。また、撚糸技術不足により、生地割れする織物が生産されている。	撚糸技術が未熟なため、織物が生地割れをする。また手作業独特の味のある織物が生産されていない。
改善案	A.完全な繭、B.双繭、C.汚れ繭、D.その他と格付されねばならない。繭を受け入れた製糸工場で格付することから始めねばならない。	高温で煮て低温で製糸する二鍋低温製糸は、生産性は約20%低いが生糸の品質は安定する。再現性の高い製糸の技術改良が必要。製糸時に使用した水の産地管理を徹底する。	隣接するナムディン省、ハナム省では十分な品質の撚糸加工が行われており、生産地域間の技術交流が重要。	手作業道具の改良で再現性のある手織物の企画を充実させねばならない。

出典:JICA 調査団作成

2003年9月現在、タイビン省 DOI は、今回のプロジェクトを通じて得られた手織黄絹の品質基準を商標登録し、タイビン省絹製品としての品質基準とするために、省 PC の決定を得て、その後ベトナムの法律に基づく品質基準として認定されるよう、法的な手続きを進めている。

2.2.7 実施上の問題点と課題

1) クラスタ分析

クラスター開発戦略を議論するために、各工芸クラスターの要因と特徴の把握を行った。これにより、競争力の優位性と、それを強化する上での弱点と課題が明らかになった(表 2.2.3 及び表 2.2.4 参照)。

表 2.2.3 ハタイ省の工芸セクターにおけるクラスター分析

構成要素	優位性	弱点と課題
地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 工芸品の製作に長い歴史を持っている。 工芸品の製作には、家族を含め多くの生産者が関わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産者はあまり組織化されていない。 そのため、特定の産業集積としての利益を受けることが出来ない。
生産	<ul style="list-style-type: none"> 伝統工芸士の資格を有する人を含めて、多くの熟練技術者がいる。 殆どの製品は輸出される。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営管理及び生産工程管理が弱体である。 製品の品質、生産コスト、配送時間、新製品開発能力の面で、競争力には甥に問題がある。 資金源は限定されており、これに関して工芸産業側は十分な情報を得ていない。このため、工芸産業の事業拡大は困難になっている。 工場の敷地が狭く、生産地と居住地が混在して、環境問題を引き起こしている。
市場	<ul style="list-style-type: none"> 市場からの需要は拡大しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市場調査能力、販売力、市場動向の把握を行う人材の賦存状況を含めて、マーケティング能力は低い。 国際市場に対応する新製品のデザインを含めて、研究開発能力は低い。 市場情報システムは工芸産業にはまだ出来上がっていない。 工芸クラスターに関する情報の欠如、外国のバイヤーや観光客を含む国際市場に対するクラスターの販売促進活動が欠如している。
関連産業及び BDS プロバイダー	<ul style="list-style-type: none"> ハノイに近く、多くの工芸関連産業や BDS プロバイダーには容易にアクセスが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連団体・機関との連携やネットワークの構築は、省政府を含めて十分ではない。 これらの団体・機関との連携やネットワークの構築は、生産者側も弱い。

出典: JICA 調査団作成

図 2.2.5 竹・籐製品、木工品の生産(ハタイ省、クアンナム省)



表 2.2.4 クアンナム省の工芸セクターにおけるクラスター分析

構成要素	優位性	弱点と課題
地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 木工品では長い伝統を持つものがある。 世界遺産のホイアンとミーソンがあり、観光客が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 工芸品製作者の数と製作者の集積の規模は小さい。 製作者同士の組織化は進んでいない。
生産	<ul style="list-style-type: none"> 工芸品製作者は、特に竹・籐製品など、原材料を省内から調達している。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営管理及び生産工程の質が弱体である。 製品の質、製造コスト、配送時間、新製品開発能力の各面での競争力は低い。 製品の質は原材料の質にも依存するが、良質な原材料確保と国内供給についてあまり検討されていない。 省内の原材料の生産地から製品の生産者への輸送において、コミューン間、村間の輸送には多くの困難が伴う。 経営管理者、工芸技術者の数はまだ少ない。 工芸産業への資金源が乏しいため、工芸産業が拡大を図るのは極めて困難である。
市場	<ul style="list-style-type: none"> 製品に対する需要は国内。海外双方で伸びている。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出向けの製品については、商社及び HCMC、ハノイ等の都市部のバイヤーに依存している。 マーケティング能力が低く、市場調査、販売活動、市場の動向を観測する人材の不足が見られる。 国際市場に合わせた新製品のデザインに対する研究開発能力が不足している。 工芸産業には市場情報取得機能が備わっていない。 クラスターには、バイヤーや観光客に対する販売促進活動が不足している。 観光クラスターとの連携がうまく機能していない。
関連産業及び BDS プロバイダー	<ul style="list-style-type: none"> ダナンに近接しているため、工芸関連産業及び BDS クラスターのサービスは、ダナンから供給可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> クアンナムの工芸産業とダナンの関連産業及び BDS プロバイダーの間には特に連携はない。 工芸品製作者の間の連携がない。

出典: JICA 調査団作成

2) 経営改善、生産工程改善

以下の二点について企業訪問と調査を行ない、現状の問題分析を行った。企業診断による問題分析とともに、カウンターパートとなった DOI や VARISME スタッフ、企業経営者に対して知識移転を行った。その後アクションプランの策定と提案を行ない、カウンターパートによってアクションプランの実施支援とモニタリングを実施し、最後に評価を行った。

- (イ) 企業診断(管理者インタビュー、経営データ分析、工場店舗の観察)
- (ロ) マネジメント・チェックリスト(リーダーシップと戦略、会計と個人管理、販売と市場開拓、商品開発、外注調整、生産、の経営に関する6分野・計 150 項目に関する現地調査)

診断対象となった各企業に共通する経営の特徴、強み、課題を表 2.2.5 に示す。

表 2.2.5 経営の特徴、強み、課題

経営の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原材料中心の事業形態であるため、原材料の効率的な管理により、経営改善が期待できる ・ 品質の善し悪しが「下請け作業員」に依存している ・ マーケティング活動が行われていない ・ 輸出可能な産業分野である
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営改善に前向きな経営者がいる ・ 生産コストが低い
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営機能が経営者1人に集中しており、権限委譲がされておらず、右腕となる人材がいない ・ マーケティング活動が十分に行われていない ・ 製品の設計品質が低い ・ 不良品が多く、修正、作り直し等の作業が発生している ・ 注文から顧客に製品が届くまでの納期が長い ・ 作業現場が効果的に使われていない ・ 不要な原材料、仕掛品等が停滞している ・ 安全管理への配慮が不十分である

出典：JICA 調査団作成

3) 絹検査検品制度

農村部の抱える絹生産の課題：養蚕や製糸に関わる農家にヒアリングを行った結果、以下のような課題が明らかとなった。

- (イ) 桑園は米作に比べ、単位当たり収入は倍ほどあるにもかかわらず、養蚕技術不足により養蚕業は成果が乏しい
- (ロ) 死亡率の高い蚕幼年期、繭を作る直前の死亡率の高さに起因し、繭の収量が安定せず、流通経路も不安定なため、養蚕農家は減少傾向にある
- (ハ) 製糸技術が失われ、検品制度もないため、生糸及び織物ともに品質が低く、世界的に見ても最も価格の安い生糸、織物産地になっている

関連組織とデータの不足：ベトナム北部絹産業の現状について最大の問題点は、7年前にMARD傘下のVISERI¹⁾撤退以降、行政の関わりが一切なく、基礎となる産業データが一切ないことであり、養蚕、製糸、織物業において統一された生産技術、検品制度がないことである。本パイロットプロジェクトを契機に、絹産業への関わりを深めているタイビン省 DOIの成果を通して、各関係組織は現状認識を深め、さらには中央政府レベルでの政策決定がなされなければならない。また CSRO²⁾(中央養蚕研究所)によると、MARDに担当局はなく、研究と蚕種生産のみ行っており、省との接点はない。

撚糸と染色の技術不足：今回のプロジェクトでは時間的制約から、織物加工の重要技術である撚糸と染色に手を付けられなかった。タイビン省の織物業は撚糸技術の研究開発が遅れて

¹⁾ Vietnam Sericulture Corporation

²⁾ Central Sericulture Research Organization のこと。MARD 傘下機関。

いる。撚糸技術不足により、生地割れする織物が生産されている³⁾。染色技術の問題があり、市場より多くのクレームが寄せられている。しかし適切な対策が立てられていないため、タイ、ラオス向け織物輸出は染色されずに輸出されている⁴⁾。また、国内市場においても染色技術不足による品質クレームは市場開発の妨げとなっている。

製糸の品質向上: 養蚕技術によって繭の品質、さらには生糸の質が決まり、最終的には生糸を原料とする織物の品質が決まる。つまり織物の品質は養蚕技術が決めるというよい。繭の品質向上には、養蚕技術の向上と繭の品質の均一化が必要である。養蚕地域は各省やコミュニティに分散しており、養蚕技術の普及、養蚕道具の統一など、長期的な取り組みが必要である。

繭の格付け: 繭の検定は A)完全な繭、B)双繭、C)汚れ繭、D)その他と格付けされねばならないが、最も費用と時間がかかるので、繭を受け入れた製糸工場で格付けすることから始めねばならない。将来的には産地で格付けし、製糸工場で抜き取り検査をする体制を目指す。

製糸方法: ベトナム北部での製糸方法は一鍋高温製糸が主流で、二鍋低温製糸は一部で行われている。経験的に繭検査は、製糸工場で行われているが、A,C と B,D を分ける 2 段階で A 格の繭品質が製糸に活かされていない。繭選別が甘く、一鍋高温製糸によるため、品質の悪い糸が生産されている。また、織物にとって重要な染色結果を左右する製糸時に使用した水も管理されていないため、水に起因した染ムラが多い。撚糸技術も未熟で、生地割れをする。出来あがった織物は欠陥が多く、国際市場に販売し得る品質ではない。

2.2.8 活動結果

1) 経営改善、生産工程改善

参加企業へのインパクト: プロジェクト完了後、13の対象企業・組織が属する工芸村、共同事業体に、プロジェクト設計当初に想定した目標以外に、下記のインパクトを与えた。

- (イ) 13の対象企業・組織で、合計 74%の売上高の増加
- (ロ) 製造コストの低減(10.2%)による利益の増加および資金繰りの改善
- (ハ) 工芸セクターに従事する雇用の増加(28.1%)

経営改善と生産工程改善を目的とした企業診断とコンサルティングサービスによって売上増加、雇用増加につながったことは、すなわち工芸関連企業には外部からの適切な指導があれば、すぐに改善できる能力があるということを示している。行政による支援は単にハードのインフラ整備だけでなく、ソフトのインフラ整備、すなわち経営者に対して適切な情報の提供や指導が効果的であることが明らかとなった。

³⁾ 隣接するナムディン省(Nam Dinh)、ハナム省(Ha Nam)では十分な品質の撚糸加工が行われており、生産地域間の技術交流が重要である。

⁴⁾ ベトナムのシルクはタイ、ラオス向けの原料供給基地となっており、タイ、ラオスで品質を選別され、用途別に使い分けし、付加価値を付けて販売されている。

経営近代化に対する指導の有効性:通常、伝統工芸品とその製造販売は、近代的な産業化や経営管理システムの導入とは無縁の存在として理解されている。むしろ、親族間での職人技の伝承や、高い製造ロス率をいとわぬこだわり、「よいものをつくれれば自ずと売れていく」といった思想が信じられやすい。しかし、ビジネスの側面として、近代的な経営管理・生産管理システムを導入することにより、売上の上昇、不良の減少、利益の向上が発生し、これにともなって、雇用の増大、所得向上が実現することが、実験会社13社のうち12社で認められた。実験後の受益者満足度も高い(92%)。また、カウンターパートおよびその機関が自主的に継続活動していく計画をしている。このことから、工芸品産業のビジネスマネジメントの近代化とそのための訓練およびコンサルティングは、工芸品セクターの向上と地域の雇用・所得向上に有効であり、かつニーズが高いことが検証された。

指標設定による能力向上の評価:プロジェクト実施前と実施後で経営能力がどの程度向上したかを評価するために「マネジメント・チェックリスト」を用いた。その結果、特に向上している割合が高かったのは「商品開発」と「外注調整」でともに25%の向上が見られた(表2.2.6参照)。

表 2.2.6 マネジメント・チェックリストによる事後評価

評価項目	事前 (%)	事後 (%)	上昇率 (%)
合計スコア	52	75	22
リーダーシップと戦略	59	79	20
会計と個人管理	48	71	23
販売と市場開拓	43	66	23
商品開発	54	79	25
外注調整	59	84	25
生産	55	73	18

出典: JICA 調査団作成

自主活動の基盤形成:コンサルティングサービスの有効性以外の側面では、これらの方法論が、各地域での今後の自主的な活動の基盤形成に貢献した点が挙げられる。具体的には下記である。

- (イ) 現地の企業育成により、経営改善・生産工程改善指導に必要な教材、マニュアル、コンサルティング関連フォーマットが作成された。
- (ロ) 上記の教材、マニュアル、コンサルティング関連フォーマットを活用して指導できる現地 C/P が育成された。そして自身の能力向上に関して高い満足度が得られた。
- (ハ) 工芸セクターのモデルとなる、「整理整頓された無駄の少ない生産現場」「安全に配慮した職場環境」「旅行者を惹きつける展示場」等を持つ企業が育成された。
- (ニ) コンサルティング活動とその成果に対して、実施対象企業からの高い満足度が得られた。

2) 絹検査検品制度

原材料の品質管理:絹製品の生産工程の各段階(繭選定→煮沸・糸紡ぎ→撚糸→絹織り)において、それぞれに品質改善の技術や管理方法を確立できた。特に最終製品の品質が不安

定になる要因として、原料産地と加工地域が離れており、加工品の最終品質を決める原料品質が吟味されていないことが挙げられる。従って、優れた加工技術が最終製品の品質に反映せず、市場の評価も低いため、原料産地、加工産地ともに収入が低く、市場開発の方向性が見えていない。国内外の市場関係者も積極的に関わりを持ちたくても、原料－加工関連の受け皿組織が見えないので、関与できずにいる現状である。製品の品質向上にはまず原材料そのものの品質確保と、その加工技術の向上が必要であることが明らかとなった。

関係機関の連携による品質確保:本 PP では、機械織り絹製品の品質管理ノウハウを持った CSRO、工芸村内の絹製品工場、女性連合の協力の下、各生産工程で技術指導を行なうことで、生産者への技術移転が行われた。また、DOSTE の参加によって品質基準設定と検品制度登録を行なうことが出来た。絹産業においては、養蚕業、製糸業、織物業の連携が見える組織(生産組合)と検品制度とそれを保証する行政が関わって初めて、市場に受け入れられる商品開発が可能となることが明らかとなった。

2.2.9 得られた教訓

1) 経営改善、生産工程改善

経営近代化に対する指導の有効性:今回のパイロットプロジェクトを通じて、経営近代化に対する指導の必要性和有効性が明らかとなった。

- (イ) 現地コンサルタントの OJT による育成を通じて、企業診断が可能となった。
- (ロ) 経営改善活動、生産工程改善活動を管理するための共通フォーマット(アクションプラン・フォーマット¹⁾)によって、現地コンサルタントの主体的なコンサルティング活動を支援するとともに、工芸企業経営者とのコミュニケーションツールとしても役立った。
- (ハ) 分かりやすい評価指標(各種経営指標、アクションプランの実施・達成率、マネジメント・チェックリストの事前・事後比較評価)を設定することにより、パイロットプロジェクトの成果が明確となった。

発展段階に応じた政策アプローチ:工芸セクターは、その発展段階により、ハタイ省のような「マーケット基盤の工芸セクター」、クアンナム省のような「原材料・生産基盤の工芸セクター」等に分類でき、企業の抱えている問題にも違いがある。よって、その振興に関しても異なるアプローチが必要となることが明らかとなった(表 2.2.7 参照)。

¹⁾ 活動内容が3段階まで展開され、その活動毎に実施時期と達成すべき評価指標、実際の達成状況等が記入されるフォーマット

表 2.2.7 基盤別に求められる政策の例

	原材料・生産基盤のセクター	マーケット基盤のセクター
情報提供	生産性の向上	輸出市場
診断	生産工程改善	市場開拓
訓練	家内工業	デザイナー、マーケット関係者
資金支援	機械化	商品開発
税制優遇	汚染物質の改善	新ビジネスへの投資
技術支援	生産高の向上	多様な生産ライン
共同活動	マーケティング	輸出

出典:JICA 調査団作成

2) 絹検査検品制度

養蚕技術、製糸技術、織物技術の集大成が絹織物の品質を決定する。現状には以下のように多くの課題を抱えている。

- (イ) 養蚕においては、養蚕技術不足と繭検定が行われていない
- (ロ) 製糸においては、繭選別が不十分で、煮繭、製糸温度管理が行われていない現状と生糸検定が行われていない
- (ハ) 織物においては、撚糸技術不足、染色技術の不足、検品検査が制度化されていない
- (ニ) 国の行政的な関わりがない中、ベトナム産生糸・織物は国際市場での評価は低く、品質不良も多い

問題点が認識されておらず、対策が立てられていない現状がプロジェクトを通して明らかになり、課題の重要性の共通認識が出来た。また、繭検査の重要性、二鍋低温製糸による再現性の高い製糸の技術、市場の信頼を得るためには検品検査制度が必要であるという認識が関係者に共有されたと思われる。技術不足、管理不足の結果として、付加価値がラオス、タイに逃げている現状を打破するための行政支援をいかに行なうかが重要である。

2.2.10 マスタープランへの提言

1) 経営改善、生産工程改善

経営改善・生産工程に関する活動展開: 企業の経営改善・生産工程を図るためには、DOI をはじめとした省政府や企業との連携による活動が必要である(表 2.2.8 参照)。

表 2.2.8 経営改善・生産工程改善に関する活動の提案

対象	活動提案	実施主体
共通	工芸企業・組織の経営・生産工程改善の成果の普及	DOI、企業
	企業診断手法(現状分析、アクションプラン策定とモニタリング、評価に至る実施の流れ、仕様した質問項目、記入フォーマット)の活用	企業
	開発された教材・マニュアルの活用	企業
	工芸セクターが経営改善を行なうためのコンサルティングサービス実施機関の設置と継続的なサービスの提供	省政府、ドナー支援(BDS プロバイダー育成)
	他工芸品セクター(絹製品、陶磁器等)との連携による商品開発	企業
	観光業との連携によるマーケットの拡大	省政府
ハタイ省	土地制度、各種規制の緩和、工芸セクターを対象にした工業団地の設置	省政府
	工芸セクター経営者への経営教育、マーケティング教育、商品デザイン教育の実施	民間セクター、ドナー支援
クアンナム省	原材料安定供給への支援(木材・ラタンバンブー等の植林プロジェクト実施、もしくは植林事業者の金融支援等)	中央政府、省政府
	工芸セクター経営者への経営教育、製造技術向上のための教育の実施	民間、ドナー支援

出典: JICA 調査団作成

工芸品セクターの企業マネジメントの向上支援: 企業単位では、売上、品質、資金繰りに近代マネジメントは大きく貢献する。また、この企業の発展向上を通じて、地域単位では、雇用と所得の増大が実現する。越国の工芸品セクターは国内原材料を使用した輸出商品開発であるため、国家単位では外貨準備高の増加に貢献する。

BDS 機関・部門の創設: MARD 及び DOI のなかに、工芸セクター振興のための BDS 機関・部門を設置することが期待される(表 2.2.9 参照)。

表 2.2.9 BDS 機関・部門の設置の提案

部門と目的	活動内容	組織
工芸品振興センター (地場工芸産業のマーケティング活動支援)	<ul style="list-style-type: none"> 域内外の工芸事業者の情報収集とその提供 工芸事業者間、ディーラー間のビジネスマッチング 展示会の主催、他組織が実施する工芸関連の展示会の情報収集とその提供 工芸品に関するブランドイメージの開発とその定着、普及 	<ul style="list-style-type: none"> 工芸事業者が主体となって設立する。また、会員制度を確立する。 地域行政機関及び会員企業から派遣された常勤スタッフ 3-5 名で運営される。 運営コストは主に地方行政機関からの補助金で支援する必要があるが、同時に会費、展示会等による自己収入等、補助金以外の収入の割合を徐々に高める。
工芸産業人材開発・コンサルティング支援部門 (工芸事業者の競争力強化)	<ul style="list-style-type: none"> 経営改善・生産工程改善を支援するためのコンサルティング活動の実施 経営改善・生産工程改善を支援するための人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> DARD 及び DOI 等の地域行政機関における一部門として 3-5 名程度の常勤スタッフで運営される。今回のプロジェクトで育成した C/P がスタッフとして配属されることが望ましい。 VARISME や職業訓練校等、既存組織との協力により実施される。 運営経費は地方行政機関の予算、およびコンサルティング料・研修参加費からまかなわれる。

出典:JICA 調査団作成

特にコンサルティング・人材育成について、ハタイ省及びクアンナム省を例に、具体的なメニューとそのニーズを挙げる(表 2.2.10 参照)。

表 2.2.10 コンサルティング・人材育成に関するメニュー

指導内容	ハタイ省	クアンナム省
マネジメント戦略	高い	普通
輸出	高い	低い
売上	高い	普通
商品のデザイン	高い	普通
製作技術	普通	高い
生産改善	普通	高い

出典:JICA 調査団作成

工芸セクター振興のための規制緩和の促進: 企業の自由で円滑な発展成長には、その環境整備が企業成長と同じスピードでなされる必要がある。さもないと、不十分なインフラが企業成長の阻害要因になる。現在、工場立地許可に係る時間的なロス等、行政機関の官僚的な煩わしい手続き (Red Tape) が工芸セクターの事業推進の妨げになっている。MARD、DARD 等は企業活動にかかわる許認行政の事務手続きの迅速化を進めるべきである。この具体策として、DARD や DOI 等の地域行政機関下に「工芸品セクター相談所」等の部門を設け、現在実施されている政策が企業の自主的な成長発展にどのような影響を与えているかを、情報収集し、必要な改善点や代替的な支援策があれば、迅速で柔軟な行政運営をもって対応していくべきである。

2) 絹検査検品制度

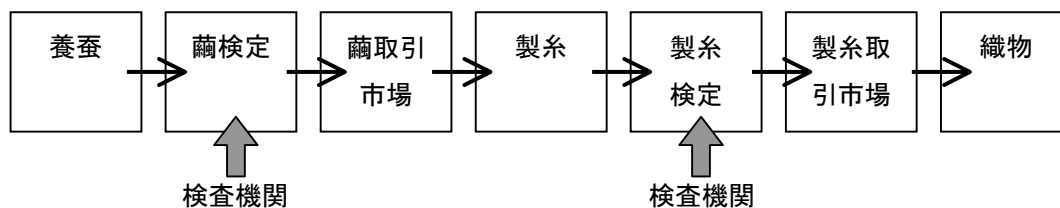
検品制度の確立:2003年現在のベトナム北部絹産業の規模は、養蚕業約8万戸、製糸従事者約8千人、織物従事者約3万人と推定されている。検品検査制度が運用されるならば、国内市場・輸出市場の飛躍的拡大が見込まれる(表2.2.11参照)。条件としては、CSROを中心として各省に必ず支所を作り、養蚕農民組合、加工組合と一体となって技術普及を図ること、生産者組合から独立した検品制度を作ることである(図2.2.6参照)。販売価格を20%上げて、こうした組織の固定費を5%と仮定して、15%の付加価値増を目指し、生産量の飛躍的増大を目指す。さらに2005年までの運営体として全国繭農協の設立を目指す。

表 2.2.11 北部絹産業の成長予測

	2003	2004	2010
繭生産量(トン)	16,500	20,000	50,000
生糸生産量(トン)	1,650	2,000	5,000
養蚕農家(軒)	80,000	100,000	250,000
製糸従事者(人)	8,000	10,000	25,000
織物従事者(人)	30,000	40,000	100,000

出典:JICA 調査団作成

図 2.2.6 絹製品の流通システムと検品制度



原料の供給体制:生繭から製糸までを2週間で終了しなければならない。ベトナム北部における養蚕期間は3月から12月である。ベトナム南部において通年養蚕をすることにより、繭供給の季節調整が必要である。養蚕地域は山間部に多く、製糸加工場と離れている場合が多い。原料の通年供給体制を整えるとともに、生繭を乾燥させ長期保存出来る乾繭設備を製糸加工場に設置する必要がある。

品質向上のための流通システム:現状は養蚕農家、製糸業者は収入面で恵まれておらず、利益は織物業者に偏っている。農家や製糸従事者に収入面の恩恵を及ぼし、安定した繭と生糸を生産し、品質向上を目指す必要がある。そのためには以下のような方法をとることが出来る。

- (イ) 製糸業者は全国繭農協を通して繭を買い上げ、市場へ売却する。繭の買い上げ時から2ヶ月後に製糸業者は繭農協と決済する仕組みを作る。
- (ロ) 対象製糸工場の認定制度を作り、技術水準、管理水準を満たした工場のみとし、検品制度の確実な実施を目指す。

中央政府での役割分担：絹産業の検品制度については、中央政府では MARD、MOI、MOST、MOT、MOF の5省が関わる必要があるが、これらの省庁にわたる実施可能な施策を一本化することが重要である(表 2.2.12 参照)。少なくとも省レベルでは一本化すべきである。

表 2.2.12 絹製品産業に関わる中央政府の権限の提案

中央政府	権限の内容
農業農村開発省(MARD)及び傘下のCSRO(中央養蚕研究所)	養蚕技術開発及び加工技術開発
工業省(MOI)	検品制度に関する支援
科学技術省(MOST)	輸出検査制度に関する支援
商業省(MOT)	輸出検査制度の貿易への運用
財務省(MOF)	輸出検査の検品と税関確認

出典：JICA 調査団作成

繭農協の発足：安定した品質の繭、生糸の供給体制作りを目指し、農家・製糸業者の為に全国繭農協を発足させる。

繭・生糸取引市場の発足：品質向上と品質に見合う価格形成の為、繭取引市場・生糸取引市場を発足させる。

技術改良のための産地間交流：撚糸技術はタイビン省には不足しているものの、近隣のナムディン省やハナム省では十分な品質の撚糸加工が行われている。また、ベトナムには多くの綿紡績工場があり、多くの染色技術者がいる。このように、地域間交流や、産地と工場間との技術交流により、技術的な解決を図ることが可能である。

技術普及センターの設立：養蚕の生産性向上と繭の品質向上のため、各省に技術普及センターを作る。

CSRO の充実：CSRO には加工研究部門を作り、製糸・染色・撚糸・精練の技術開発、公害対策も行なう。

小売店との連携：国内外の市場開発の始まりは、シルクアオザイの復権と国内市場の開発である。ハノイ、HCMC に林立する小売店との連携を深めなければならない。

常設展示場の設立：検品済みベトナムシルクの統一キャンペーンを通して国内市場、旅行者向け市場を開発しなければならない。ハノイ、HCMC に海外市場向け常設展示場を作り、デザイン担当者、加工技術担当者を常駐させ、商談窓口とする。

2.3 工芸の伝統的価値保存システム構築

2.3.1 背景

工芸品は芸術と産業の側面を兼ね備えており、地域経済の振興に貢献している。ベトナム工芸品には古い歴史を持つものが多く、文化的価値と芸術性や民族性を兼ね備えているが、その伝統的価値は社会的にほとんど認められていない。工芸に係わる研究機関や大学、博物館は、伝統的工芸品やその保全に関する情報交流や連携の機会がほとんどなく、政府機関でもこうした情報の不足から、伝統保全に対する政策立案を出来ずにいる。工芸振興と競争力強化によって、ベトナムがその伝統的価値を誇れるような環境をつくるためには、伝統的工芸品や伝統技術の保全が必要である。

2.3.2 目的とアウトプット

本パイロットプロジェクトは、工芸品の文化的側面について新しい調査アプローチを行ない、調査を通じて伝統的価値を発掘することが目的である。参加型の調査手法を通じて、村民自らが工芸品の保全と開発に関する意識と知識を深め、伝統を活かした工芸振興の重要性を理解することが出来る。

- (イ) **ベトナム工芸品の伝統的価値の発掘**: フォトボイス(Photo Voice)と呼ばれる参加型調査の手法によって、工芸に携わる人々が自らの視点で工芸品やそれに係わる周辺環境の写真を撮影し、調査員と村民による直接対話を通じて伝統的価値を発掘する。この手法はまた専門家や研究者に対しても貢献できるものである。
- (ロ) **ガイドラインと調査報告書の作成**: 村民によって撮影された写真やインタビューの結果に基づいて、工芸関係者の伝統的価値の保全や開発に対する意識を明らかにする。提案される伝統的工芸村モデル報告書は、政府関係者が工芸村の伝統的価値保全に関わる工芸セクター開発の検討の際に役立つ。

本パイロットプロジェクトから得られる成果品は下記の通りである。

- (イ) 調査と記録手法のガイドライン
- (ロ) 工芸村プロフィール
- (ハ) 工芸村の伝統工芸品の写真及びリスト

2.3.3 タスクフォース

タスクフォースは以下のように構成される。

タスクマネージャー	Prof. Nguyen Van Huy	ベトナム民俗学博物館館長
MARD カウンターパート	Mr. Nguyen Manh Dung	DAPPFRI of MARD
ローカルチーム(調査員及び専門家):	Ms. Vo Mai Phuong	ベトナム民俗学博物館調査員(ライチャウ省担当)
	Mr. Pham Minh Phuc	ベトナム民俗学博物館調査員(バックニン省担当)
	Mr. Le Anh Hoa	写真撮影指導
	Mr. Vu Hong Thuat	文化人類学者
	Mr. Doan Bao Chau	伝統保全
JICA 調査団:	Mr. Frank Proschan	
	Ms. Claire BURKERT	

2.3.4 対象地域と工芸品目

対象地域及び対象工芸品は以下の通りである(表 2.3.1 参照)。

表 2.3.1 PP3 対象地域及び対象工芸品

省	ディストリクト	コミュニオン	工芸村	工芸品
バックニン省	Gia Binh	Dai Bai	Dai Bai	ブロンズキャストイング
ライチャウ省	Dien Bien	Nua Ngam	Na Sang II	織物(少数民族ラオ族)

2.3.5 実施スケジュール

パイロットプロジェクトの実実施スケジュールは表 2.3.2 に示す通りである。

表 2.3.2 PP3 実施スケジュール

2002年11月	調査手法の確立と対象工芸村の確定
2002年12月～ 2003年7月	調査関係者のミーティング 写真撮影トレーニングワークショップ開催 テーマ別写真撮影とインタビュー及びワークショップの開催 (現地調査計 回/村、全撮影枚数約 2,000 枚)
2003年8～9月	対象工芸村での展示会の開催 ハノイセミナー及び展示会の開催

2.3.6 活動内容

(1)調査手法の確立:これまで、ベトナム工芸品に関する多くの情報は、工芸従事者ではなく調査関係者やジャーナリストによって収集されてきた。少数民族の場合は特に、彼ら自身で情報収集することはほとんどなかった。Photo Voice と呼ばれる手法は村民の参加によって行われる調査手法である。写真撮影トレーナーと調査の専門家の指導によって、村民は異なる視点や角度から工芸品に関わる様々な写真を撮影する。この参加型による調査手法は、工芸

品を最も良く理解している工芸村の人々によって調査が行われることの重要性を明らかにし、将来の調査モデルの一つとなりうる。

(2)対象工芸村の選定:調査団の現地調査やインタビューにより、以下のようなクライテリアからバックニン省ダイバイ村(Dai Bai village, Bac Ninh)及びライチャウ省ナサンII村(Na Sang II village, Lai Chau)が選定された(表 2.3.3 参照)。

表 2.3.3 対象工芸村選定のクライテリア

(イ) その村に様々な工芸品がある。
(ロ) 工芸家が優れた技術を持っている。
(ハ) 工芸品の伝統について、保全と復興の課題を抱えている。
(ニ) 地方政府の支援がある。
(ホ) 交通利便性が高い。

出典:JICA 調査団作成

バックニン省ダイバイ村(Dai Bai village)はブロンズキャストの長い歴史を持ち、毎年工芸品の先祖を敬うための盛大な祭りが開催される。多民族キン族の伝統的工芸村の特徴を持った村である。しかし現在では環境汚染や騒音の問題から、人々は工芸製作から農業へと移行せざるを得なくなっている。また、ライチャウ省ナサンII村(Na Sang II village)は少数民族ラオ族の伝統的な織物の村である。織物の伝統が失われつつあるが、その技術や知識はまだ残されている。ラオ族の村の実態はあまり知られておらず、工芸品も主に自己消費のために製作されているのが現状である。

(3)写真撮影トレーニング:パイロットプロジェクトの概要、調査実施方法、カメラの使い方等について参加者にレクチャーを行なうためのワークショップを開催し、参加メンバーを確定した(ダイバイ村18名、ナサンII村20名)。

(4)写真撮影を通じた調査と情報収集の実施:月に1回調査チームが対象工芸村を訪問し、撮影写真についてコメントを得るためのインタビュー調査を実施した。インタビューではマスターアルティザンから若い工芸家まで、伝統的工芸品の変化や意義について質問を行なった。

(5)写真撮影テーマによる分類とインタビュー結果の整理:撮影した写真を、いくつかのテーマに分類した(表 2.3.4 参照)。また、写真とあわせて掲載するインタビューで得られたコメントについて整理した。

表 2.3.4 工芸村における写真撮影のテーマ

ダイバイ村(ブロンズキャスト)	(イ)村の伝統文化、(ロ)村の歴史、(ハ)工具や原材料加工、製作工程、(ニ)労働者と男女差、(ホ)日常生活での工芸品の利用、(ヘ)工芸製作技術の変化、(ト)消費者、(チ)環境と健康問題、の8テーマ
ナサンII村(ラオ族織物)	(イ)伝統文化の保全、(ロ)製作工程、(ハ)労働力の分布と専門性、(ニ)原材料の加工、(ホ)工芸品の利用、(ヘ)市場と工芸製作技術の変化、(ト)道具とデザイン、の7テーマ

出典:JICA 調査団作成

図 2.3.1 フォトボイスによる撮影写真とインタビュー風景



2.3.7 実施上の問題点と課題

(イ)伝統工芸村の抱える課題の把握

フォトボイスは工芸村における伝統文化や、人々が抱えている様々な課題など、工芸村の生活の重要な側面を記録できる新たな手法である。村民は自分達で撮影した写真や、調査員と村民の双方向の対話を通じて伝統的、文化的価値に対する思いや抱えている問題点を表現することが出来る(表 2.3.5 参照)。また政府は工芸村の実態を知ること、より適切な支援や政策を検討することが出来る。

表 2.3.5 伝統工芸村における課題

伝統的価値の喪失の危機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的に伝えられる生活習慣や工芸の技法など、重要な情報が喪失の危機に面している。 ・ 代々伝えられる経験は、高齢を迎え、工芸製作を行っていないマスターアルティザンだけが知っており、子供や親戚にいくばくかは伝えられるものの、彼らの多くはより収益の良い生活を求めて違う仕事につとめるなど、これらの伝統的な知識の多くが伝えられることなく失われつつある。 ・ 少数民族の伝統的なモチーフは地域や民族の文化や宗教に基づくモチーフを用いているが、若い人々はその意味を知らず、また代々伝えられる機会が減っている。
村民の貧富の差	<ul style="list-style-type: none"> ・ 裕福な家庭では新しい設備を導入し、労働者を雇い、消費者市場の多くを占めている。 ・ 一方で貧しい家庭の多くは収入の低い季節労働者で、子供達は中等教育を終えると家庭での工芸製作に従事するために、教育水準が低い。
環境影響と健康被害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの工芸従事者が肺結核や背筋の痛みに見舞われている。 ・ 鉛や亜鉛、アルミニウム、ブロンズ、硫黄などに含まれる有毒ガスの吸入、また石炭からの二酸化炭素、加重労働、狭い作業空間などが原因によって引き起こされている。 ・ 工芸品開発は持続可能な環境保全計画と密接な関係がある。特に酸性物質による被害、原材料処理時に排出される有毒ガス、排水やゴミ処理などが村の地域環境に影響を及ぼしている。 ・ 原材料の枯渇により工芸製作が続けられなくなっていることがあり、持続可能な原材料供給計画が必要である。

出典: JICA 調査団作成

(ロ) フォトボイス手法の長所・短所

フォトボイス による参加型の調査手法は、村民の参加による実態の把握と伝統保全への意識の向上など、様々な利点があるが、その一方で短所も存在する(表 2.3.6 参照)。

表 2.3.6 フォトボイス手法の長所・短所

長所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村民によって幅広い情報を手早く収集できる ・ 調査員と情報提供者の役割がより対等になる ・ 本来の目的である伝統的価値の発掘だけでなく、環境や健康の問題など工芸製作の変化によって生じる現在の問題点なども、併せて知ることが出来る ・ 調査への参加と実践により、コミュニティ全体の関与と意識を高めることが出来る ・ 伝統的保全への関心とともに、伝統的な技法への復興の意識が高まる¹⁾ ・ 記録された写真は、展示や出版に活用でき、フォトボイスが伝統工芸村や工芸品の振興にどのように役に立つかを分かりやすく示すことが出来る ・ 経験ある調査員の手によって、より充実した情報を蓄積出来る ・ 工芸村が調査研究機関の協力と支援を通じて工芸品振興を推進出来る
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの村民は農作業などで忙しく、十分に調査に参加できないことがある ・ 特に少数民族は、外部の人間との接触になれておらず、十分なインタビューが出来ない²⁾ ・ ベトナム語の出来る若い女性に偏る ・ 工芸村の人々が伝統や歴史に関わる重要な情報を思い出したり、収集することが出来ないことがある ・ 村民が撮影した写真は技術的に充分でないために活用できず、また同じような写真が多く撮影される ・ 情報は必ずしも信頼できるものではなく、村民による説明が不十分なために、調査員の経験によって修正や補充されることがある ・ 写真撮影には高いコストを必要とする ・ 現地での写真撮影とインタビューには非常に長い時間を要する³⁾

出典: JICA 調査団作成

1)例えばラオ族は今回のプロジェクトを通じて、伝統的な草木染めの技法の復興に関心を高めている。

2)ラオ族の参加者は、外部との接触に抵抗が少なく、ベトナム語を話せる若い女性を中心となった。

3)調査員が月に2週間前後、工芸村に滞在しながらインタビューを続けた。

2.3.8 活動結果

フォトボイスによる調査手法を通じて、ベトナム工芸の伝統的価値を、専門家だけでなく村民の手によって発掘され、写真と文書によって保全することが出来た。また、この参加型調査手法によって、政府関係者、一般市民、コミュニティや工芸以外のセクターに対して、以下のような様々なインパクトを与えた。

政策立案者への影響: フォトボイスは写真とインタビューによるコメントによって学べることとその実態に対して対応すべきことが明らかになることが出来る調査手法である。この手法により、政策立案に際して、保全に対する村民のニーズだけでなく、健康や環境などその地域の現状の問題点をもあわせて理解することが出来た。

文化遺産の保全と活用: フォトボイス調査によって、地域や省全体の無形文化の記録を作成した。フォトボイス調査のセミナー及び写真展が対象工芸村の公民館及びベトナム民俗学博

物館で開催され¹⁾、多くの観光客の目に触れる機会を提供した。ライチャウ省では、省都にあるディエンビエンフー博物館にフォトボイスパネルが寄贈されることとなった。

経済開発への影響: 調査結果が人々の目に触れることにより、対象工芸村には多くの観光客が訪れるようになった。職人達はフォトボイスパネルを前に工芸品の歴史について説明できるようになり、消費者にとってもその工芸品の背景や価値を理解出来るようになった。特にライチャウ省ナサン 2 村は省の観光開発計画の対象候補地に挙げられている。フォトボイスは収入向上や観光開発の促進といった効果をもたらすことが出来た。

教育: 伝統価値の継承が大きな課題となるなかで、フォトボイスによる調査活動への若い世代の参加、子供達の展示会の見学など、次世代の人々にもその伝統価値を理解するための機会を提供した。また調査員にとっても、村民との対話のなかでインタビューの手法を学び、工芸村や工芸品の記録の支援を通じて村の歴史などを深く理解することが出来た。

図 2.3.2 工芸村内でのフォトボイスの展示



2.3.9 得られた教訓

本パイロットプロジェクトの実施を通じて得られた教訓は下記である。

コミュニティとの目的の共有化: 工芸村で調査研究を実施する際には、まず始めにマスターアルティザンやコミュニオン、村のオフィサーからの協力と理解を得る必要がある。記録調査に対する彼らの関心が高く、協力を得られて初めて、調査員が村に入り調査を進めることが可能となる。調査開始時には工芸村でのミーティングを開き、調査の目的と方法を村民に紹介し、継続的にミーティングを開いて調査経過を報告すると共に、ラジオなどの公共放送を使って村民全体の関心を高めることも必要である。

調査目的の多様化: 記録調査の目的は、調査研究機関だけでなく政府関係者や村民にも充分理解される必要がある。このような記録調査の目的は例えば、現代または過去の工芸製作

¹⁾ VME での展示会は 2003 年 9 月 27 日から1ヶ月間開催され、開会日にはセミナー及び対象工芸村の職人達による工芸製作デモンストレーションが行われた。

の記録、工芸コミュニティが直面している問題の明確化、そして現代における伝統的価値の発掘、などである。

既存研究機関との共同調査: 今回のプロジェクトではベトナム民族学博物館を実施主体として進めた。このように専門の研究機関と共同で調査を実施することで、調査記録の分析と保存が可能となる。経験のある研究機関との共同実施が効果的である。

事前調査の必要性: フォトボイスのように参加型手法で調査を実施する際には、事前にその村の概要を理解し、地元の人々とのコミュニケーションを築いておくことが重要である。調査員は工芸品の全体像を把握し、その文化や民族性などを理解しておく。事前に得たこれらの知識をもとに、調査の焦点を絞り、インタビューでの反応を得て、評価することが可能となる。

調査対象地の選定: ベトナムの多くの工芸村には様々な工芸生産の形態があり、それらの価値ある伝統が消えゆく前に早急に記録に残すことが重要である。例えば僻地の村では、市場から商品を購入することが出来ずに、自分たちで伝統的な生活のために工芸生産を行なっている。そのために工芸品の伝統が強く根付き、残されている。もし調査の目的が工芸品の伝統的価値の調査であるならば、このように人々が工芸生産をし続けており、その手法を思い出せる村を選択する必要がある。調査員は地元政府との協力のもと、このような工芸村を探すことが重要である。今回のパイロットプロジェクトでは、織物に主に従事している少数民族ラオ族の工芸村の方が調査を実施しやすかったと言える。ダイバイ村はブロンズ製作だけでなく、様々な技法や工芸品が存在し、また村の規模も大きい。そのために短期間で村に対するインパクトを及ぼすことは困難であった。また、ラオ族にとってカメラは目新しい存在であったが、ダイバイ村のキン族には新しいものではなく、興味をひくことが難しかった。

調査期間の設定: このような参加型調査プロジェクトは最低1年以上継続して実施することが望ましい。最初の数ヶ月は村の文化的背景や工芸技術について調査員のみによる調査を実施し、フォトボイスを導入する前に村民や彼らの生活様式について理解しておく必要がある。

博物館と村の関係の構築: 調査機関が村で調査を実施する際には、その信頼関係が不可欠である。調査開始前にその組織の実態や目的について十分に理解される必要がある。

参加者の選定: 村からの調査参加者は、彼らの関心や時間的余裕、調査に対する理解や知識について基づいて選定される必要がある。

2.3.10 マスタープランへの提言

省レベルでの記録活動の推進: 省レベルで工芸品の伝統と現在の取り組みについて記録するための活動の推進が求められる。この記録活動はフォトボイス手法を用いて、調査機関によって効果的に実行することが可能である。

全国レベルでの工芸記録活動の推進: 全国レベルでも、村の工芸品の記録をアーカイブとして保存する活動を始める必要がある。

コミュニティと博物館の関係強化: 記録活動を通じて、短期間では展示会や出版などに活用され、長期的には村の伝統保全と工芸振興にインパクトを与えることが出来る。

出版活動の促進: 村における工芸品製作活動の記録の出版と、観光情報センターでの販売や写真の展示を推進していく。

フォトボイス手法の活用: フォトボイス手法は特に工芸保全プログラムやエコツーリズムプロジェクトなどの基本として活用が可能である。フォトボイスをツールとして工芸従事者と政府関係者の対話を推進していく必要がある。

他のコミュニティでの展示: これらの記録成果を他地域でも展示することで関心をひき、伝統保全への誇りを高めていくことが重要である。

2.4 工芸品振興のためのデザイン振興策の構築

2.4.1 背景

デザインとは外見の単なる造形や色づけの作業にとどまるものではなく、その背景となる文化的側面までを含めた概念であるが、その共通認識や理解は十分に浸透していない。

デザイン振興という視点からは、デザインという概念の共通理解を深めるとともに、具体的なデザイン活動を支援する社会的システムの構築が不可欠である。

2.4.2 目的とアウトプット

このパイロットプロジェクトの目的は、デザイン振興のためのセミナーやワークショップの開催にとどまらず、具体的な振興活動の実践を通じて、デザイン振興のための持続可能な支援メカニズムを確立することであり、具体的には下記である。

- (イ) **デザイン概念の整理と理解:** デザインとはデザイナーによる独立した活動と考えられているが、実際には、多様な組織や個人(起業家、教育機関、政府機関、消費者等)がそれぞれの役割を持った社会的環境によって生み出されるものである。デザイン理解のためのツールとなるデザインガイドを作成することによって、多様なデザイン活動に対する理解の浸透を図る。
- (ロ) **デザイン振興システムの提案:** デザインに対する共通理解をベースに、関連機関の協力により、デザイン振興のための社会的システム(制度及び機構)を構築することにより、デザイン振興活動の促進を図る。
- (ハ) **実験プログラムの実施:** ベトナム人自身によって企画されるデザイン振興のための新しいプログラムと活動を実施する。これらのプログラムはデザイン開発の一連のプロセスを理解することに役立つ。

成果品は以下の通りである。

- (イ) デザインガイドブックの作成: デザイン理解を図るツールとしてのデザインガイドブックを作成する。
- (ロ) デザイン振興システムの提案: ベトナムにおけるデザイン振興システムに関する提案を行なう。

2.4.3 タスクフォース

タスクフォースは以下のように構成される。

カウンターパート:	MARD
メインコミッティ:	VCCI, VCA, ハノイ工業デザイン大学
サブコミッティ:	MOI, VARISME
タスクマネージャー:	Mr. Le Huy Van (Deputy Director, ハノイ工業デザイン大学)
ローカルチーム:	Mr. Dinh Manh Hung (Deputy Manager, SMEPC, VCCI) Mr. Vu Nham (Head of Applied Art Department, ハノイ美術大学) Dr. Ho Hoang Hoa (Japanese Studies Institute, NCSSH) Mr. Nguyen Loi (陶芸家) Mr. Le Thanh Binh (デザイナー, Tre Viet Company)
JICA調査団:	清水尚哉 (デザイン振興)

2.4.4 対象地域と工芸品目

ベトナム全国を対象とするデザイン振興の支援体制の構築を目的とするため、対象地域は指定せず、対象品目も特定せず11品目全体を対象とする。

ベトナムでは未だ工芸に関わるデザインの影響及び活動が根付いていないことから、ハノイ工業デザイン大学やコーポラティブなど、工芸製作の訓練コースやプログラムを実践している関連機関と協力するとともに、デザイン振興のための制度支援や機構づくりなどの環境整備提案について関連省庁との連携を図る。

2.4.5 実施スケジュール

パイロットプロジェクトの実施スケジュールは下記に示す通りである。

表 2.4.1 PP4 実施スケジュール

	デザイン振興システム	デザイン概念	デザイン振興活動
2002年11月～ 2003年1月	課題の抽出とシステム (案)作成		
2003年2月	ワークショップ開催	デザインの定義とガイド ブックの作成	実験プログラムの作成
2003年3月 ～6月	システムの検討と最終提 案の作成		実験プログラムの実施
2003年7月	ハノイ・HCMC セミナー開催		起業家セミナー
2003年9月	デザイン振興システムに関する関係省庁との協議		

2.4.6 活動内容

(イ)デザイン振興システムの提案

これまでの現地調査により、ベトナムにおけるデザイン情報を収集した。日本でのデザイン振興事例調査により、ベトナムでのデザイン振興システムの概念をとりまとめ、ハノイワークショップで提案を行なった(2003年2月21日にハノイ工業デザイン大学で開催、デザイン関係者約30名が参加)。

(ロ)実験プログラムの提案

2月のワークショップの成果に基づき、実験プログラムを作成した。これはデザイン開発のためのプログラムであり、消費者の生活スタイルを調査することにより、消費者が必要としている商品を考案するとともに、ベトナム人デザイン関係者がこのプロセスを実践することが目的である。

(ハ)デザインガイドブックの提案

日本国内のデザインガイドをベースに¹⁾、ベトナムデザイン振興のためのデザインガイドブックを作成した。7月にハノイ及び HCMC で開催したセミナーで参加者からのコメントを得て、再校正を行った。

2.4.7 実施上の問題点と課題

パイロットプロジェクトの3つの活動内容それぞれについて実施上の問題点と課題を述べる。

1) デザインについての共通認識のためのツール作成

デザインについての認識を改めるという活動のためには、ベトナム人の間で流布しているデザインについての考え方を知る必要があった。ベトナム人専門家に対するヒアリングやディスカッションを繰り返す中で得られたものは、デザインの社会的支援システムを「マクロシステム」と呼び、個々の商品開発プロセスを「ミクロシステム」と呼んでいることであった。より踏み込んだ形での、「デザインとはどういうことか」という問いに対する答えは得られなかった。したがって、デザイナー、アーティスト、生産者、政府関係者、産業振興機関の関係者との対話を繰り返す中から、ベトナムにおけるデザインの認識についての結論を総合化した。「デザインとはどういうことか」についてのベトナム人の認識はおおむね以下の通りである。

- (イ) デザインという行為の結果としてのモノの色・柄・形にのみ着目し、色・柄・形を生み出すプロセスへの視点を欠いている
- (ロ) デザイナー個人の創作行為に重点をおき、マーケットや生産者などとの関係性への視

¹⁾ 墨田区デザインガイドを翻訳し、現在これを雛型にしてベトナム人関係者で議論を進めている。このデザインガイドには、デザイン概念の定義と領域、デザインの目的と効果、進め方などの内容が含まれている。

点を欠いている

こうした状況を改善していくためには、デザインに関わる人々がこのような認識を相対化し、客観視できるようになる必要があり、それこそが最大の問題点である。

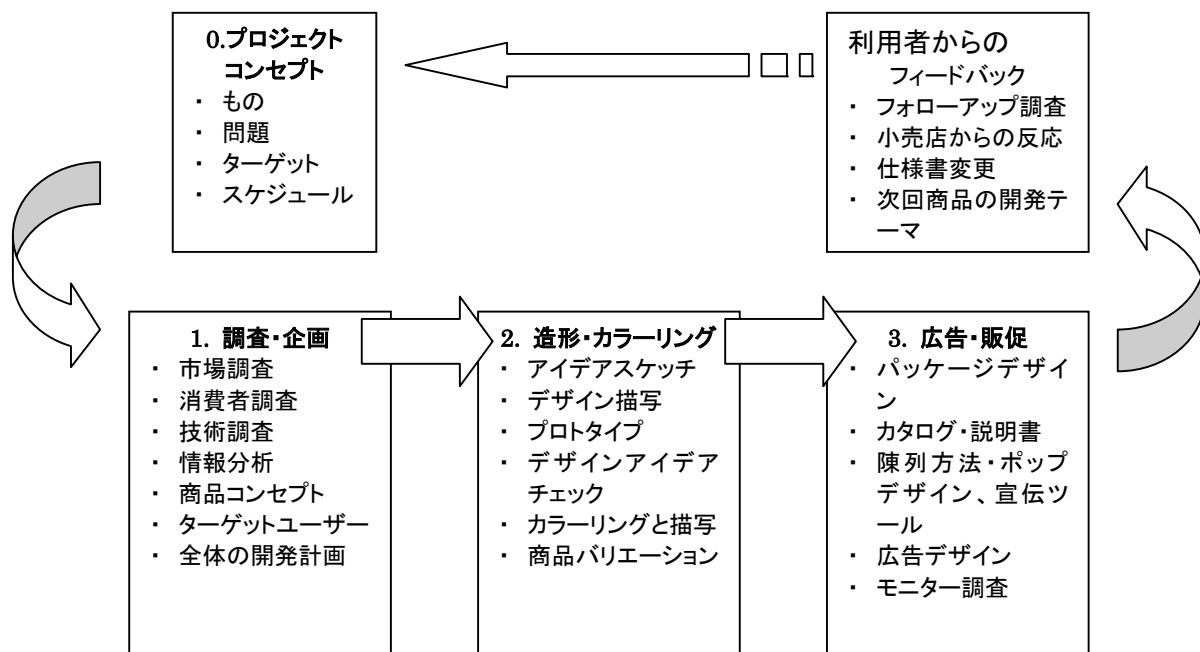
対応策としては、従来の認識と異なる知見をあたえて普及啓蒙を図る以外にない。問題点を認識してから対処するという一方向的なやり方では効果は望めない。対応策を示すことによって、問題の認識を深化し拡大していくという双方向の取り組みによって、デザインの認識の現状が改善していくようにすべきである。

今回はそうした対処法を具体化したものとして「デザインガイドブック」を作成した。このガイドブックの内容を普及させる目的でデザイン振興セミナーをハノイ、HCMC の2カ所で開催した。セミナーへの応答からもデザイン認識の変化への感触が得られた。こうした活動を、さらに広げていくことが今後の課題となる。

2) デザインの方法論習得のための実験プロジェクト

デザインガイドブックの中で提示したデザインの実践のプロセスを体験して、今後の普及定着の可能性について検討した。具体的には、デザインガイドブックの中で提示した、「調査・企画」、「造形・カラーリング」、「広報・販促」という3ステップを実践する試みである(図 2.4.1 参照)。

図 2.4.1 デザイン実践における3つの段階



出典:JICA 調査団作成

今回はプロジェクト規模の制約もあり、消費者生活調査を実施し、それを受けて消費者のライフスタイルにマッチする商品を具体化するというプロセスを実践した。おおむね趣旨は理解さ

れたが、実施にあたっては以下のような問題点がみられた。

- (イ) ベトナム人の一般的傾向として、個人の独立性が強くチームワークが苦手であるため、上記の3ステップはそれぞれが全くの異分野と考えられており、調査結果を商品化に結びつけるという連続的なプロセスの実行に難点がみられた。
- (ロ) 調査から造形へという方向性は実行されたものの、モノの形としてまとめ上げていくプロセスで、モノが消費者ライフスタイルにマッチするかどうかという検証作業が欠落していた。

今後の課題としては以下の点を指摘できる。

- (イ) デザインが商品開発の全プロセスに関わるという認識は、3ステップの方法論によって具体化されているが、これを実践するためには個人の活動では不可能であり、関係者のチームワークが求められる。こうした共同作業を定着させるための仕組みを企業の中で構築するとともに、大学や専門学校での教育プログラムとして教えていく必要がある。
- (ロ) デザイン作業を開始したら最後まで担当者やチームが一気に仕上げるというやり方ではなく、途中段階で関係者の意見を聞きながらチェックと修正を繰り返していくという仕組みが必要であり、そうした仕組みを実践的方法論として定着させていく必要がある。

3) デザイン振興システムの提案

デザイン振興システムについては、ベトナムには具体的な制度や組織が存在していない。デザインセンターなどデザインを支援する制度や機関が必要であることは明確に認識されており、デザイナーのみならず産業界からも要望が強い。しかし具体的な支援の方法について、デザイナー協会の設立や見本市の開催など個々の要望は出てくるものの、全体を仕組みとしてまとめ上げる提案が出てこないのが実情である。需要は非常に強いものの、仕組みとしての提案にまとめ上げられないでいることが根本的問題として横たわっている。

そこで、日本やインドネシアの現状の調査を経て、①政府内デザイン担当部署の設立、②デザイン審議会の設立、③デザインセンターの設立、という3本立ての制度・機構提案を作成し、それぞれの機能や役割、および有機的連関性を提示するという方法で議論を重ねた。その過程での問題点は以下の通りである。

- (イ) プロジェクトメンバー間での意見の隔たりが大きく、団員からの試案をブラッシュアップして提案をまとめ上げる作業が難しい。とくに具体的な振興機関の設置については、「自分の所属機関につくるのが望ましい」という意見が多数出され、調整が難航した。
- (ロ) 個々の振興機関や振興活動については、それぞれが有機的連関をもって機能するように団員から試案を提示したものの、こうした連関性や相乗効果といった概念が理解されにくい。
- (ハ) 全体像としての振興システムがまとまらないために、政府の産業振興プログラムにデザイ

ン振興の可能性が示唆されていても、そこに提案を提出して協調していく道が見いだせない。

- (ニ) デザイン振興は、複数の省庁にまたがる課題であるが、各省庁ごとの独立性が強く協同の可能性が見えない。とりわけ製造部門を管轄する工業省と流通・マーケット部門を管轄する商業省が分立していることは問題である。

今後の課題としては、以下のことがあげられる。

- (イ) 共同による調整作業を苦手とするベトナム人の中での合意形成は困難であるため、調整能力に優れた人材に権限を与えて振興システム提案をまとめ上げるのが早道である。
- (ロ) デザイン振興を社会システムとして定着させるためには、政府による承認が不可欠であり、そのための政府への働きかけを強化すべきである。デザイン振興システムを実効性のあるシステムとして発進させるためには、現状のような多極鼎立の状況を抜け出す必要があり、そのためにも政府のリーダーシップが重要である。
- (ハ) 政府省庁間の協同の仕組み、リーダーシップをとる省庁の設定、中央と地方の関係など、個別機関の連携性を具体的に構築していく必要がある。

2.4.8 活動結果

本パイロットプロジェクトは、ベトナムの現状を考慮して、デザインについての認識の転換、実践的方法論の提示、振興システムの提案といったデザイン振興の初期段階の活動にとどまっている。デザインガイドブック及びセミナーの開催を通じて、特に下記を提案した。今回の活動の成果をベースにして、将来にむけて実践的なデザイン振興活動の輪が広がっていくとともに、商品開発や教育の場面で具体的な成果が出てくることが期待される。

1) デザイン振興の段階的アプローチ

デザイン振興活動は長い期間を要するものであり、およそ以下のような手順で進んでいくと考えられる。

第1段階: 認識・啓蒙段階 (対象はデザイン関係者以外も含む)

デザインはモノの色・柄・形のこという狭い認識を改め、モノづくりの全体に関わる方法としてのデザインの意味と可能性を認識させる段階。手法としては、啓蒙書の作成と配布、セミナーの開催などがある。対象としては、商品計画に携わる人のみでなく、経営者、政府関係者、消費者など幅広い人々が対象となる。

第2段階: 方策形成段階 (デザイン関係者対象)

デザインの認識について一定の普及・啓蒙が実行されたことを前提にして、具体的な方法論を提示する段階。商品開発のプロセスの提示、プロセスの構成要素ごとの手法提示、デザイ

ン振興方策や振興機関の提示といった具体論を展開する。対象となるのは、デザイン業務や振興策の策定・実施に関わる人である。

第3段階: 実践指導段階(専門家対象)

具体的な商品開発の実践指導の段階。開発アイテムやターゲットを設定し、調査・企画の実行、アイデア形成からのプロトタイプ作成、広報・販促の戦略策定などを行なう。2次元、3次元の造形技術といったデザインの技術的な実践指導も行なう。

2) 様々なデザイン現場での活動

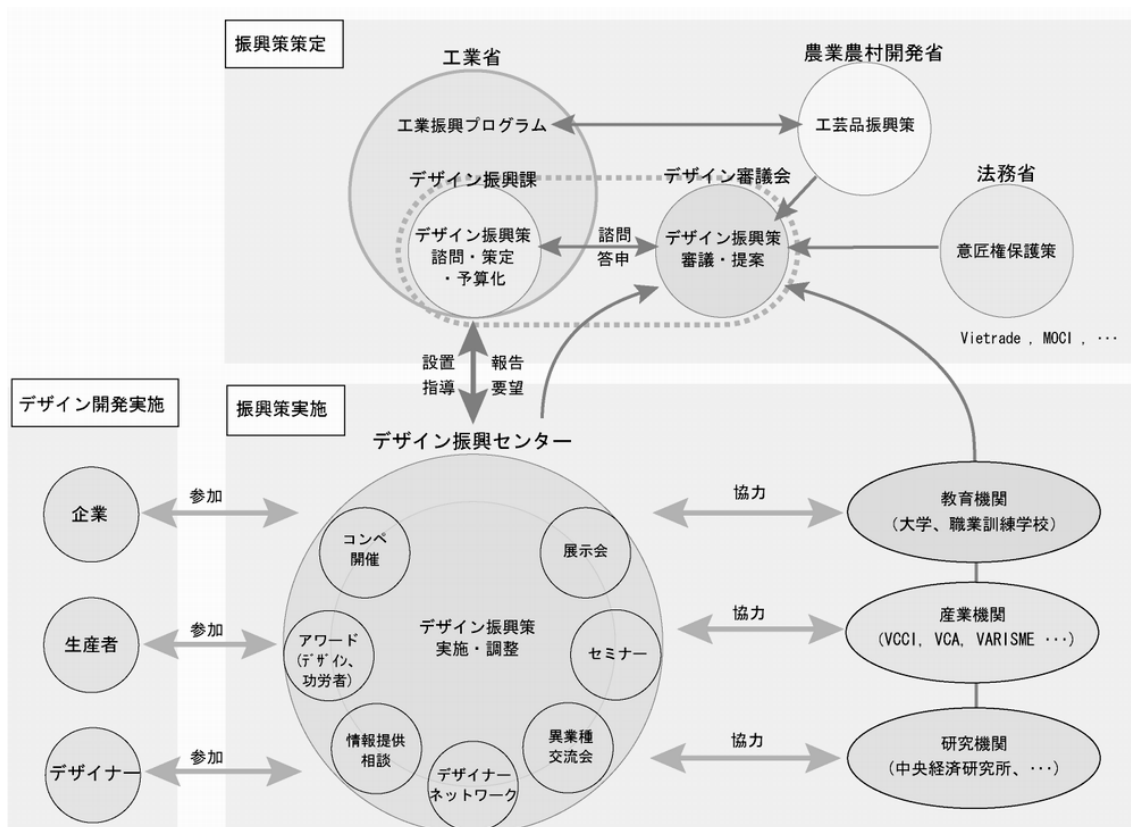
今回のパイロットプロジェクトでは、第1段階の認識・啓蒙段階を確実にするためにデザインガイドブックを作成し、セミナー開催によってその内容の理解促進を図った。さらに第2段階の活動として、デザインの方法の提示と実験的な実践を行った。またデザイン振興の社会基盤形成のための方策提案を行った。概して、ベトナムにおけるデザイン振興の基礎固めに終始した傾向があり、そのためにもっと現場指導的な活動を望む声もあった。しかし現状では現場指導体制が各地域や機関ごとにバラバラに行われている様子が確認され、よりシステムティックな取り組みへと改良されることが急務と判断されたため、基礎固めに重点を置いた。したがって、今後のフォローアップとしての活動はより実践的な側面にウェイトを移行すべきである。活動内容は生産の現場、教育の現場、政策の現場において以下のように考えられる。

- (イ) 生産の現場: 生産地や開発アイテムを特定した商品開発指導が望まれる。ベトナム国内でのデザイン開発モデル事業指定産地をいくつか指定し、専門家を派遣して生産者との共同作業の形で開発指導を行なう。調査・企画、造形・カラーリング、広報・販促のプロセス全体をカバーするような指導を行なう。指導者としては専門デザイナーを想定するが、現状では国内のみで指導的人材を確保するのは困難であると考えられるため、海外の専門家を含めて指導体制を整備する必要がある。
- (ロ) 教育の現場: 現状の教育カリキュラム(ハノイ美術工業大学)をみると、デザインに関する実技指導に加えて、人文科学や社会科学の教科を学ぶような構成になっている。一方産業界では、現場での実践的なデザインとデザイン教育との乖離が指摘されていることから、より実践的な方法論の習得が教育カリキュラムに加えられるべきである。ビジネスとしてのデザインという視点で、教育の場と生産の場をつなぐようなプログラムを大学や高等専門学校に設置し、企業における実践研修と組み合わせながら、戦力として役立つデザイナーを育成していく必要がある。
- (ハ) 政策の現場: 現状での中央政府レベルでの施策に一致する方向で、デザイン振興システムを実現していく必要がある。具体的には工業省の工業振興プログラム(Industrial Expansion Program)の中にデザイン振興を位置づけ、工業省内にデザイン振興担当部署を設置することが望ましい。そこを中核として、商業省、法務省(MOJ)などの関係省庁、専門デザイナー、産業界代表などから形成されるデザイン審議会を組織して具体的政策を議論する。そして政

策実施機関としてデザイン振興センターを設置し、振興活動を展開していく図式が標準型として推奨される(図 2.4.2 参照)。将来的には産業セクターを所管するMOIと、流通セクターを所管するMOT が一体化されて施策形成の中心となることが望まれる。

以上の各分野での活動がそれぞれ独立して進行するだけでなく、各分野が有機的連携のもとに相乗効果をもたらすような仕組みが完成して、デザイン振興活動は一応の達成水準に到達すると判断される。

図 2.4.2 デザイン振興システムの提案



出典: JICA 調査団作成

2.4.9 マスタープランへの提言

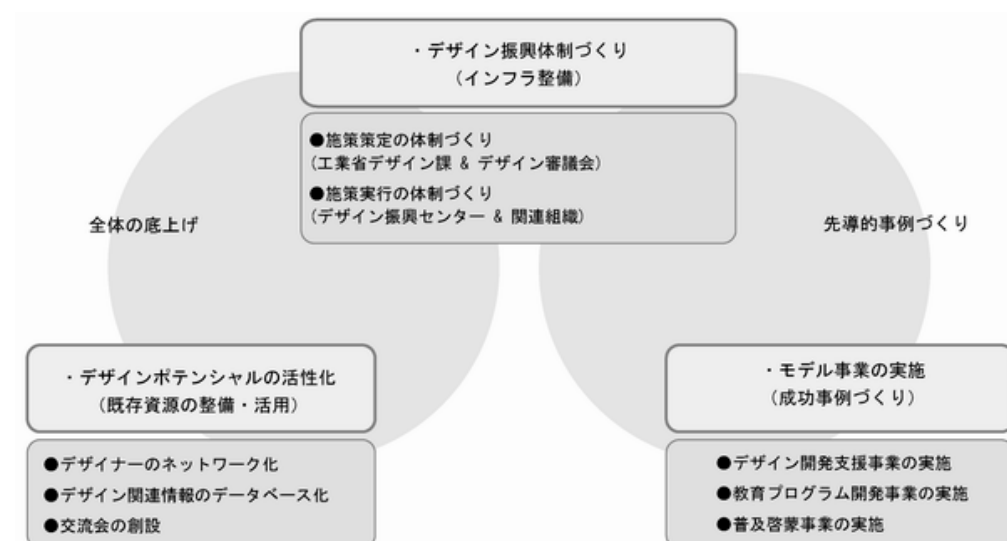
今回のデザイン振興プロジェクトでは、日本の30年に渡るデザイン振興活動を先例としながら、ベトナムの現状を考慮して成果を出すという方針をとった。今回のパイロットプロジェクトで得られた教訓と提言は以下の通りである。

認識の転換の重要性: 伝統工芸品は工芸村という閉じた世界の中で継承されていけば生き残れるという状況ではなく、工芸村にとっては外の世界であるマーケットを視野に入れた生産システムを導入していかなければならない。それが調査の出発点の共通認識であるという自覚のもとにパイロットプロジェクトを設計し、実行してきた。しかしプロジェクトを進めるなかで、こうした認識を自覚させること、および具体的な取り組みへの道筋をつけてあげることの難しさを痛感させられた。自由なマーケットでの活動経験が乏しく、仲買人など外部仲介者の指示に

従って生産を続けている日常の中で、認識を変えていくことは地道で根気のいる仕事である。日本の工芸品の場合、産地問屋と消費地問屋というコーディネーターが存在した。よい商品を見る目を持ち、商売になることを見抜ける人材である。こうしたコーディネーター的存在が生産者の認識にも大きな影響を及ぼす。一言で生産者といっても、その性質は様々である。ひたすらに造形を追求する人物もいれば、商売のマネジメントに長けた人物もいる。このように様々な才能が入り交じった人々の集団を生産者とひとくりにしないで、コーディネート能力に長けた人間を発掘することが必要である。そしてそうした人物を育てる。そのためには伝統工芸品というモノを、文化価値、商品価値など多様な面から評価し、場面に応じて商品の開発指針を与えていけるような人材を育てる必要があり、そうした視点からの支援活動が必要とされている。

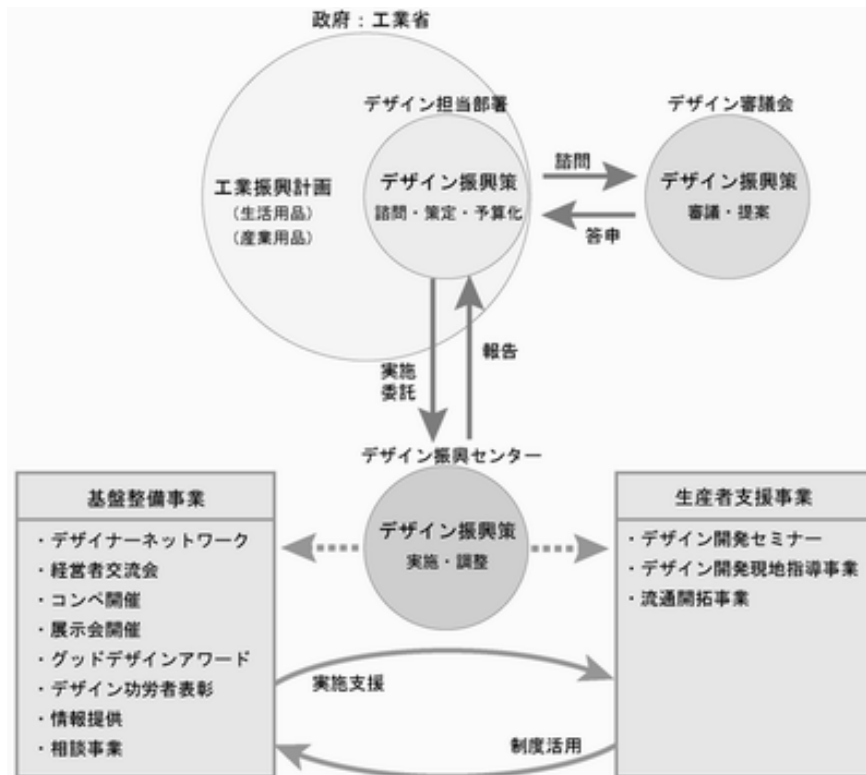
方法と地域特性のマッチング: デザインガイドブックの内容を開示するための、具体的な活動をベトナムの人々によって実践していく必要がある。例えばセミナーや教育プログラムなどの活動を継続することで、人々の認識は確実に変化しうる。とりわけHCMCのセミナーでは「デザインの認識が変わった」という感想を得ることができた。認識の変化への感度が高いのは商業的なポテンシャルの高い都市部である。全国一律のレベルアップではなく、感度の高い地域を選んで普及活動を継続し、そこから他地域にも波及させるという方式がのぞましい。さらに具体的な開発アイテムを特定した方法論の指導を行なうことにより、認識は実践として定着していくと考えられる。効率的な普及のためには、いくつかの核から効果が波及していくような方法がのぞましい。それは、とりもなおさず、デザイン振興活動を社会的ムーブメントとして発展させていくことである。デザインとは色・柄・形だけのことでなく、それを生み出すプロセス全体の手法であるという認識の拡張を繰り返してきてきた。さらに言うなら、そうした認識が、生産者、経営者、消費者、政府関係者など社会の様々な主体の間で連鎖反応を起こすことで、デザインは社会的ムーブメントとなっていく。そうやってこそデザインが社会経済発展へと貢献しうるものとなるであろう。

図 2.4.3 デザイン振興のための施策システム(提案)



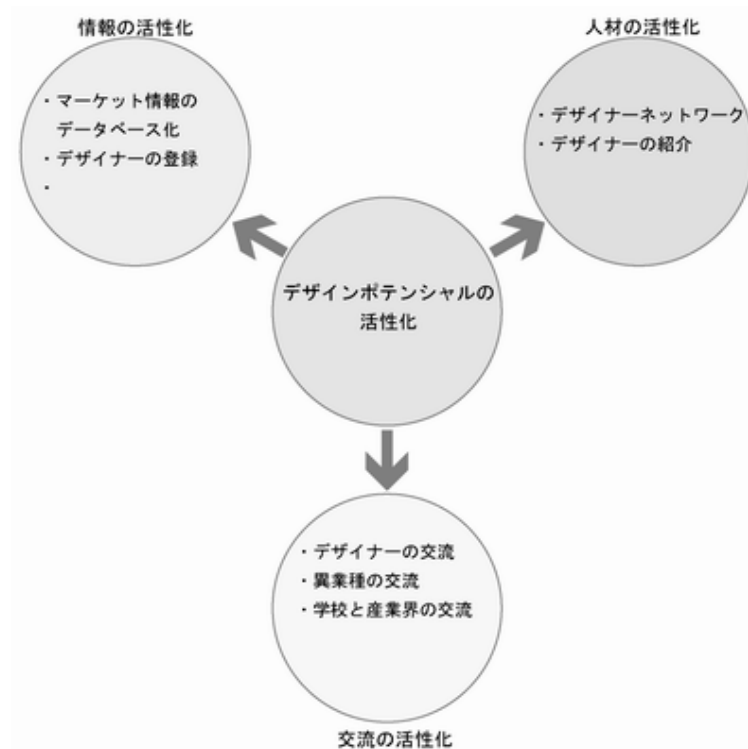
出典:JICA 調査団作成

図 2.4.4 デザイン振興体制の整備(提案)



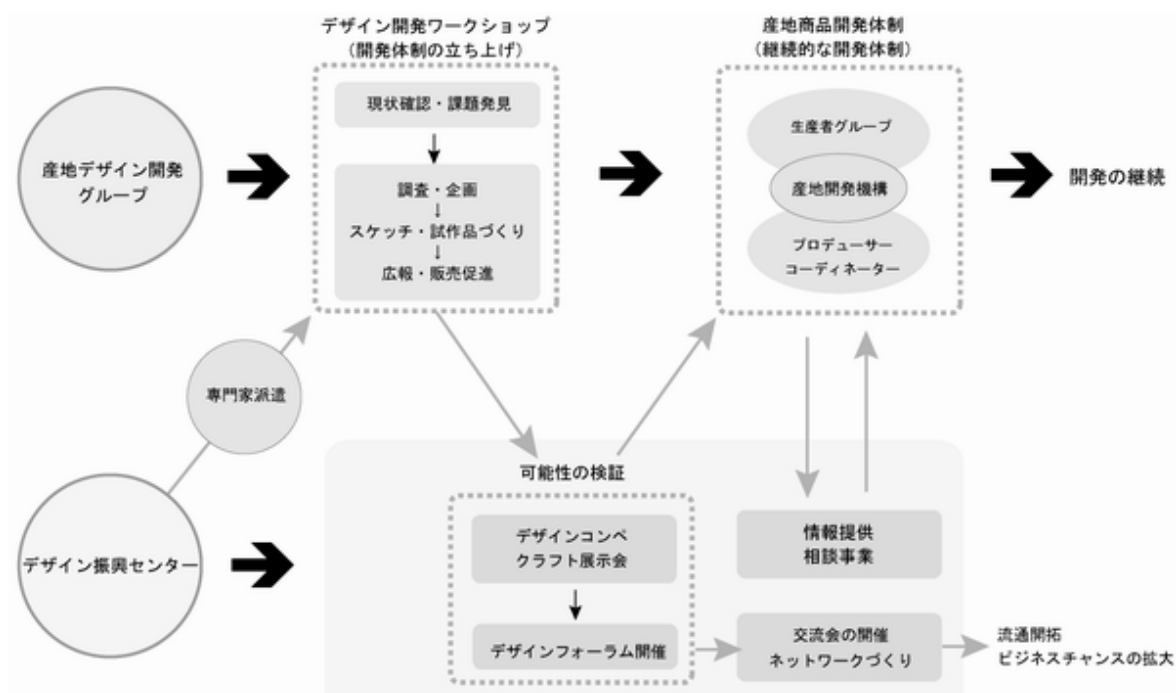
出典:JICA 調査団作成

図 2.4.5 デザインポテンシャルの活性化(提案)



出典:JICA 調査団作成

図 2.4.6 工芸品デザイン開発支援のモデル事業の実施(提案)



出典: JICA 調査団作成

2.5 国際競争力のある工芸品開発

2.5.1 背景

ベトナムの工芸従事者は高度な技術を持ちながらも、新たなデザインやマーケットニーズの情報が不足しているために、国際市場での競争力は持ちえていない。またその技術伝承も家庭内や師弟間にとどまっており、全国的な広まりを見せていない。商品開発から製造、販売、市場評価までの一連の流れを把握し、市場での情報や評価を生産者へフィードバックする、コーディネーターとしての人材育成が必要である。

2.5.2 目的とアウトプット

本パイロットプロジェクトは、ベトナムの伝統的価値を持ち、かつ国際市場での競争力を持ちうる商品開発を実践し、そのプロセスで工芸家や工芸従事者に、新たな商品開発の知識と方法を技術移転するとともに、市場と生産者をつなぐ人材としてのコーディネーターを育成することを目的とする。具体的には下記である。

- (イ) **プロトタイプの実成と市場評価の実践**: 専門家の指導のもと、実際に工芸品(漆器、石彫、ブロンズキャスト、木彫の4品目)を開発し、市場での評価を受けることにより、工芸家や工芸従事者がそのプロセスを理解し、商品開発力の向上を図る。

- (ロ) 工芸品開発コーディネーターの育成とトレーニングマニュアルの作成:技術伝承、商品開発、流通、市場販売までの一連の流れを理解し、マーチャンダイジングプランの作成や、技術者に対して評価や提案を行なうことの出来る人材(商品開発コーディネーター)を育成する。その育成方法をトレーニングマニュアルとしてとりまとめ、全国の工芸学校や職業訓練校等での活用を提言する。

本パイロットプロジェクトから得られる成果品は下記である。

- (イ) プロトタイプ(漆器、木彫、石彫、ブロンズキャストイング)
(ロ) 工芸品開発コーディネータートレーニングマニュアル

2.5.3 タスクフォース

タスクフォースは以下のように構成される。

カウンターパート:	MARD, Vietrade
タスクマネージャー:	Mr. Pham Van Hoa, ハノイ工業デザイン大学
MARD カウンターパート:	Mr. Nguyen Thanh Dung (DAFPRI of MARD)
ローカルチーム	Ms Tran Thi Minh Hong (漆器)
(コーディネーター):	Ms. Nguyen Kim Thanh (石彫)
	Ms. Pham Hai Ha (ブロンズキャストイング)
	Mr. Vu Hoa Long (木彫)
JICA 調査団	清水文夫 (工芸品開発)

2.5.4 対象地域と工芸品目

プロトタイプを製作する工芸家(主にマスターアルティザン)は北部のバックニン省、ハタイ省、ナムディン省から選定された。

- (イ) 漆器:ハノイ、ハタイ省トゥーンティンディストリクト(Hanoi/ Thuong Tin district, Ha Tay)
(ロ) 木彫:ハタイ省トゥーンティンディストリクト(Thuong Tin district, Ha Tay)
(ハ) 石彫:ハタイ省トゥーンティンディストリクト(Thuong Tin district, Ha Tay)
(ニ) ブロンズキャストイング:ナムディン省イーイエンディストリクト(Y Yen district, Bac Ninh)

2.5.5 実施スケジュール

パイロットプロジェクトの実施スケジュールは以下の通りである。

図 2.5.1 PP5 実施スケジュール

	ステージ1	ステージ2	ステージ3
スケジュール	2002年11月～ 2003年2月	2003年3月～ 2003年6月	2003年7月～ 2003年9月
プロトタイプ	①素材及び テクスチャー	②工芸品	③競争力のある 工芸品
イメージ			 (展示会イメージ)

2.5.6 活動内容

プロトタイプの作成:コーディネーターは工芸家と共同作業のもと、全てのステージにおけるプロトタイプを開発し(計 375 点)、2003 年 9 月に展示会を開催した(表 2.5.1 参照)。

表 2.5.1 製作プロトタイプ数

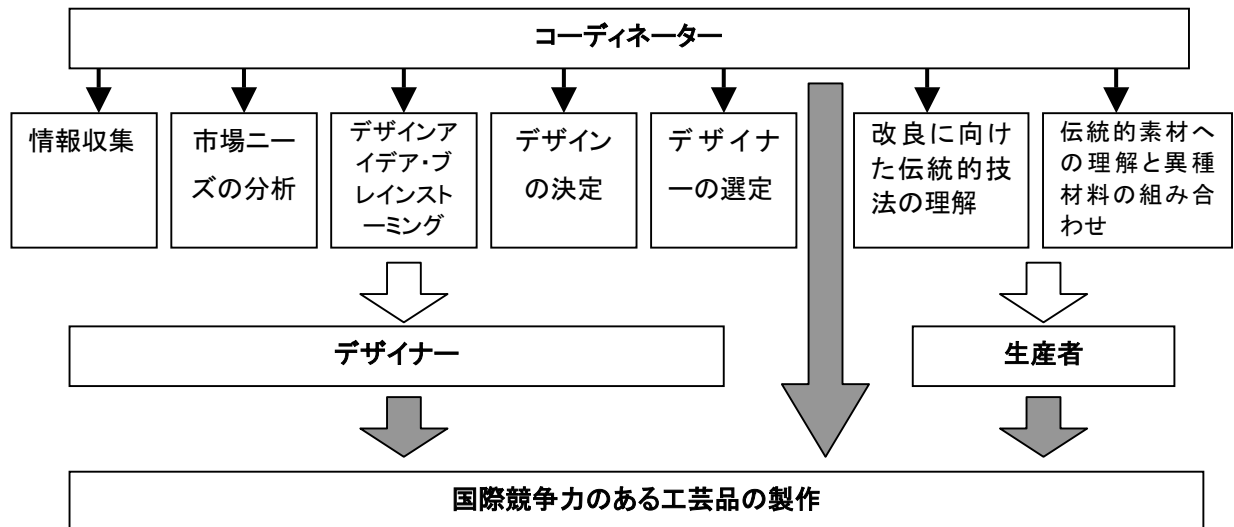
各ステージの プロトタイプ数	漆器	木彫	石彫	ブロンズ キャスト イング
①素材及びテクスチャー	50	30	30	25
②工芸品	50	25	25	20
③競争力のある工芸品	50	25	25	20
合計	150	80	80	65

出典:JICA 調査団作成

コーディネーターの育成:コーディネーターの育成は、まずその役割の認識をすることから始まった。コーディネーターの役割は主に下記である(図 2.5.2 参照)。

- (イ) 様々な工芸作家、デザイナーの持ち味を知り尽くし、素晴らしい素材や技術を持っている企業と彼らを組み合わせ、商品を企画する能力を持つ
- (ロ) 企業活動全体を把握し、商品開発の重要性を全体的に浸透させる
- (ハ) 地域もしくは企業内で商品の開発プロセスおよび、システムを構築する
- (ニ) クライアントの要望を客観的に把握した上で商品開発のプロセスのシステム化をそれぞれのクライアントの特性に合わせて提示できる
- (ホ) 高級品、中級品、ローコストなセカンドブランドなど、戦略的に商品を開発し、商品の体系、ブランドの体系を構築する能力を持つ
- (ヘ) 一歩先のビジョンを常に提案でき戦略的な発想の元に商品開発を実行する能力を持つ
- (ト) 流通との幅広いコネクションを開拓し、地域及び企業の経営目標を達成する能力を持つ

図 2.5.2 工芸品製作におけるコーディネーターの役割



出典:JICA 調査団作成

コーディネーターの活動:コーディネーターは多くの工芸村に出向き、優れた技術を持った職人が、新しい技術とベトナムのアイデンティティを兼ね備えた、多様性と国際競争力のある工芸品を製作できるよう、以下のような活動を行った。

- (イ) 市場トレンド調査:国際トレードフェアのカタログや小売店の情報などから、国際市場での流行を把握した。
- (ロ) 市場ニーズの分析:得られた情報から、多様な市場ニーズのなかでも特に文化の融合、アンティーク、少数民族製品、インテリアや寝室、食卓での装飾などについて分析し、消費者のニーズを理解するとともに、伝統的な素材や天然素材がベトナム工芸品の競争力強化につながることを理解した。
- (ハ) デザインの作成:市場ニーズにあい、入手可能な素材を用いた工芸品のデザインスケッチを繰り返し、優れたデザインを選定した。
- (ニ) 競争力のある工芸品製作のためのデザイナーと生産者との共同作業:工芸品製作に関わる3つの要素、すなわちデザイン(色や形)、機能(経済性、利便性、安全性)、意義(社会性、環境、人間性、コミュニティ)の価値を理解し、かつ生産工程や素材を理解しているデザイナーを選定し、優れた工芸家とともにその理解の共有化に努めた。
- (ホ) プロトタイプ製作とコスト・品質管理:プロトタイプの製作にあたっては、コストの決定や品質の管理を適宜行ない、工芸品が美術品としてもその品質を満たすような完成度を目指した(図 2.5.3、図 2.5.4 参照)。

図 2.5.3 ステージ1によるプロトタイプ製作

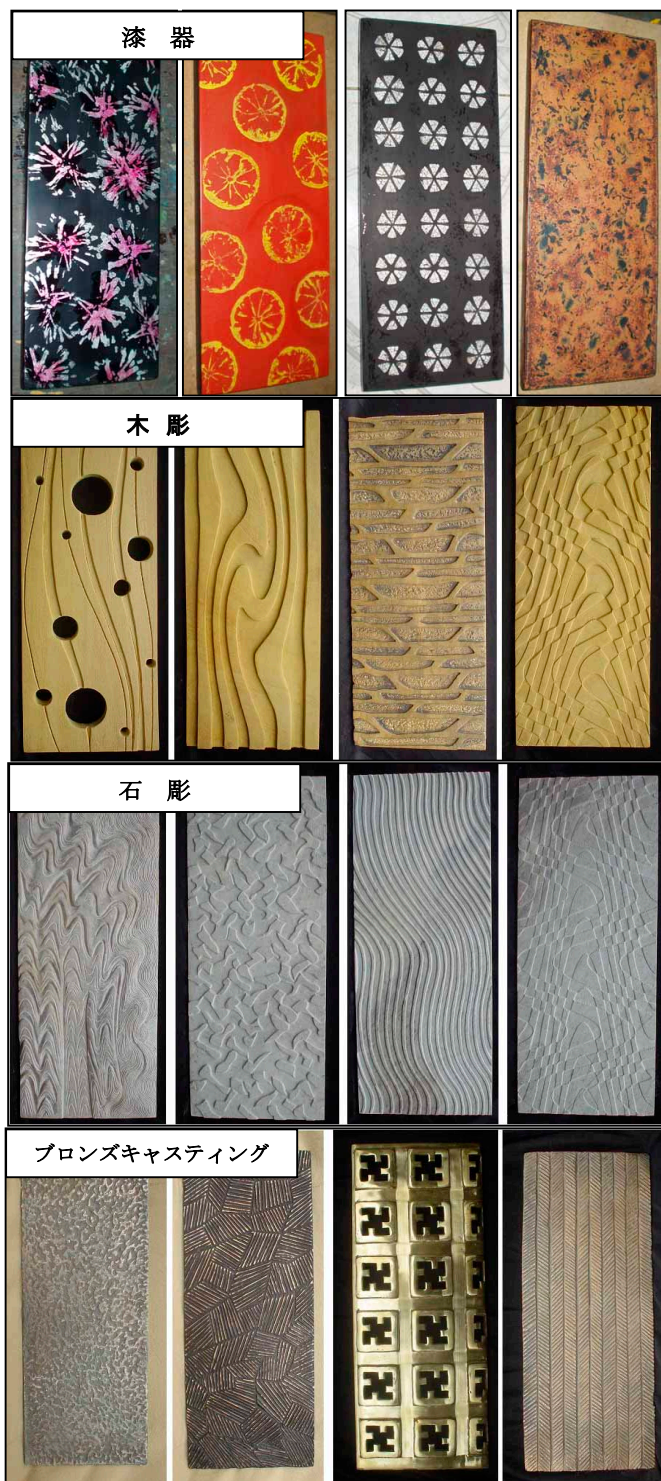


図 2.5.4 ステージ2によるプロトタイプ開発



2.5.7 実施上の問題点と課題

このパイロットプロジェクトでは、伝統工芸を理解し、伝統工芸の技術を使って、いかに国際市場のニーズに答える商品開発をするかがテーマである。

現在では、生産者は問屋のオーダーによる単なる下請業者化し、エンドユーザーの要望が全くみえていない状態になっている。つまり「売り手」(問屋)が「使い手」からの情報を「作り手」(工芸職人、デザイナー、生産者)にフィードバックしておらず、「作り手」は「使い手」の具体的な場面や気持ちを全く知らないまま制作している。また伝統工芸品の品質、技術を継承しているとは言えない。さらに一般的にベトナムの生産者は「品質、コスト、納期」問題を抱えている。また、海外市場のマーケットに対しては、消費者の生活習慣の情報は皆無と言っていい。

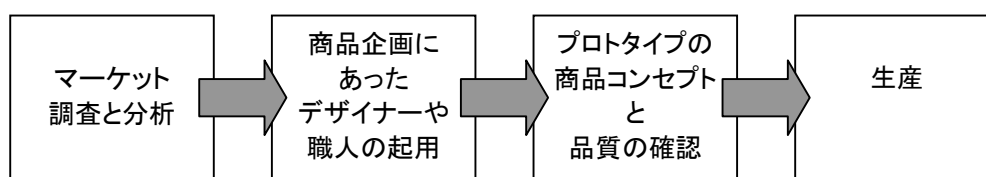
また伝統的な材料に関しても問題は多く、例えば漆器に伝統工芸とはほど遠い化学塗料を使っているケースも多く、伝統の断絶が多くみられる。

伝統工芸という文化的資産を継承し、いかに魅力的な工芸品を開発していくか。そして国際市場へ向けた製品改善とデザインが課題である。具体的には下記である。

- (ハ) 伝統工芸品の作られ方、特徴を生かして魅力ある商品の生産
- (ニ) 市場ニーズを捉え消費者が使いたいと感じ、使い勝手のイメージが分かりやすい製品の開発
- (ホ) 新製品アイデアを抽出し、そのアイデアを絞り込み、ターゲットの使用場面を確認しつつ、製品化すること
- (ヘ) 将来の世界市場をにらみ、伝統工芸品としての品質管理に関する厳格な意識を習慣づけること

ここで設定したコーディネーターは、プロジェクト全体を総括し、デザイナー、職人などチーム全体を指揮する役目である(図 2.5.5 参照)。

図 2.5.5 コーディネーターの業務の流れ



出典:JICA 調査団作成

2.5.8 活動結果

コーディネーターの意義の理解:コーディネーターの存在によって、デザイナーと工芸職人の間をつなぎ、自在に商品開発するという方法を新たに確立した。これはこれまで都市部の民間企業やショップにしかみられなかった工芸職人とデザイナーの連携による商品開発プロセスを、コーディネーターという人材育成によって幅広く適用できる新しい手法である。

コーディネーターの存在は、下記に挙げるように、新しい工芸産業像の模索を促し、地域文化の個性化とブランド化を確立する動きを生むことが出来る。

- (イ) 積極的な商品開発による、デザイナーや職人の意欲と競争力の向上
- (ロ) 従来の伝統工芸の枠組みを越えたデザインと工芸の結びつきを模索する運動
- (ハ) 伝統工芸の保存と継承。また工芸に対するマインドの醸成のチャンス
- (ニ) 流通や販売のチャンスの拡大
- (ホ) 伝統技術、技法の継承と伝統素材の持つ新しい可能性の発掘。既存技術を生かし、異素材との組み合わせの導入で新しい製品の検討
- (ヘ) デザインの重要性。現在の生活に慣れ親しむデザインの模索の促進、エンドユーザーが使いたいと思う工芸品アイテムの開発研究に対する意欲の促進

- (ト) 作業環境の変革や生産の合理化への影響
- (チ) 工芸を通じた生活像の提案と模索
- (リ) デザイン・工芸の認知の理解促進
- (ヌ) 消費者の工芸品に対する意識の喚起

市場競争力のある伝統工芸品の開発:プロトタイプ製作にあたった多くのマスターアルティザンが、自らの伝統技術を活かし、新たなデザインの導入によって、市場ニーズに対応した商品を生み出すことが出来た。ベトナムの伝統技術を活かした新たな商品開発の可能性を見出すことが出来た。

2.5.9 得られた教訓

1) マーケティング

世界のマーケットからベトナムの工芸品が支持され、「売れるモノづくり」が出来るようになるためには、どのようなアプローチをとればよいか、マーケティングの原点は、顧客に対してどのような目的を達成すればよいかという事である。基本的にマーケティングの発想は、極めて実践的・個別的なものであると考える。つまり顧客一人一人と店一軒一軒とダイレクトに接して、そこから自分の感性、洞察力を持って仮説を見出すことである。今回コーディネーター達は未熟であったが、現状を自分の目で正確かつ具体的に見極め、流れを感知し、状況を分析する訓練を積んだ。今後さらに経験をつみ重ねることで成長すると考える。今回はチームメンバーが本や雑誌を読み、見本市やショップを調査し、人の話に耳を傾け、観察することから始めた。具体的な手順は下記である。

(イ)マーケットトレンドの分析による教訓:工芸品が人々を引きつける理由は、近年の社会的な状況が要因である。環境問題に対する共感から癒し感を求めたり、自然回帰的になったり、文化的なノーマディズム(放浪者)や民族特有のものを大切にしたりする傾向にある。自然に対するあこがれ、優しさ、親密さ、ロマンティズムを求め、都市生活の空間にそれらの雰囲気を取り入れる。芸術的な工芸を収集し、美術館のようなインテリアを作ったり、テーブル装飾を施したりしている。このようなマーケットリサーチの分析から、工芸の持つ手作りの温もり、風土と共にはぐくまれた技術、原材料に支えられた美しい素材などが、現代の社会にあっては逆に求められていることを再認識することになった。

(ロ)開発する製品の仮説設定作業における価値観の共有:以下のような商品を具体的に調査し、マッピングしながら仮説を立てた。目標を互いに理解し工芸の応用に向けて、価値観の共有化を図ることが出来た。

- ・生活に活気を与え、シンプルでありながら少しだけ装飾的な要素のある商品。
- ・プライスに見合う品質を持った商品。
- ・高価でも気持ち良く使える付加価値の高い商品。
- ・目的が明確で、使われるシーンがすぐイメージ出来る実用的な商品。

(ハ)コンセプト策定の過程での「生活志向」とデザインの取り組み方の認識:メンバー全員が、今日の生活者達の「生活志向」を共に考えコンセプトを設定し、どのようなものを提供するかを考えた。その作業の過程でユーザーの立場に立って互いに議論し「このようなモノが欲しい」という願望をベースにして、組み立てた。これにより、ユーザーの立場に立った開発の姿勢をチーム全体で共有できた。

- ・ 現代生活の中で精神的ゆとりを持ちながら、生活の楽しみや潤いをもたらす心地良い商品
- ・ 楽しい雰囲気を取り入れ、毎日の暮らしに安らぎやゆとりをもたらす商品
- ・ 海外での健康志向で環境に影響を与えない暮らし方や、セルフコントロールの効いた生活スタイルに調和したアジアスタイルの製品

(ニ)伝統工芸の素材のスタディーによる伝統工芸の再認識:伝統工芸の素材のテクスチャーの仕上げ方を約 100 種類製作し、チェックした。このプロセスの中で、伝統工芸の価値の認識が高まったとともに、サンプル作りを通して、伝統工芸の技術によって様々な素材感の試作を行った。地域で長く継承してきた伝統工芸の、自然で暖かい手作りの「独自の味」を再発見した。

2) プロトタイプ

試作が目標とずれていないか互いにチェックし、そして次の改善試作に進め、よりよい品質に仕上がるようにつとめた。品質向上への意欲と意識が高まった。マーケットをリサーチし「もの」の使われ方、生活感を考えながらマーケットを理解すること。製作現場で工芸家と素材感について検討し、開発をした。そして、チーム全員が共に創作の喜びを共有出来た。

このような商品開発のアプローチは、さらに技術・技法の改善を促し、魅力のある新しい工芸品を生む方法だと思われる。

2.5.10 マスタープランへの提言

全ての開発過程でコーディネーターが総括するというこの開発方法は、今まで一般的にベトナムで行われている商品開発の方法で重要視してこなかったいくつかの点を浮き彫りにしている。

- (イ) マーケットニーズの問題。ライフスタイルの研究を通じたマーケットの要望の検証
- (ロ) 伝統的な素材の使用、伝統工芸的な技術の展開と応用
- (ハ) 形だけではないデザインのあり方
- (ニ) 商品開発へ傾ける情熱のモチベーション

コーディネーターを主軸とする商品開発のシステムは、伝統工芸の素材と技術などの価値を再認識し、マーケットニーズや現代の生活シーンにあった新しい工芸の開発を可能にすることが出来る。このような商品開発システムを、教育や民間の場で人材育成や商品開発の実践を通じて進めることが求められる。このようなシステムの確立と、コーディネーターの活躍を通じ

て、民間セクターの活性化だけでなく、産地の強みや自らの技術ポテンシャルを見出せずにいる農村部の活性化につなげることが出来る。

コーディネーターの開発システムの提案について表 2.5.2 にまとめた。

表 2.5.2 コーディネーターの開発システム

開発システム	検証方法
1) 商品開発の動機(開発の前提条件、要望)	・ マーケティング力(伝統工芸の再認識、開発商品に何が望まれているかというニーズの把握)
2) マーケットリサーチ ¹⁾	
3) ニーズの把握	
4) コンセプトの作成	・ 企画力(商品でトレンドを伝える方法)
5) デザイナーの起用	
6) 工芸家を起用と素材・テクスチャー・製作方法の検討	・ 商品としての完成度のチェック(品質)
7) プロトタイプ製作	・ 商品としての完成度のチェック(プロポーション、テクスチャー、機能性、使用感)
8) 価格戦略	・ 国内外展示会・品評会での評価 ・ 国内外市場での販売 ・ 契約交渉・トラブル処理などの実践 ・ 消費者からのフィードバック
9) クオリティーコントロール	
10) 商品としての生産	
11) マーケットプロモーション(パッケージ、売り場等)の検討	

出典:JICA 調査団作成

1)マーケットリサーチは事例の研究、市場にある情報の収集をし、ニーズを設定する行為である。どのような製品が生活シーンの中で使われているか。そのデザイン機能、使用感、品質、素材などを調査する。

2.6 工芸村の環境改善

2.6.1 背景

工芸村は一般的に他の農村よりもインフラ整備が進んでいると言われている。しかし工芸産業が発展するにつれ、周辺環境に及ぼす影響は拡大し、今や工芸産業の環境問題は村内だけでなく、周辺地域との関係において検討されるべき重要課題となっている。特に水質汚染と固形物廃棄処理は優先すべき環境問題である。

環境保護法は科学技術環境省(MOSTE)と工業省(MOI)によって承認されているが、法に基づいた国又は省レベルの具体的な環境ガイドラインは存在せず、各企業は競争力や生産性向上を重視する一方で、環境改善への配慮はほとんどされていない。

また、労働環境の悪化に伴い、工芸従事者の健康悪化や工芸村の環境汚染(粉塵、染料や化学薬品による水質汚染、機械による騒音等)が顕著になっているが、これといった対策はなされておらず、また労働者の労働環境に対する意識も低い。

2.6.2 目的とアウトプット

本パイロットプロジェクトでは、ヴァンフック村の環境改善に向けた取り組みにより、他の工芸村

にも適用可能な改善提案を行なうことにある。特に工芸村の環境問題に対する政府支援方法及び、工芸従事者の意識改善のためのツール作成を目的とする。

- 1) **環境改善モデルプランの作成**:対象工芸村やコミュニティレベルでの環境問題を詳細に分析し、具体的な改善策を作成する。
- 2) **環境改善支援制度の提案**:アクションプランの成果をもとに、工芸に関わる環境保全・改善のための制度や支援策を提言する。

本パイロットプロジェクトから得られる成果品は下記である。

- (イ) ヴァンフック村の絹製品製作に関わる環境調査報告書
- (ロ) 工芸従事世帯のための環境改善・安全管理マニュアル(水処理、空気汚染、固形廃棄物、火災・爆発、騒音・振動対策、健康管理、労働安全・職業衛生、観光客数調査、国際環境基準¹⁾(SA8000・ISO9000・ISO14000)の9テーマ)

2.6.3 タスクフォース

タスクフォースは以下のように構成される。

カウンターパート:	MARD, ハタイ省 DOI, ハタイ省 DOSTE, コミューン PC
タスクマネージャー:	Prof. Phung Chi Sy (Director, ENTEC)
MARD カウンターパート:	Mr. Ton Gia Hoa (DAFPRI of MARD)
ローカルチーム:	Eng. Chu Cong Tuan (モニタリング, ENTEC) Dr. Nguyen Quoc Tuan (分析, ENTEC) Mr. Nguyen Dang Anh (設計, ENTEC)
JICA 調査団:	Mr. David Lees (環境改善)

2.6.4 対象地域と工芸品目

対象地域は、絹織物・染物のハタイ省ヴァンフック村(Van Phuc village, Ha Dong Town, Ha Tay)である。

ヴァンフック村には 20 以上の染物従事世帯と、785 件の織物関係の従事世帯がいる。現在、2.4~2.5 百万mの絹製品を製作可能な約 1,000 の機械がある。計 14.6ha の新しい工芸生産ゾーン建設の詳細計画は 2002 年に省人民委員会によって承認されている。この生産ゾーンの建設後には、織物機械の台数は2倍の約 2000 台に、染物機械は 200 台から 400 台に増える予定である。

¹⁾ SA8000(Social Accountability8000)は労働者の権利保護に関する世界基準の企業行動規範。ISO9000 は ISO(国際標準化機構)が定めた品質管理及び品質保証に関する国際規格。ISO14000 は企業や団体などの環境マネジメントに関する国際規格。

2.6.5 実施スケジュール

実施スケジュールは下記である。

表 2.6.1 PP6 実施スケジュール

活動内容	2003 年							
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1) 小川の汚染源調査								
2) 小川の流量測定								
3) 対応策の分析								
4) 廃水処理システムの計画								
5) ワーキンググループの設立								
6) 技術改善の実施								
7) 技術改善の実施方策に関する議論								
8) 内活動グループの設立								

2.6.6 活動内容

小川に流入する汚染源の調査:工場からの排出についての調査票を作成し、人民委員会、工芸生産ユニオン、ヴァンフック村コーポラティブの代表者などと協力の上、23 件の染物従事世帯及び2件の工場に対して調査を行なった。必要なデータを収集、分析するとともに、土地利用図に染物従事世帯及び廃水システムの位置を示した。

小川の流量測定:ヴァンフック村の一地点と Nhue 川の支流に流れ込む一地点において排水路の流量測定を行ない、雨季と乾季の排水路と Nhue 川の流量を推定した。

廃水の測定と廃水処理システムの設計:工場や家庭、排水路、川の上流と下流等から数点の廃水サンプルを収集し、pH、浮遊物、塩度、生物化学的酸素要求量(BOD¹⁾、化学的酸素要求量(COD¹⁾、色又は濁度を測定し、水質汚染度を測定した。その結果に基づき、廃水処理の手法を計画し、その適性を検証するとともに、詳細設計及びコスト計画を行なった。

図 2.6.1 染色工場での化学染料の使用と廃水



ワーキンググループの設立:実態調査の結果に基づいて計画された提案について、実施のための政策メカニズム確立に関する議論を行うために、DOI、DOSTE、ハドンタウン PC、ヴァンフック村 PC などからなるワーキンググループを設立して、月例ミーティングを開催した。

村内活動グループの設立準備:村内の環境改善活動の中心的役割を担うよう、ベトナム自然

¹⁾ BOD: Biochemical Oxygen Demand の略。COD: Chemical Oxygen Demand の略。

環境保全協会 (VACNE: Vietnam Association of Conservation of Nature and Environment) の支局として、村内にグリーンクリーンビューティフルクラブ (Green Clean Beautiful Club) の設立に向けた準備を進めている。

2.6.7 実施上の問題点と課題

調査によって明らかになった環境影響とその要因は下記である。

(イ)染物従事による水質汚染発生: 34 件の小規模世帯、1 件の中規模世帯、2 件の大規模工場を含む、染物従事世帯及び企業が水質汚染の発生源であることが明らかになった。発生源に対して物理化学的処理機材 (physico-chemical treatment facility) が汚染削減に有効である。

(ロ)有機物による河川の汚染: 排水路及びNhue 川は主に有機物 (BOD、COD 等) によって表面水がひどく汚染されている。排水路の浚渫や生物池などの水生植物の利用、物理化学的処理機材の適用などによる改善が有効である。

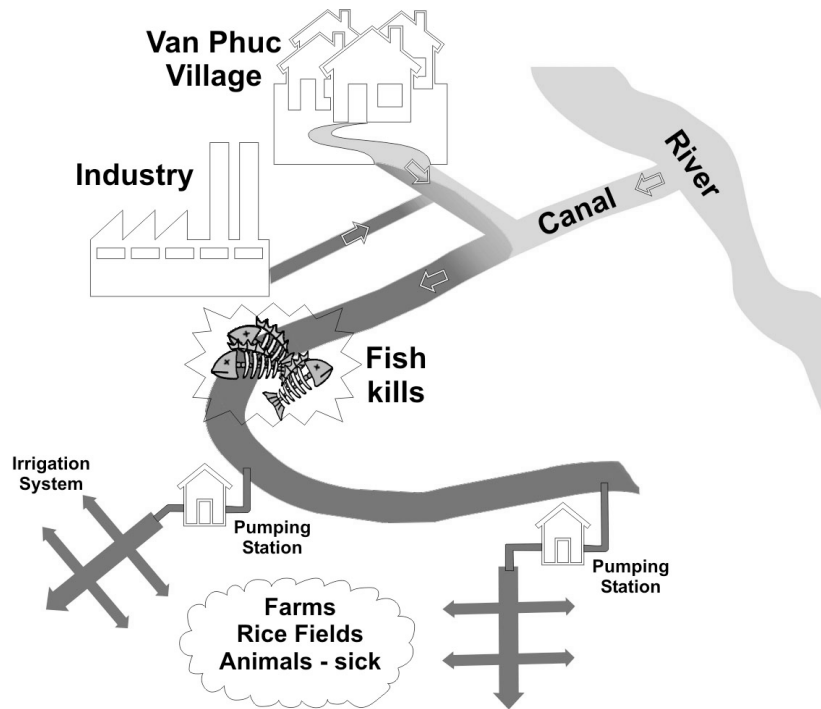
(ハ)下水システムの未整備: ヴァンフック村での下水システムは完成していないため、人体の健康に有害な影響を及ぼしている (水質汚染、悪臭等)。特に廃水処理の開放部についての下水システムの改良が必要である。

(ニ)固形廃棄物回収システムの未整備: 固形廃棄物がきちんと管理されておらず、その回収システムの改善が必要である。

(ホ)労働環境に対する意識不足: 企業や生産者の多くは生産性や効率性を重視し、労働環境には関心が薄い。劣悪な作業環境による健康被害の影響は大きいものの、適切な対応策が見つかっていない。

(ヘ)マクロレベルでの環境影響: 近隣の大規模工場からの環境への悪影響が大きく、周辺の農地や河川にまで影響を及ぼしている。地域環境の問題は村レベルでなく、周辺地域と共同で取り組むべき課題である (図 2.6.2 参照)。

図 2.6.2 マクロレベルでの環境影響



出典: JICA 調査団作成

2.6.8 活動結果

ハタイ省 DOI、DOSTE などの省政府及びヴァンフック村 PC、工芸従事者の参加のもとに継続的に開催したワークショップを通じて、以下の点について関係者の合意形成を行なった。

環境改善キャンペーンの実施: 工芸従事者だけでなく、全ての地域住民の環境に対する意識改善が最も重要な課題である。そのため環境に対する意識改善キャンペーンを実施する必要がある。

- (イ) 固形廃棄物回収プログラム: 固形廃棄物の集団回収を推進するためのコンテナやゴミ箱を村内に配置する。
- (ロ) 物理化学処理機の供給: 汚染水の排出源となっている、35 ある全ての染色従事世帯に対し、適切な水処理方法を行なうための検査を実施する。
- (ハ) 労働安全に関するマニュアルの配布
- (ニ) パンフレットやチラシの作成と頒布による広報活動
- (ホ) 村内美化活動グループに対する活動支援

DOIによる取り組み: DOIでは村に隣接した地域に、15haの工業ゾーン建設を計画している。土地は村民のために提供され、30%の前金(残り70%は分割)によって利用が可能である。生産者や企業の移転を促すため、長期低利貸付(ソフトローン)の活用も検討している。ハタイ省では同様のゾーン建設を200程度計画しており、これによって居住地と生産地の分離を図り、居住環境の悪化を防ぐことを目的としている。また、共同水処理施設の建設を前向きに検

討することとした。

村 PC の取り組み: ヴァンフック村 PC では、既に民間レベルの固形廃棄物回収システムを持っており、毎週土曜日には各世帯が清掃活動に取り組むよう促している。新しく建設される工業ゾーンには工場のほか、展示場や観光客センターの設立を検討している。また、観光客数調査を継続的に行っており、毎年 30-40%程度増加している¹⁾。今後村内活動グループの支援を一層強化していくこととした。

責任体制の明確化: 工芸村の環境問題にはその影響範囲や規模に応じて、管轄する政府機関が異なる。環境の課題については上記のように関係機関の責任所在が不明確で、具体的な改善策に至っていないことが多い。責任と役割の明確化とともに、村民の改善意識の向上に向けて関係機関やマスコミなどによる積極的な呼びかけが必要である。

(イ)工芸村・地域環境レベル: 一つの工芸村が及ぼす周辺地域への環境影響は、その関連性と原因を明確にする必要がある。また、工芸村内外の地域環境の改善にあたっては、MOST・MONE・DOSTE が中心となってその対応のための政策提言を行なう必要がある。

(ロ)企業レベル: 一企業の作業環境については、工芸産業の視点から、主に MOI・DOI が管轄となる。

(ハ)家内工業レベル: 主に健康被害が問題となり、作業環境改善に向けて MOI や DOI が対応に取り組むだけでなく、健康への影響を詳細に分析し、改善に向けた取り組みを MOH と共同で進める必要がある。

2.6.9 マスタープランへの提言

一般的に工芸産業は、生産工程において公害を引き起こしているという意識が非常に低い。現在 MONE は、環境法を遵守しない場合には罰金を支払う仕組みを導入して、法律を遵守させようとしている。汚染物質の種類、課税額がその法案に取り込まれるだろう。また MONE は日々のゴミ回収も家庭に費用を負担させることを考慮している。また、NEA (National Environmental Agency)はMOSTEから分離した新しい機関である。まだプログラムを策定中で、紙のリサイクルによる水質汚染、銅屑からの空気汚染、竹・籐工業からの化学製品の扱いを優先的に対処することを考慮している。多くの工業において、明確な汚染対策管理基準を設定する法律や規則がない事を認識しなくてはならない。数少ない基準は存在しても遵守されておらず、その基準が無視されていることがほとんどである。

中央政府は環境評価基準を設定し、省政府が地域産業にその基準を守らせる責任がある。しかし、これらの基準を施行するには、政府関係者や関係企業、工芸村の代表者などにより協議を重ね、費用も全ての関係者で合意の上で分担を行ない、一定の期間をかけて基準を満たしていくよう、段階的なアプローチをとる必要がある。

¹⁾ 一日に 1000 人の訪問客があり、毎年 7000 人程度の外国人観光客が訪れている。

2.7 少数民族のマネジメントキャパシティ向上

2.7.1 背景

ベトナムには53の少数民族がおり、人口の14%を占め、主に山岳地帯に生活しているが、その29%は貧困層である。山岳地帯の民生向上は国家計画¹⁾でも優先政策課題として挙げられている。少数民族は主に自家消費のために竹・籐製品や織物や金属製品を製作しており、観光客を対象に販売している。しかし、伝統的価値への理解の欠如や不安定かつ限られたマーケット、コスト意識の欠如、利益を中間搾取する仲介業者の存在などから、工芸製作が収入の増加や生活水準の向上に結びついていない。

2.7.2 目的と成果品

本パイロットプロジェクトは、少数民族の工芸に係わるビジネスマネジメント能力の向上を図ることを目的とする。具体的には下記である。

- (イ) **少数民族のビジネスマネジメントスキル向上とマニュアルの作成**: 工芸品の製作、販売に関わるマネジメントスキル習得のためのトレーニングを実践し、能力強化を図るとともに、このトレーニングプロセスをもとにマニュアルを作成する。
- (ロ) **少数民族による工芸振興プランの作成**: 少数民族自身による工芸振興目標を示した簡単なビジネス計画の作成を支援する。
- (ハ) **少数民族工芸支援モデルの提案**: プロジェクトの実施を通じて、政府関係者、関係機関、NGO等が協力して、少数民族支援の横断的な連携のあり方、必要な支援策や制度を提言する。

2.7.3 タスクフォース

タスクフォースは以下のように構成される。

カウンターパート:	MARD, ライチャウ省 DARD, アンザン省 DOI, PC, 女性連合
タスクマネージャー:	Ms. Tran Thi Thu Huong (クラフトリンク プロジェクトオフィサー)
MARD カウンターパート:	Mr. Nguyen Manh Dung (DAFPRI of MARD)
ローカルチーム:	Ms. Nguyen Hong Anh (チーフデザイナー, CL) Ms. Cao Minh Chau (デザイナー, CL) Ms. Vuong Thai Nga (アシスタント, CL) Ms. Nguyen Hong Van (デザイナー, CL)
JICA 調査団	Ms. Claire BURKERT (少数民族支援)

2.7.4 対象地域と工芸品目

対象地域及び対象工芸品は下記に示す通りである。

¹⁾ 「2001-2010年社会経済開発戦略」による。

表 2.7.1 PP7 対象地域と対象工芸品

省	ディストリクト	コミューン	工芸村	少数民族と対象工芸品
アンザン省	Tinh Bien	Van Giao	Van Giao	クメール族(Khmer)織物
ライチャウ省	Tua Chua	Sinh Phinh	Ta La Cao	赤モン族(Red Hmong)刺繍

2.7.5 実施スケジュール

実施スケジュールは下記に示す通りである。

表 2.7.2 PP7 実施スケジュール

	ライチャウ省	アンザン省
11月	—	・ ハノイでのクラフトリンクバザーへの参加
12月	<ul style="list-style-type: none"> 対象地域の実態調査 月例計画の作成 地元政府への表敬訪問 生産者グループの確立 	
1月～	<ul style="list-style-type: none"> コミューンでのオリエンテーションミーティングの開催 識字教育 ビジネスマネジメントトレーニング デザイントレーニング 	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ラオカイ省サパ(Sapa, Lao Cai)スタディツアーの実施¹⁾ マーケティングトレーニング 刺繍・縫製トレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングトレーニング 刺繍・縫製トレーニング
5月	<ul style="list-style-type: none"> ハノイにて女性連合と生産者グループによるビジネスプラントレーニングワークショップの開催(消費者からのコメントフィードバック) ハノイにて原材料市場・工芸品市場視察ツアー 	
		・ 染色トレーニング
6-8月	<ul style="list-style-type: none"> 経理システムトレーニング トレーニング成果の評価 ビジネスプランの発表 成果品の作成 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> 成果品の最終化 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> 各省政府にて最終セミナー開催 	

出典: JICA 調査団作成

1) サパは山岳地帯にある観光地で、少数民族が観光客相手に直接織物や刺繍を販売している。また NGO の支援によって設立された、少数民族が運営している工房・アンテナショップなどがある。

2.7.6 活動内容

生産者グループの確立: 現地調査実施後、アンザン省ヴァンザオ村 (Van Giao village, Van Giao commune, Tinh Bien district, An Giang province) 及びライチャウ省タラカオ村 (Ta La Cao hamlet, Sinh Phinh commune, Tua Chua district, Lai Chau province) から、プロジェクト参加者を選定した。

コミュニケーションミーティングの開催: ヴァンザオ及びシンフィンの中の二つのコミュニティで、3日間にわたりコミュニケーションワークショップを開催した。全てのレベルの地元政府、村民の代表者、選定されたコアグループが、労働のシーズンカレンダーや女性の労働チャートの作成、工芸品開発やマーケティングに対する意識、村の技術レベル、ニーズアセスメント、プロジェクトの目的等について参加型の議論を行なった。また最終日には、コミュニティ、ディストリクト、省の女性連合や、地元の人民委員会やDARDの代表者、村民、コアグループメンバーがグループディスカッションに参加した。このディスカッションではプロジェクトの方向性や、各組織の役割と責任等について話し合った。

ビジネスマネジメントトレーニングの実施: ビジネスや経理等への理解と手法について、生産者グループがビジネスプランを作成できるよう、トレーニングを実施した。

- (イ) ビジネスに対する理解
- (ロ) マネジメントチームの構成
- (ハ) コストと価格設定
- (ニ) 生産計画
- (ホ) 経理
- (ヘ) マーケティング
- (ト) ビジネスプランの作成

技術トレーニングの実施: 伝統的モチーフを活かして市場に適応した商品開発を行なうために、刺繍、縫製、織り、染め技術、伝統的デザインモチーフの活用方法の指導を行った。

ビジネスプランワークショップの実施: 2地域の生産者グループ及び女性連合がハノイに集まり、消費者によるフィードバックのケーススタディとして、参加者(主に外国人)からの質問や評価に直接対応した。また、ハノイ市内の工芸品店やベトナム民族学博物館を訪問し、都市部で少数民族の工芸品での販売方法や価格設定、その品質などについて直接理解することが出来た。

スタディツアーの実施: アンザン省ヴァンザオ村の織物グループの代表者5名が11月に開催されたクラフトリンクバザーとベトナム民俗学博物館を訪問した。また4月にはライチャウ省タラカオ村のグループメンバーが隣接するラオカイ省サパを訪問し、観光客を相手とした工芸品市場や少数民族が運営する工房の見学を行った。

図 2.7.1 現地での活動



2.7.7 実施上の問題点と課題

本パイロットプロジェクトはマネジメントキャパシティの向上であるが、それと同時に商品開発のトレーニングが必要とされた。対象とした2地域では、異なる問題点や課題が明らかとなった（表 2.7.3 参照）。

表 2.7.3 2対象地域の有利な点と課題

対象地域	有利な点	課題
ライチャウ省タラカオ村（赤モン族）	<ul style="list-style-type: none"> 市場について積極的に学ぶ姿勢がある。スタディツアーではサパのモン（Hmong）族との意見交換を通じて、工芸ビジネスに対する意欲を向上することが出来た。 対象村に観光客を呼び込んで工芸販売をしたいという意欲が高い。 新商品に対するアイデアが豊富で、刺繍技術も高く、全て単純な手作業で製品をつくる事が出来る ディストリクト WU と PC の強力な支援が得られている 短期間で生産者グループが形成され、地元やハノイの市場に適応した商品開発が行なえるようになった 	<ul style="list-style-type: none"> 識字率が低く、外部からのマネジメント支援が必要とされる より時間をかけてマネジメントとマーケティングのスキル向上、最終製品の開発を行なう必要がある
アンザン省ヴァンザオ村（クメール族）	<ul style="list-style-type: none"> 政府関係者や女性連合から強力な支援を得られた¹⁾ 織物技術者は織りと染めの技術向上に意欲が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 過去に女性連合によってつくられたコーポラティブに対してマネジメントと経理の向上が必要である 織物技術者の識字レベルが低く、資金管理やマーケティングに参加することが出来ない コーポラティブにマーケティング戦略がなく、126 メンバーに対して安定収入を確保するだけの市場を持っていない 品質の良い地場の絹と染色材料を確保できない 価格設定の方法を知らない 市場に対応した商品開発のためには織り技術の向上が必要である タイやカンボジアとの競争意識が欠けている 政府支援が必ずしも現地の状況に適していない。²⁾

出典：JICA 調査団作成

1)ディストリクト女性連合は若いクメール族女性に対してスカラシップ制度を設け、マネジメントグループのメンバーとして活動できるよう学べる機会を提供しようと考えている。

2)政府は織物技術者のためのトレーニングを行っているが、参加者の収入向上には結びついていない。技術の向上よりも、貸付、設備のための資金支援の方が織物技術者のニーズに適している。政府が貸付や生計のための支援に関するインパクトを評価する必要がある。

また、両地域に共通に見られた課題は下記である。

- ・ トレーニングの開始当初はコアグループを確立し、少人数に集中して行なう方が効果的で

ある

- ・ 少数民族の識字教育やマネジメントスキル向上については、コミュニティの外部からの強力な支援と、モチベーションを高める必要がある
- ・ ある程度識字が出来る若手メンバーに対して、識字や計算に関する教育を充実させることにより、グループリーダーになることが出来る
- ・ 地域の外で市場を見つけるためには、市場情報を得るために外部の支援団体(NGO 等)に頼る必要がある
- ・ 同じ少数民族グループや異なる工芸品と出会うことにより、競争力を高めることが出来る
- ・ 販売時に損得が出ないように、価格設定は全てのメンバーに理解される必要がある
- ・ 品質の良い原材料は地域内では入手が困難であり、場合によっては輸入品を利用することも検討すべきである
- ・ 国内観光客への販売ポテンシャルも存在しており、それを拡大すべきである
- ・ 市場の需要に適した技術向上のための外部からの資金支援が不足している
- ・ 技術やデザインの文化的背景を記録する必要がある
- ・ 女性連合などの関係機関にも同様にビジネス、マネジメント、コミュニティ開発などのトレーニングが必要である
- ・ 識字が出来なくても、実践や指導を通じて、生産者グループによるビジネスプランの概念の理解と計画は可能である

2.7.8 活動結果

トレーニングの成果: 2つの少数民族生産者グループに対してマネジメントとデザイントレーニングを実施し、どちらのグループも一定のキャパシティを向上することが出来た。アンザン省ヴァンザオ村のクメール族グループではコアグループを中心としたコーポラティブの活動が推進され、コミュニン女性連合によるモニタリング・指導が行われるようになった。また、ライチャウ省タラカオ村モン族グループは、既に自ら商品デザインを手がけられる能力を身につけ、市場開拓のためにディストリクトの中心部での販売も行なうようになった。

少数民族の工芸品振興への関心: 少数民族の工芸品には独特な伝統的技術と受け継がれてきたデザインがあり、彼らはその技術の改良と、新しい市場に向けた商品開発に関する知識を得ることに関心がある。他の民族と出会い交流する機会の提供によって、工芸品のビジネスを興す意欲を高められるなど、域外研修が大きな効果をもたらすことが明らかとなった。

工芸ビジネストレーニングの必要性に対する政府の理解: 適切なトレーナーとファシリテーターによる少数民族に対するビジネストレーニングの効果と必要性が、政府関係者にも強く認識された。現状ではこのようなトレーニングを実施するのは主に NGO の支援に頼っており、政府機関が少数民族に対するマネジメントキャパシティ向上の必要性を理解し、支援をしていくことが必要である。同時に、地元政府や関係者がコミュニティ開発や工芸企業振興、マーケティングに関するトレーニングに参加することにより、少数民族支援に対してよりきめ細やかな支

援を行なうことが可能となる¹⁾。

2.7.9 得られた教訓

トレーニングの方法: 識字や計算のトレーニングは工芸品企業の開発に非常に効果的である。トレーニング教材はトレーニング実施を通じて改良を加えながら作成し、新しい生産者グループに対するトレーニングに活用されることが望ましいが、これには政府の支援が重要である。ローカルパートナーとして参加する政府関係者や関係組織のメンバーもトレーニングに参加することにより、そのトレーニングの必要性を理解し、より適切な支援を行なうことができる。また、コーポラティブは、生産者グループのメンバーがマネジメントの必要性と役割を理解し、市場需要が高まりを見せて初めて参加することが望ましい。

伝統的価値の記録の必要性: コミュニティが工芸開発のどの部分に価値があるかを理解できるように、伝統的な技法や文化的価値を記録する必要がある。

交流の重要性と外部からの支援: 他の少数民族の工芸振興プロジェクトを見学したり、他地域に生活する同民族と交流することにより、多くの教訓を学び、少数民族や支援団体の意識を高めることができる。また、生産者グループは NGO や関係機関によって技術指導や市場に関する知識を得る必要がある。

政府による原材料確保支援: より良い品質の原材料(染色材料や絹糸など)を生産できるよう、国全体で取り組む必要がある。特に政府機関は高品質の原材料が国内で入手できるよう支援をする必要がある。

2.7.10 マスタープランへの提言

政府や関係機関への啓蒙活動: 支援を行なう少数民族グループの選定や、トレーニング方法などについて意識を高めていくことが必要である。そのために今回作成されるハンドブックを共通ツールとして、政府関係者や関係機関を対象としたワークショップを開催し、広く啓蒙活動を行なうことが重要である。

少数民族間の交流: 省レベルや地域レベルでの工芸フェアの開催などにより、少数民族の工芸コミュニティの交流を図ることが出来る。

技術情報や機材の提供: 織機や絹、染色材料など、改良された技術に関する情報を提供するためのセンターを地域ごとに設立することで、新しい技術を具体的に知ることが出来る。また、工芸従事者の多くは機材改良などの資金不足に悩んでいるため、工芸従事者のニーズにあった機材の提供や資金援助を行なう必要がある。

¹⁾ 例えばこれまでアンザン省 DOI は、コーポラティブメンバー全員に対する織りのトレーニングを実施してきたが、大きな改善はみられなかった。本 PP により、コアグループの確立によってはじめに優れた職人や指導者を育成し、彼らがその技術を他のメンバーに指導していくという、より効率的な方法を確立し、省政府の協力と理解を得られた。

労働・地域環境への配慮:織物産業は特に女性が家庭内で従事する場合が大半である。しかし織機の設置空間は狭く、また染めや煮沸など、居住環境に影響を及ぼす作業も多い。このような労働環境の改善に対する政府の支援が求められる。

教材の作成:工芸企業開発やビジネスプラン作成とあわせて、識字や計算能力向上のための教材を開発する。

マネジメントキャパシティの向上:工芸企業振興には、メンバー個人のマネジメントキャパシティの向上が不可欠である。このキャパシティは政府や関係機関の支援とトレーニングによって改善することが出来る。

ショップの設立と自主運営:生産者グループで管理運営するショップに対して資金支援を行なう。その資金支援にはショップの運営と販売のトレーニングが含まれている必要がある。

販売機会の提供:少数民族に対して、国や地域での展示会への参加機会や、観光情報センターでの販売機会を提供する。

少数民族工芸品の記録:地域や省の工芸品振興のために、少数民族の伝統的工芸品や伝統の変化について記録をする。

少数民族工芸品の保護:商標に関する政策立案や文化財に関する法律を通じて、少数民族の伝統工芸品を保護していく。

2.8 工芸村開発戦略

2.8.1 背景

工芸製作に従事している村の多くは農業やその他の業種と兼業しているため、工芸振興だけが村の持続的な発展につながるとは限らず、村の問題を包括的に捉え、その一手段としての工芸振興を村の発展計画のなかに位置づける必要がある。また、工芸従事者の多くは各世帯で独自に工芸に従事しており、工芸品や工芸村共通の問題意識を把握し、その改善のための組織づくりや情報交換を出来るような機会はほとんどない。

中央政府は、国全体の工芸振興の必要性を農村経済政策の中に位置づけており¹⁾、首相決定 132 号において工芸村や工芸従事世帯に対する支援策の必要性を認めつつも²⁾、工芸村に関する情報や問題意識の不足から、その具体的な方策を見いだせず、工芸村に対する支援や改善は未だ行われていない。

¹⁾ 「2001-2010 年社会経済開発戦略」

²⁾ ”Decision No.132/2000 of the Prime Minister on a Number of Policies to Encourage the Development of Rural Trades”

中央や省レベルでの確固たる政策のフレームワークの構築に加えて、工芸村が自ら工芸開発に関する戦略を作り出すことも同様に重要である。

2.8.2 目的と成果品

本パイロットプロジェクトは、工芸村の総合的かつ持続的な発展を支援するメカニズムの構築を明らかにする目的で行なうもので、下記の成果を予定している。

- (イ) **工芸村開発戦略の提案**: 参加型手法を取り入れた現地調査の実践により、工芸村全体の問題を捉え、工芸村における工芸振興の意義や必要性を総合的な開発方針のなかで具体的に位置づけた、持続可能な工芸村開発戦略を提案する。
- (ロ) **政府による支援メカニズムの提案**: 工芸村が提案する戦略やアクションプランを実施するために必要な、中央や省政府、人民委員会等が支援すべき具体的内容を明らかにする。
- (ハ) **工芸村における参加型開発計画の手法提示**: 政府機関と NGO の協力による参加型手法のプロセスを通じ、工芸村における参加型開発計画の策定の方法や内容を明らかにする。

2.8.3 タスクフォース

タスクフォースは以下のように構成される。

カウンターパート:	MARD
タスクマネージャー:	Ms. Nguyen Thi Thanh Tam (コンサルタント、BBI)
副タスクマネージャー:	Ms. Nguyen Thi Thu Que (コンサルタント、DED)
MARD カウンターパート:	Mr. Ton Gia Hoa (DAFPRI of MARD)
ローカルチーム: アドバイザリ	Mr. Chu Tan Quang (CIEM of MPI)
グループ	Mr. Vu Quoc Tuan (首相府)
	Mr. Bui Xuan Vinh (首相府)
ワーキング	Mr. Trang Van Vien (ハタイ省 DOI)
グループ	Mr. Nguyen Kim Bang (ニンビン省 DARD)
JICA 調査団:	Mr. Bui Dinh Toai (参加型開発1)
	阿部朋子 (参加型開発2)
	渡辺亜矢子 (社会環境)

2.8.4 対象地域と工芸品目

対象地域及び対象工芸品は下記である。

表 2.8.1 PP8 対象地域及び対象工芸品

省	ディストリクト	コミュニオン	工芸村	工芸品
ハタイ省	Thoung Tin	Duyen Thai	Ha Thai	漆器
ニンビン省	Kim Son	An Hoa	Village 8	い草

図 2.8.1 PP8 プロジェクトサイト

ハタイ省ハータイ村の漆器

ニンビン省 No.8 村のい草



2.8.5 実施スケジュール

パイロットプロジェクトの実施スケジュールは下記である。

表 2.8.2 PP8 実施スケジュール

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
準備										
二次データのレビュー	■	■								
対象工芸村の選定	■									
手法の開発		■	■							
ワーキンググループの選定										
村でのトレーニング										
ハタイ省ハータイ村			■							
ニンビン省 No.8 村					■					
調査・インタビュー										
ハタイ省ハータイ村				■						
ニンビン省 No.8 村						■				
省レベルワークショップ										
ハタイ省						■				
ニンビン省									■	
アクションプランの実施										
ハタイ省							■	■	■	■
ニンビン省										
ハノイセミナー										■

2.8.6 活動内容

(イ)対象工芸村の選定

パイロット対象地域選定のための以下のようなクライテリアを設定した。

- ・ 工芸品開発を通じて人々の生活水準が改良される必要性
- ・ 工芸品開発の機会のポテンシャル
- ・ 雇用創出機会のポテンシャル

- ・ 輸出用工芸品生産のポテンシャル

これらのクライテリアに基づき、選定のためのワークショップでいくつかの候補が挙げられた。候補村の訪問後、ハタイ省ハータイ村(漆器)とニンビン省 No.8 村(い草)が選定された。

(ロ)ワーキンググループの選定

参加型手法の開発ののち、対象村でワーキンググループが組織された。これらのメンバーは異なるステークホルダーの代表者であり、地方政府関係者(コミュニン・ディストリクト・省・中央の人民委員会等)、農民、民間企業の代表者、工芸協会、工芸従事世帯、マスターアルティザン、工芸従事者などからなる。選定にあたっては男女の公平性にも留意した。これらのチームは調査のみならず、村の社会経済状況、工芸生産の経済的役割とその拡大等について理解する計画プロセスに積極的に参加した。

これらのワーキンググループは参加型手法とプロジェクトの説明によってトレーニングを受け、ローカルチームとともに情報収集のプロセスや工芸村開発戦略及びアクションプランの提案に取り組んだ。

(ハ)手法の開発

重要な情報分野と評価ガイドラインを準備し、主な質問事項や評価ツールが開発された。重要な情報分野は、①自然資源、②人材、③財源、④インフラとその他機材、⑤組織の評価、⑥工芸村開発に関わる政策、の6つである。

(ニ)PRA トレーニング

このトレーニングコースは現地チームに PRA による参加型手法の技術移転を行なうことを目的に開催された。用いられるツールはベン図(Venn Diagram)、フォーカスグループディスカッション、貧富のランキング(Well-being Ranking)、村のマップ作成(Social Map)、キーインフォーマントインタビュー、シーズンカレンダー(Seasonal Calendar)等である(図 2.8.2 参照)。現地チームは PRA ツールを用いて村の現況を分析し、将来の姿を描くことができる。

トレーニングコースは調査及びインタビューに続いて実施された。収集された情報は、イ)コミュニティの経済状況、貧困度合、一般的な村の状況分析、ロ)工芸生産に関わる情報(労働環境、生産工程、収入増加、雇用機会等)、ハ)工芸政策に関わる支援策、ニ)5年後の村のシナリオ、などである。

トレーニングコースの実施によって、以下のことが可能となった。

- ・ 参加型手法を用いて工芸村の状況を分析する意義や必要性等についての参加者の意識が深まる
- ・ 村の現況を分析するための参加型ツールを用いるための知識と技術が身につく
- ・ 工芸村開発戦略と計画プロセスに基づいた状況分析に参加することが出来る

図 2.8.2 PRA トレーニング

関係者ネットワークのベン図



PRA によるトレーニング風景



(二)状況分析とインタビュー調査の実施

トレーニング実施後、5日間の PRA ツールを用いた状況分析 (Situation Assessment) を行ない、村の現況を分析し、経済、社会、教育、環境の側面から、村の持つ強み、弱み、限界、危険性、有利な点、問題点、好機が明らかとなった。この活動を通じて、関係機関や政府関係者に対する提案や支援の要望などについて多くの意見が出された。

同時に、村内の工芸従事者や関係機関にインタビュー調査を実施し、工芸品開発にあたってのポテンシャルや課題、提案事項について質問を行った。これらの結果についてタスクフォースとともに、コミュニケーショングループ内で議論を行った。

(二)工芸村開発戦略(案)の作成

状況分析や村内インタビューの実施により、工芸村開発戦略(案)が作成された。開発戦略は概ね以下のような項目から構成される。

- (i) 村の現況と課題(自然、経済、社会・文化・教育・環境、インフラ等)
- (ii) 農村開発における目標と工芸振興の位置づけ(政府の取り組み、村の持つ優位性等)
- (iii) 持続可能な工芸村開発戦略(2010年まで)
- (iv) 具体的な優先課題と取り組み方法
- (v) アクションプラン
- (vi) 支援メカニズムの提案

(ホ)省レベルセミナーの開催

工芸村内でのミーティングや現地調査活動を継続した後、6月3日にハータイ村で、9月8日に No.8 村で、省レベルセミナーが開催された。PRA による参加型調査手法の意義と方法の説明、村民による開発戦略(案)の説明ののち、政府関係者からのコメントとして支援メカニズムの提案が出され、またハータイ村では課題別グループディスカッションを行った。

(チ)アクションプランの実施

ハータイ村では、開発戦略の作成後、アクションプランリストのなかから「漆器アソシエーション

の設立」と「伝統的価値の保全」の2つのプロジェクトを立ち上げた。プロジェクト実施にあたって、村からローカルコーディネーターとして若手工芸従事者が選定され、タスクフォースの助言を得ながら、これらのプロジェクトの実施準備や関係機関との調整にあたっている。

2.8.7 実施上の問題点と課題

政府機関の不明確な役割分担: 中央から地方政府への支援体制はあいまいで、連携が図られていない。特に省政府による支援は不明確であり、役割分担がなされていない。すなわち省レベルで中心となる工芸セクターの管理機関が存在していない。

地域に行き届かない政策: 政策の実施はトップダウンで一方通行である。支援プログラムや政策の実施は主に政府機関を対象にしているため、民間組織や関係機関には支援が行き届いていない。また政策システムが地域の人々のニーズを反映していない。法的な枠組みや政策は具体的な支援の実施やその手法に適していない。

村民の参加意欲の継続: プロジェクトの実施段階では、このプロジェクトが目に見えない形で成果となること、またその目的を十分に理解することが困難なことから、村民の参加意識を促進することに時間と労力を要した。

包括的な計画立案に必要な知識: 本パイロットプロジェクトが、社会経済、文化、環境など幅広い課題を含んでいることから、それぞれの分野に知識を必要とされた。そのため実施主体であるタスクフォースの経験と知識量が求められた。

工芸村開発に関わるマネジメントスタッフ不足: 村民の多くは工芸製作の経験が豊富で、多様な知識を持っているものの、環境、労働者の健康、ビジネス戦略などへの意識は低く、知識も限られていた。これらに関する専門知識を持ったマネジメントスタッフがいなかったことが、村やコミュニティレベルでの工芸振興を十分に促進できない潜在的な阻害要因といえる。

PRA にかかる時間とコスト: PRA 手法を用いた状況分析には時間とコストがかかる。いくつかの活動は統合するなど、その節約と効率化を検討する必要がある。

地元政府の予算の限度: ディストリクトやコミュニティの予算には、工芸振興活動に活用できるような項目がない。

2.8.8 活動結果

村民による村の開発ビジョンの構築: 工芸製作に実際に従事しているのは農村部にいる生産者である。これまで工芸振興や地域開発に関わる政策や計画は全て上位の政府機関に委ねられていたが、本 PP での工芸村マスタープランの提案により、工芸村の実態とニーズに即した開発計画を描くことが可能となった。これにより産地の声が上位の政府機関に届くようになったとともに、政府機関は産地の実態をよりの確に把握できるようになった。

工芸生産の経済開発へのインパクト:2つの工芸村でのプロジェクト実施を通して、工芸製作が村民やコミュニティにとって、収入向上や地場での雇用促進に対して極めて重要な役割を果たしていることが明らかとなった。また多くの工芸従事世帯が工芸製作を維持し、振興したいという意志を示している。特にハータイ村の漆器生産は経済活動の中心であり、地域の経済開発に不可欠な要素である。

アクションプランの実施:開発計画は村民や関係機関の参加によってつくられ、ハータイ村では村民の手によっていくつかのアクションプランが実施されようとしている。開発戦略を具体化するためのアクションプランは細分化され、より具体的な実施計画と予算計画が提案された。また、村民によって提案されたプランには村民の努力によって実現可能な計画が多い。

強みと弱みの明確化:地元政府にはこれまで、包括的な計画策定の視点が欠けていた。コミュニティが直面している環境影響や健康被害、低品質な商品生産など、マイナスのインパクトを見直すことにより、地場にある資源を明らかにすることが出来た。これによって包括的な将来の開発計画をつくることが可能となった。

周辺地域からの参加:ワークショップには、村内だけでなく、ディストリクトやコミューン内の企業や生産者、関係機関が多く参加した。これにより地域全体の工芸品振興にプラス影響を及ぼすことが出来た。

政府機関の参加:村民による計画プロセスの過程での省政府や地元政府の参加により、本パイロットプロジェクトの意義、役割、得られた経験と教訓が政府にも理解できるようになった。

マニュアルの共有化による他地域への適用:工芸村開発のための参加型手法マニュアルは、ディストリクトや省政府関係者、コンサルタントに活用されることにより、他の工芸村でも同様の活動を行うことが出来る。PRA 手法の知識だけでなく、本パイロットプロジェクトによって得られた教訓を盛り込むことにより、他地域での実践によりその経験を活かすことが出来る。

2.8.9 得られた教訓

政策システムの構築:具体的な支援内容や手法、予算配分に適した政策システムの構築が必要である。特に予算配分は実施する関連組織に適切に配分される必要がある。

適切な支援体制の構築:工芸村開発は、関係機関の適切な連携と明確な役割分担があつて初めて可能となる。この過程において、特に民間 BDS プロバイダーの役割が強化される必要がある。

ステークホルダーの役割分担の明確化:各レベルの政府機関や関係機関の役割を慎重に検討する必要がある。工芸村開発のための政策実行に特に重要な役割を果たすのは省政府、そしてディストリクト、コミューン政府である。

開発戦略の適正化:提案された開発戦略やアクションプランなどの解決策は、時間をかけて、

より実際のニーズに即した適切な内容になるよう十分に検討される必要がある。

2.8.10 マスタープランへの提言

工芸振興の方向性は地域の経済開発の方向性や計画と合致していなければならない。本プロジェクトを持続可能にし、その成果を拡大するためには特に以下の内容が必要とされる。

- (イ) 地元政府の能力強化と積極的、創造的感覚の向上
- (ロ) 参加する村民への働きかけと意欲促進のための積極的な取り組み
- (ハ) 政府及び関係機関との連携、特に省政府からの政策・財政支援
- (ニ) NGO や関係機関による技術指導や技術移転

工芸開発の方向性は地域開発計画のなかで十分に検討すべきである。地域固有の要素については、関連ステークホルダーの参加のもと、十分に議論される必要がある。その際には、コミュニティのリーダー的人材が持つ創造性や原動力が、コミュニティ開発の計画のなかで重要な役割を果たす。

工芸村に潜在的に存在する問題は、様々な要素や課題を同時に検討していくという、包括的な計画の不足である。そのために、工芸村の支援には村民の参加が必要であり、工芸生産活動やビジネスの課題など、様々な課題の関連性をつなぎあわせながら、解決方法を見出していくことが重要である。さらに、包括的な計画の実施には特に、制度や組織など、政策を実施するためのシステムが不可欠である。

工芸村にはそれぞれ地域条件、可能性、資源、強みを持っており、工芸村開発にあたって、共通の戦略は存在しない。そのために工芸村が他から学ぶことが出来るのは、そのプロジェクト実施にあたってのアプローチと様々な手法である。地域の状況を分析するためには、地域住民の積極的な参加が欠かせない。それゆえに地場産業振興には特にこれらの参加型調査・計画のプロセスが不可欠であり、村民や関係機関の参加が求められる。

3. パイロットプロジェクトの成果と課題

3.1 工芸情報システム

3.1.1 成果

省政府との情報共有化: 工芸マッピング調査の実施及びセミナーやワークショップ参加などを通じて築いた省政府(DOI、DARD)とのネットワークは、省別の工芸情報を得るときに充分活用することが出来る。

全国 61 省との情報連携体制の確立: 省レベルで工芸セクターを所管する DARD や DOI の協力によって、省、コミューン、工芸村レベルの様々な情報やデータを収集できるようになった。成果品として、工芸マッピング調査結果に基づく全国 61 省及び約 2,000 の工芸村のプロファイルデータが作成された。また、マッピング調査や省政府フォローアップ調査での質問項目によって、これまで全国的な分布が不明であったマスターアルティザン、職業訓練学校、博物館などの存在が明らかになった一方で、これらの情報の所在や管轄機関の不統一性などの課題も明らかとなった。

関連組織との連携強化: VCA、VCCI、VIETRADE、VARISME などの非政府機関が、中小企業振興や輸出振興を図るための具体的な活動母体となる。また各地域に存在する職業訓練学校やローカルミュージアムは、その組織体制や活動内容について全国的に共有化されていないが、今後の追加情報収集により、全国的なネットワークを図ることが出来る。

3.1.2 課題

ウェブ管理のための技術不足: MARD は今後、工芸ウェブサイトの情報の充実・更新を図っていくとともに、各省及び工芸関係者と MARD との間の情報交換システムの充実を期待しているが、そのためにはまず政府機関内での人材育成が必要である。MARD では技術面でのメンテナンスと活用度を向上するため、MARD 内情報センター(Center of Information)を主たる管轄部として、各省を対象とした技術訓練を展開していくことを検討している。

情報更新能力の不足: ウェブサイトのメリットは常に新しい情報を更新できることにあるが、そのためには情報収集や整理を行なう人材が必要である。本調査を通じて MARD カウンターパートの情報収集能力は強化されたものの、それを適切に処理し、ウェブ情報として公開するノウハウは不十分であるといえる。また、特に市場や輸出入に関する情報を収集するノウハウは MARD 内にはなく、VIETRADE や VCCI など、貿易や中小企業振興を所管する専門機関からの情報の方が優れているといえる。MARD 工芸ウェブサイトの強化と情報更新にあたっては、情報処理のための人材育成と、個別課題に関する情報収集の継続(例えば原材料や技術情報等)が必要である。

3.1.3 越側による今後の展開

省政府による情報収集・処理能力の向上: マッピング調査結果はデータベースとして全省に

配布されており、これらが今後省政府レベルでの政策検討や計画策定に活用されることが望まれる。特にハタイ省ではマッピング調査の分析結果を省 PC に提出しており、様々な政策議論の場でそのデータが活用されている。

マッピング調査の継続と情報活用:先に述べた通り、本調査におけるマッピング調査結果は様々な機関の関心と呼び、既に他の関係機関でも利用されている¹⁾。今後はこれらのデータを活用して、工芸セクター振興のみならず、農村開発や産業振興、経済評価の視点からの活用などが望まれる²⁾。

課題別情報の充実:本パイロットプロジェクトを通じて、工芸セクターに関わる個別課題に関する情報源(所管政府機関等)が分散していることが明らかになり、原材料供給、技術、デザイン、マーケティング等、各課題について更なる情報収集や分析を行なうことが出来なかった。そのため、今後政府機関内で設立が期待されている工芸セクター担当組織のなかには、政府関係者だけでなく工芸専門家や研究者により広く情報提供を呼びかけ、専属の情報管理担当者を配置することによって、工芸情報提供の更なる充実が求められる。

ウェブサイト以外の情報提供手段の確立:これまで述べたように、ベトナムでは未だウェブサイトの活用は一般的でないため、特に農村部の工芸村に対しては、直接都市部からの情報を伝達し活用できるような参加機会の提供が必要である。例えば工芸情報誌の発行、経営者セミナーや見本市の開催などを、都市部だけでなく地域ごと(コミュニティや省レベル)で開催するなどが考えられる。また、ベトナムでは海外の文献雑誌類が入手しづらいことも、情報入手のネックとなっている。特に工芸製作者やデザイナーに対しては、他地域や海外の工芸品やベトナム工芸品の海外での評価を知ることも重要であり、国内外の工芸関連資料の収集と提供についても、政府レベル(MOCI等)での検討と、民間セクターやNGOによる情報提供を積極的に進める必要がある。

3.2 工芸クラスター開発

3.2.1 成果

コンサルティングサービスによる経営管理能力と意識の向上:プロジェクト実施後の裨益者へのヒアリングによると、ハタイ、クアンナム両省ともに経営管理能力向上プログラムの活動を高く評価しており、地方政府、関連組織、参加企業ともに満足度は高い。そのため、両省ともに今後活動を継続する強い意志を示しており、地域での高い持続可能性が期待できる。また、ベトナム全土への適用可能性についても積極的な評価を得られた。

工芸技術訓練プログラムによる産地間の技術者交流:工芸技術訓練プログラム実施に関する現地側の評価は高く、クアンナム省は本 PP において適用された形式で、今後も活動を継続

¹⁾ 例えば Vietrade が 2003 年 8 月に出版した”Vietnamese Handicrafts& Traditional Craft Villages - Ceramics -”では、工芸マッピング調査結果に基づく陶器村の全国分布データが活用されている。

²⁾ 産業振興の視点からは UNIDO がクラスター開発プロジェクトの実施にあたって本データベースの活用を期待している。また、慶應大学菊池正助手からは、本データの活用によるマクロ経済分析の可能性についてコメントがあった。

していくとのことである。特に今回は、指導者の不足しているクアンナム省に対して、ハタイ省の優れた職人や講師が出向いて講義を行なうなど、指導者の地域間交流が行なわれたが、このような人材交流に対しての省政府の支援は、関係者からの大きな賛同を得られた。

指導マニュアルの作成:本パイロットプロジェクトを通じて、数種類のマニュアルが成果品として作成された。そのうち「経営改善・生産工程改善マニュアル」は、零細・中小企業経営者を対象として、日本の生産管理ノウハウを活用した内容で構成されており、数値評価による定量的な改善度合の把握が可能となった。また「木工技術訓練マニュアル」「竹・籐製品技術訓練マニュアル」は工芸専門家や職人の手によって作成され、道具の説明やデザイン指導などを、挿絵などを活用した分かりやすい内容となっており、講師及び訓練生からも好評を得ており、他省での活用も期待される。

絹糸及び手織絹製品の品質向上:タイビン省において実施された絹の製糸工程の改善プログラムによって、絹糸や絹製品の品質が目に見える形で改善された。製品の品質改善が生産者自らの手によって行われたインパクトは大きく、既に関係者は市場向けの新商品として開発を進めている。また、DOI 及び DOSTE の協力により、2003 年 12 月には「タイビン省の黄繭手織絹製品に関わる品質基準」について省人民委員会の承認を得た¹⁾。これにより、この品質基準に基づく絹製品については、検品証書付きの商品として市場販売を行なうことが可能となり、今後の市場拡大が望まれる。

省政府オーナーシップの向上:本 PP ではハタイ省 DOI、クアンナム省 DARD、タイビン省 DOI を調査団のカウンターパートとして技術移転を図った。そのため省政府のスタッフが直接工芸村を訪問し、コンサルティングサービスの実施や生産者への指導を行なうことにより、そのノウハウが蓄積され、また省政府による産地の現状や課題に対する理解が深まった。

3.2.2 課題

政府内の人材不足:本 PP で実施された活動に対する省政府関係者の継続の意思は高く、今後の展開については省政府内で検討している(具体的には 3.2.3 参照)。本 PP では日本人専門家による裨益者への直接指導が行われたが、今後これらをベトナム関係者内で継続していくためには、このような専門技術を持った指導員が必要となる。特に省政府が中心となって推進していくためには、政府内に経営改善、生産管理、品質管理などの専門知識を持った人材の育成が必要である。

民間セクターとの協力の必要性:経営改善向上については、ドナーや BDS プロバイダーによる、中小企業振興や起業家支援の一環として、経営者を対象としたセミナー開催やトレーニング実施などが実施されている。しかしこれらの既存プログラムは主に都市部で開催され、工芸セクターの中心である農村部の零細企業まで対象になることは少ない。これらの既存プログラムや実施主体となっているドナーや BDS プロバイダーとの協力により、例えば省政府が専門

¹⁾ “Decision of Thai Binh People’s Committee, Release of Local Standard, 27/TCV 02 – 2003: Yellow Hand-Spun Silk Yarn – Technical Requirements”, issued December 16th 2003

家や講師を招いて省レベルでのセミナーを実施するなど、官民の連携による経営改善活動が可能である。

市場からの最終評価:本 PP の活動成果を図るには、経営者の意識改善や生産性の向上だけでなく、最終的に「商品が売れるようになったか」という市場からの評価も重要である。特に生産工程改善のなかで行われた商品展示方法の改善による効果(売上高、観光客数等)や、品質が向上した絹糸及び絹製品の売上高への影響などについても評価やモニタリングを継続する必要がある。

省政府での責任体制の明確化:省工芸振興が盛んな省では、その多くが DOI の責任のもとに支援が進められている。しかしクアンナム省では、本 PP のカウンターパートである DARD には工芸担当部署はあるものの、職員数は数名と限られている。また、工芸担当部署そのものが小規模であり、企業指導の経験も少ない。一方で DOI では工芸を含む工業振興センター (Industrial Promotion Center) を設立、17 名の普及員を配置し企業指導活動を行っている状況から、経験、仕組み、人材の面でキャパシティは DARD より大きいと判断される。同センターの機能としてビジネスマネジメント及び生産工程管理指導は含まれておらず、専門技術は有していないため、同センターを通じて PP の活動を継続していく場合には、トレーナーの育成が不可欠である。クアンナム省では、省 PC を中心に、DOI、DARD、観光部 (DOT)、財務部 (DOF) 参加のもと工業振興マネジメントコミッティを組織しており、本 PP についてもコミッティ関連部局にその成果が報告されている。これまでも工芸振興分野においては、さまざまな形で DOI と DARD の共同・役割分担によるプロジェクトの実施例があることから、今後は関係者間での自発的な役割分担の決定と、より効果的な活動体制の確立が期待される。

3.2.3 越側による今後の展開

コンサルティングセンターの設立(ハタイ省):DOI の一部署としてビジネス・コンサルティング・センター設立を構想中であり、省 PC にプロポーザルを提出済みである。同センターは、PP にて育成された 3 名の DOI オフィサーをフルタイムのローカルコンサルタントとして配置し、将来的に増員する予定としている。センター機能は、PP で実施した経営改善及び生産工程改善分野のほかに、起業支援(会社登録の方法指導、工房等の建築に関する助言、実施可能性調査、土地の借り方指導、ローン獲得方法の指導など)を幅広く行なう。将来的には、マーケティング指導やデザイン指導なども機能として盛り込むとともに、同センターの一部サービスを有料とするなど資金面での自立性を確保していく。

産業拡大プログラムの活用:省政府では DOI を中心に、産業拡大プログラムを利用した工芸技術訓練などが実施されている。本 PP では製作技術だけでなく、経営・生産工程改善、品質管理など、これまで人材育成の視点から欠けていた課題にも焦点をあてて指導を行なった。また訓練コースの開催だけでなく、専門家が直接企業を訪問し指導を行なうことによる改善のインパクトも大きい。工芸振興に関わる人材育成を行なうための枠組み(機能と財源)として、産業拡大プログラムの活用方法の多様化は効果的な方法と考えられる。

産地間の人材交流: ハタイ省は、工芸振興のための政策メカニズムの設立、マスターアルティザンの派遣など、既に他省への協力関係を構築しており、工芸振興の先駆者として他省への指導などの協力を進めていく意向を持っている。ハタイ省美術学校の講師はこれまでも他の省の産地での技術指導を行っており、このような産地間での人材交流や技術移転に対する政府の資金支援などのニーズは高いと考えられる。

技術訓練と教材作成: クアンナム省の職業訓練学校が、DOLISA 管轄から省人民委員会の直轄へと変更されたことから、省庁間の調整が不要となり、今後は活動効率性の更なる向上が期待される。同校では、PP 活動より得た知識をもとに、新たに工芸コースの設置を検討中である。同コースでは、省内外のマスターアルティザンを講師に迎え、優れた工芸技術を学生に移転するとともに、ビジネスマネジメントに関する知識も同時に移転し、工芸企業経営の知識を有した工芸製作人材の育成に取り組むものである。対象工芸品としては、籐・竹、木彫、陶器など省内で特に盛んな品目に焦点を絞り、それらに共通する問題点の把握と解決方法を探っていくことが必要と考えている。同校副校長は、PP のローカルコンサルタントとして参加しており、こうした教育に必要な基礎知識は有している。また、DARD、DOI との関係も良好であり、両部からの協力も期待できる状況である。また、本 PP で技術指導マニュアル製作にあたった工芸専門家及び職人からは、現在のところこのような技術指導マニュアルが存在しておらず、今後はその他の品目についてもこのようなマニュアル作りを進めたいとの意向が高い。

検品制度の活用と技術指導: 検品制度と品質基準の確立については、工業製品については既に品質基準が設置されているが、手工芸品に関する基準は設定されていない。省レベルでは、まだどこも絹糸の検品制度確立に至っておらず、タイビン省での品質基準が全国初となった。今後この制度を他省が利用するには、タイビン省に対する利用料の支払いが発生することから、省政府は高いインセンティブを有するとともに、織物従事者に対するトレーニングの実施等にも意欲を見せている。今後の活動の展開としては、タイビン省内での絹糸産業従事者への技術指導とトレーニング（繭選定、紡ぎ、絹織り）の実施が挙げられる。また、検品技術については、PP 実施に関わった CSRO に専門技術者がいること、また DOSTE が品質管理を担当しており機械織り製品の検品ノウハウを持っていることから、この2組織を中心に検品制度の拡大をしていくことが望ましい。

3.3 工芸品の伝統的価値保存システムの構築

3.3.1 成果

参加型調査手法の確立: 本 PP で用いた Photovoice という手法は、カメラを用いて村民が自ら撮影した写真を通じて村の生活を広く一般に知らせる方法を、工芸品の伝統的価値の発掘と保全に活用しようという取り組みである。この手法は、村民自らが自分たちの村の伝統を発掘することが出来ること、工芸品を通じて伝統だけでなく生活習慣など、工芸村の状況全体を記録できること、調査員や専門家と村民が共同して調査活動に参加できる双方向の調査手法であること、少数民族の村など言語が異なる環境下においても写真がコミュニケーションツール

となる、などの特徴があげられる。工芸村の生活に根付いた工芸品の価値を発掘する参加型調査の手法として、新しい試みである。また、その手法は、調査関係者の創意工夫によりベトナムの村民の協力しやすい形態へと加工され、最終的に参加型調査手法として確立し、そのノウハウはマニュアルとしてまとめられた。

工芸村におけるきめ細かな情報収集:この手法を用いた工芸品の伝統的価値情報の収集は、PP 対象村民の参加により従来の研究手法以上にきめ細かな情報を収集することができ、その成果は実施機関である民族学博物館スタッフを始め関係者に広く認められる結果となった。特にこれまでの一般的な工芸品・工芸村調査では、調査員の視点のみで現地調査やインタビューが行われることが多く、調査の対象となる工芸村や従事者に与える影響はほとんど無かった。しかし本 PP では、調査員と村民のダイアログを通じて、工芸村の村民の間や、若者と高齢工芸製作者との交流の機会を提供するとともに、村民による工芸村の伝統的価値への認識、そして工芸振興への関心が高まった。特に失われつつある伝統技術やモチーフの掘り起こしが、裨益者のイニシアチブにより行われたことは、伝統価値保全の視点からも大きな成果であったといえる。

観光資源としての活用:最終セミナーと併せて、展示会を民族学博物館で一ヶ月間開催した。調査研究成果としてのアピールだけでなく、観光客にとっては展示されたフォトパネルや工芸品がベトナム工芸や少数民族の生活を知るための情報源となった。工芸振興を図るにはなにより視覚的に訴えることが重要であり、そのためにも写真情報は観光資源のためのツールとして活用が可能である。

3.3.2 課題

既存調査や工芸専門家との連携:Photovoice による調査結果の分析は主に VME 調査員内で行われたため、工芸専門家や研究者による専門的な分析と活用はなされていない。学術的研究としての位置づけ、もしくは既存調査との連携が今後の課題である。また、Photovoice は現在の村の状況を記録することが中心となるため、失われた伝統的価値の発掘と記録については Photovoice だけでなく、既存の調査方法や結果の活用と併せた総合的な調査が期待される。

調査資金の不足:Photovoice はカメラを用いるため資金がある程度必要となる。この手法を全国的に拡大する場合、資金面にも配慮する必要がある。例えば写真だけでなくスケッチ等による記録など、手法の多様化の可能性も大きく、プロジェクトの拡大にあたっては地域特性に応じた適切な調査手法を模索していくことが必要である。

地方博物館のキャパシティ不足:全国 61 省の大半に地方博物館は存在するが、地方によっては資金難や来客不足、管理不足によって開館されていないところも多く、管理者のみで学芸員がいないことから、調査活動はほとんど行われていない。またこれらは省人民委員会によって管理され、中央レベルでネットワークが一元化されていない。各地域で調査活動を実施するためには、このようなローカルリソースの活用が重要であるが、その核となるべき地方博物

館での人材とノウハウが不足している。

3.3.3 越側による今後の展開

観光開発とのリンケージ:対象工芸村の一つであるライチャウ省のナサン2(Na Sang II)村は、セミナーにおいて地方政府関係者の関心を集め、省政府によって Cultural Tourism Village 候補に追加されることが決まった¹⁾。山岳地帯や僻地においては、観光による集客が工芸製作者の収入向上に大変重要であり、ライチャウ省の観光開発資源として工芸振興が重要な役割を果たすという認識が政府関係者間でも高まっている。また、バックニン省ダイバイ(Dai Bai)村では、村の公民館で展示会を開催したが、そのまま継続して展示することで、より幅広い層の観客を集め、伝統工芸への社会的関心を高めていきたい考えである。

工芸品振興活動への発展:対象工芸村においては、PP 活動を通じて収集・分析された情報に基き、今後は、生産技術向上のためのトレーニング、ビジネスマネジメント技術向上のためのトレーニング、商品開発活動、広報活動など、工芸品振興に向けた活動が考えられる。具体的な計画には至っていないものの、展示会を通じて省政府や支援団体の関心を呼ぶことで、これらの継続活動が村民の参加意欲を高めるインセンティブともなり、また実質的な工芸村の発展を促し、さらには伝統的製作手法やその価値の保存へとつながっていくと考えられる。そのためには参加した村民自らがフォトボイスの成果をいかに活用し、自立発展活動へ結びつけていくかが重要である。

民族学博物館による継続活動:工芸品の伝統的価値に関する調査研究的側面については、実施機関であるVMEが、生産技術トレーニングコースの開催をはじめ、伝統的な手作業による生産手法についてのセミナー・教室の開催、機械作業と手作業を上手にバランスしながら伝統的価値を保持していく生産方法の模索、高校生など学生を対象とした工芸品に関するセミナーなどの活動を検討している。また、工芸品の古いデザインの収集活動や、現時点からの工芸関連情報を蓄積していく活動など、伝統的価値をもつ工芸品・工芸の学術的蓄積も期待される。さらに、手法の普及については、既に南部の省・市(アンザン、カントー、HCMC など)の地方博物館や大学と共同で、セミナーや展示会を計画している。

3.4 工芸品振興のためのデザイン振興システムの構築

3.4.1 成果

デザインガイドブックの作成によるデザインへの認識向上:デザインガイドブックの作成により、PP 関係者のデザインに関する考え方に変化がみられるようになった。これまで、特にハノイを中心とするベトナム北部では「デザイン＝芸術(アート)」という考え方が主流であり、市場の需要に応えたデザイン(＝ビジネス)という考え方はなされてこなかったが、同ガイドブック及び社会調査に基づくデザインづくりの一連の流れを体験することが、こうした考え方の変化をもたら

¹⁾ オランダ NGO の SNV が予定しているライチャウ省観光開発プロジェクトのなかで、ナサン2村に対する支援も検討している。

したものといえる。一方、HCMC においては、既に「ビジネスのためのデザイン」という考え方が、企業や政府関係機関、関連大学等において広く認められる。したがって、本 PP の考え方はベトナム南部でより一層広く、また早期に受け入れられると期待できる。

デザイン振興へのムーブメント: このプロジェクトの背景にもなっているように、デザインに対する共通理解を促進するための活動が中心である。デザインの背景となる地域性や伝統的価値の活用、競争力を高めるためのデザイン力強化、そのための人材育成や啓蒙活動など、デザイン振興システム構築のための活動は幅広く、今回のプロジェクトでは日本のデザイン振興事例を参考としながら、ベトナムのデザイン関係者や諸機関と協働してデザイン振興のためのムーブメントの第一歩を進めることが出来た。

3.4.2 課題

既存のデザイン関連活動との連携不足: 今後ベトナム工芸品が国際市場への進出を一層目指すためには、工芸に係わる中小企業の育成・強化が不可欠であることから、インダストリアルデザインを中心にその振興を促すための活動が既に行われている¹⁾。本 PP では VIETRADE や VCCI などの産業振興機関との連携が充分ではなく、また工芸専門家からは「工芸＝芸術」という認識が強く、産業分野との連携の必要性が十分に議論されていなかった。デザイン活動の実践のためには、若手だけでなく、工芸専門家や伝統工芸職人による産業振興のためのデザインの必要性について理解を得る必要がある。

デザイン振興のための行政の取り組み: ベトナム工芸品のアイデンティティと伝統を保全しつつ競争力を強化していくためには、デザインというソフト、ノウハウ、技術の活用と概念形成に関する政府レベルでの取り組みと、デザイン模倣に関する課題や意匠権保護といった法整備等についての検討が求められている²⁾。ベトナムにはデザイン振興に関する業務を一元的に所管する部署はなく、現在は MOI 傘下にデザインセンター設立の検討を進めているが、具体的な実現策には至っていない。

3.4.3 越側による今後の展開

デザインガイドブックの活用: 作成されたデザインガイドブックは、デザインという概念の共通理解を図るためのツールとして活用できる。そのため、今回 PP を実施したハノイ工業デザイン大学では、これを学生への教材として活用することを検討している。専門学校ではカリキュラム構成の自由度が高いことから、工芸に限らず、デザイン指導を行なう教育機関での活用も期待される。また、VIETRADE や VCCI などの産業振興機関からの評価も高く、今後これらの機関が実施するセミナー等で紹介することで、産業界と教育界の連携を図るツールとして活用

¹⁾ (財)国際デザイン交流協会によるデザイン交流ミッション(1996～99年)、セミナー、ワークショップ開催等デザイン振興支援事業(1999年～)の実施、また VIETRADE とアセアン日本センターの共催によるアセアンデザインセレクションセミナー(G マーク事業)が昨年に続いて今年3月4日に開催された。いずれも工業デザインや日用品という視点から工芸品も対象として取り上げている。

²⁾ 意匠権を含む工業所有権は MOST 管理下の工業所有権管理局が、輸出振興の視点からグラフィック・パッケージデザインは MOT が、クラフト・ファッションデザインは文化情報省が事業免許発行等の業務を行っている。

が可能である。

デザインセンター設立の具体的検討:実施機関であるハノイ工業デザイン大学関係者は、今後の展開として HCMC を拠点としたデザインセンターの設立を検討している。構想としては、企業の要請に応じてデザインを作成して販売するセンターとなる予定であり、「デザイナーの育成」と「研究・開発」の2つの機能(部門)を配置する。前者では PP で作成したデザインガイドブックを用いたデザイナーのトレーニング、後者については、VME、Fine art Institute、歴史博物館、地域の工芸品収集家ほかの国内研究機関等と連携を行なうことにより、骨董工芸品に関する情報を確保するものである。

民間セクターによるデザイン活動の推進:企業の要請対応型のデザインセンター機能は、既に HCMC の大学や市人民委員会の下に設置された投資貿易促進センター等において実施されている。HCMC 関係者及び調査団担当者によれば、こうした HCMC デザインセンター機能は、技術や知識が少なく、そのノウハウ向上が不可欠であるとのことである。技術面については、デザインガイドの活用による向上が期待されることから、幅広い配布・普及が不可欠である。このほか、より技術面に特化した支援、例えば行政支援によるデザイン専門家の派遣や、民間セクターでは外国人デザイナーによる技術移転など、具体的なデザイン活動の推進が求められる。また、このような企業要請対応型のデザインセンターが個別の活動を行っていくことのほかに、各デザイナーの連携を図りより効率的なデザイン活動を促進するため、デザイナーと市場(企業)との間をコーディネートする機能を有したセンターの設立が期待される。同センターは、デザイナーの労働環境や報酬基準の設定など、社会におけるデザイナーの地位確立を通じ、優れたデザイン活動の促進機能を果たすことができると、より一層の効果を発揮すると考えられる。

3.5 国際競争力のある工芸品開発

3.5.1 成果

コーディネーターの育成:コーディネーターを中心とした製品開発プロセスを経て、陶器、石彫、木彫、ブロンズの4品目について多くの優れた工芸品が製作された。「コーディネーター」という概念は新しく、今回数名が育成されたことが一つの大きな成果であるといえる。特にベトナムでは人材育成に力を入れており、国際市場と工芸村をつなぐキーパーソンとなるコーディネーターは、デザイン現場や市場を活性化させるだけでなく、技術や情報不足に悩む農村部の工芸村にとっても新しい方向性をつくり出す重要な役割を担うことが期待され、省政府関係者からもその育成の必要性が強く認識された。

ベトナムの伝統を活用した新商品開発:ベトナムの工芸品は、高い技術が伝承されながらも、新しい発想や創造力といった部分に欠けており、商品としての魅力には未だ欠けている。海外市場をターゲットとした商品開発の視点から、ベトナムの伝統技術やモチーフを活用した、新たな商品開発を実践したことで、ベトナム工芸品の新たな可能性を生産者自らが見出したことが関係者への共通の成果となった。

3.5.2 課題

コーディネーターに必要なスキルの明確化: コーディネーターによる商品開発のインパクトが大きかった一方で、政府関係者や教育関係者は、人材育成の一環としてトレーニングの実施や職業訓練学校での指導を行ないたいとの意向を示している。しかし本 PP で提案したコーディネーターに必要なスキルは、工芸品に対する知識だけでなく、デザイン理解力やマーケットニーズの分析力、実際に販売を行なうための交渉力や語学力など、非常に広汎にわたる。コーディネーターの役割に対する共通認識を図った上で、その育成方法についてさらに議論を深める必要がある。

コーディネーターの育成と活動機会の提供: コーディネーターの育成は OJT による具体的な商品開発を通じて行われることが望ましいが、コーディネーターの意義が民間セクターや市場には充分浸透していないため、活躍の場は限られている。現時点では工芸関係の比較的規模の大きい企業の協力を得て、企業内コーディネーターの育成・雇用の方向を探る方法も検討の余地がある。将来的には、海外バイヤーがより良い産地と製品を求めた場合に、優れた技術者やデザイナーを紹介するなど、いずれはバイヤーと産地マッチング事業の橋渡しとしての役割も考えられる。

市場での販売と評価: 今回開発された商品の評価は展示会の開催時のみに限られ、海外市場での評価は本 PP では実践していない。本 PP のプロセスを産地内で継続することにより、実際に海外バイヤーに対して商品販売を行ない、その評価を得ることが必要である。また、日本での展示会開催なども可能であろう。

商品デザインの保護: 著作権法は制定されているものの、罰則規定はなく実効性を伴わないものとなっている。そして、これがより良いデザインの創出とその製品化の意欲を妨げる、大きな要因となっている。コーディネーターを通じた商品開発プロセスを活性化し、デザインの市場性を高め、かつ質の高いデザインを振興していくためには、著作権保護のしくみを整備することが必要不可欠である。

3.5.3 越側による今後の展開

教育機関を通じたコーディネーターの育成: 今回育成されたコーディネーターに加え、さらにその人数を増やすための活動が必要との認識が高まっている。既にローカルタスクチームとして本パイロットプロジェクトに携わり、日本人専門家から技術移転を受けたベトナム人がいることから、彼らをトレーナーとしたトレーニングの展開が期待される。育成されたコーディネーターを講師として招き、大学で後続のコーディネーター育成を継続していく方法も考えられる。

行政機関による支援: ハタイ省 DOI では、工芸振興に向けて工芸村・企業・生産者をビジネス面で総合的にサポートするセンターの設立を検討中であり、同センター機能の一つとしてコーディネーターを活用していく意向を持っている。コーディネーターが幅広いスキルを持てるよう様々なトレーニング機会の提供や、産業界からのニーズを調査し、マッチング事業を進めるなど、様々な支援メニューの検討が求められる。

民間セクターでのコーディネーター活用:コーディネーターはデザイナーと職人の橋渡しとなるだけでなく、将来的には、バイヤーのニーズに応じて工芸産地を選定し、契約の仲介や取引交渉を行なうなど、仲介役として産地とバイヤーを結び付ける機能が求められる¹⁾。そのためにも、コーディネーターの意義と必要性に対する関連企業からの理解を図り、民間イニシアチブによって、実際の商品開発などの OJT による育成が進められることが望ましい。

3.6 工芸村の環境改善

3.6.1 成果

工芸村レベルでの環境問題の明確化:技術面での現地調査及び一連のワークショップを通じた議論の中で、近隣で操業している工場からの排水が、村の環境に悪影響を及ぼしていることが指摘され、その対処が不可欠である旨が関係者の間で強く認識された。このことは、村の環境改善には、村レベルで活動するだけでは不十分であり、政府(省、ディストリクト、コミューン)による対応が不可欠であることが明らかとなった。また、技術面での改善のみならず、資金面での対応、そして社会的な理解(環境への意識向上)の3つが揃って初めて環境改善の第一歩となるという意識が関係者内で共有化された。

環境改善ガイドライン及びマニュアルの作成:対象地であるハタイ省ヴァンフック村において、村の関係者や DOI、DONE などの関係機関の参加による環境改善ワーキンググループを結成、村の環境改善に向けての問題点を議論してきた。これまでもヴァンフック村では環境改善に関するプロジェクトや計画が実施されてきたが、これらの多くは実態調査にとどまり、具体的な改善には至っていない。本 PP では工芸生産世帯及びコミュニティを対象とした環境改善ガイドライン及びマニュアルの作成により、村が直面している環境課題に基づき、工芸製作者及び村人が実施しやすい簡易な対処方法を盛り込むものとなっている。また、ヴァンフック村で実際に必要となる環境改善のための設備デザインを作成した。

3.6.2 課題

責任体制に対する合意形成:改善のための提案を実施していくためには、各ステークホルダー(政府機関、企業、家内工業従事者)がどのような役割を果たしていくかを検討、合意する必要がある。最終セミナーでは予算検討を含めて、政府関係者間での合意形成が行われることを期待していたが、最終的に合意には至らず、工芸セクターの中心的役割を担う DOI が今後の検討課題を持ち帰ることとなった。そのため、DOST や DONE など、他の関係部局との合意形成には現在のところ至っていない。ハタイ省では環境問題が工芸振興に関わる重要課題の一つとなっていることから、DOI のイニシアチブによる具体的な提案作成や、ワークショップ等での継続的な議論により、合意形成は可能と考えられる。

工芸従事者からの理解と協力:本 PP では主に政府関係者間での合意形成に向けた議論が

¹⁾ 現状では、海外からのバイヤーは、都市部で通訳を雇い、一部の民間企業で商品開発や取引を行っている場合が大半で、他の工芸村や企業を知らないことが多い。

中心となったことから、実際に工芸に従事している村民が、環境に対してどの程度の意識を持ち、改善に向けた活動に協力出来るかどうかは不明である。また、ヴァンフック村においては工場からの環境影響が大きいものの、これまでも政府からの改善に対する呼びかけに応じないなど¹⁾、産業振興に向けて多くの課題が残されている。

インダストリアルゾーン開発における環境対策:現時点で実施に支障をきたしているものとしては、“工業地域”への生産拠点の移動・集中がある。これは、近年ベトナム全土において導入された政策であり、居住空間と生産拠点の分離による生活環境の向上をめざすものであるが、企業や生産世帯の移動が進まない状況にある。その一因として、移動に伴う資金面での負担が挙げられており、産業振興に向けてどの省でもみられる課題である。ハタイ省では、同政策の実施を推進すべく、融資条件の緩やかなソフトローンを提供しているが、依然企業側の負担感は大きく、さらなる支援を求める姿勢が強く見られる。したがって、環境対策を検討する際には、この点に十分留意して臨む必要がある。

資金源の確保:技術面については、同村に必要な環境改善設備は既にデザインが作成されたことから、今後は同デザインにそった設備の整備段階へと進むことになる。この段階において、資金面における支援の必要性が認識されたことから、工芸製作者や村民による資金集め（ファンド・レイジング）、MOST や MONE など中央省庁による補助金の申請、またドナーによる資金援助など、方法を探ることが必要である。

3.6.3 越側による今後の展開

既存計画の見直しと具体化:ヴァンフック村人民委員会や DOI、DONE など関連機関は、同村の環境改善に関して既にいくつかの活動計画を持っており、中には実施中のものもあることから、まずはこれら活動計画の速やかな実施に向けて必要な対応をとっていくことが重要である。特に本 PP 成果と議論内容は結果としてハタイ省 DOI に一任されており、DOI を中心としたさらなる議論の進展と計画の具体化が求められている。

村民による理解の浸透:環境改善ガイドライン及びマニュアルについては、工芸村に特徴的な環境汚染への対策を含むものとなっており、提案内容も工芸製作に携わる人々が実施できる簡易なものが含まれたものとなっていることから、今後はこの実施に向けた指導・徹底が期待される。政府関係者間での合意形成と計画立案がなされるプロセスにおいて、産地での工芸関係者の参加と理解を図ることは重要である。ハタイ省はローカルテレビ・ラジオ局との協力による広報活動の実践も盛んであり、改善マニュアルの活用にあたっては、これらメディアの活用の可能性が高い。

¹⁾ これまでもこれらの工場に対して、近隣の村民による抗議活動などが行われてきたとのことである。

3.7 少数民族のマネジメントキャパシティ強化

3.7.1 成果

少数民族のマネジメントキャパシティ向上:ライチャウ省(モン族)及びアンザン省(チャム族)を対象としたビジネスマネジメント能力向上については、ローカル NGO を通じたトレーニングが行われ、参加者の意識及び技術の向上が見られた。少数民族については、キン族の工芸製作者と異なり、依然として自らの工芸品の伝統的価値及び経済的価値を認識していない場合がほとんどであることから、彼らの伝統文化の保存とともに、収入向上に向けた工芸品振興を図るためには、ビジネスとしてのマネジメント能力の向上は大きな意味を持つ。

市場に適応した商品開発:マネジメントとデザインのトレーニングを通して、少数民族独自のモチーフを活かした商品(スカーフ、ハンドバック、クッションカバー等)を開発し、地元市場や NGO ショップ等での販売が既に行われている。

少数民族支援ハンドブックの作成:本 PP を通じて得られた教訓、特に少数民族支援にあたって必要な人材と活動支援、また政府機関の役割について、ハンドブックの製作によって明確に示すことが出来た。これまで少数民族支援は、現地の事情にあわせてローカル NGO の経験に基づいて行われることが多く、省政府機関からの理解や協力体制を得ることは少なかった。このハンドブックを他の少数民族支援を必要としている地域の政府機関やドナー、NGO に頒布することにより、少数民族支援にあたっての留意事項や必要な支援体制について、共通認識を持って活動を進めることが可能となった。

3.7.2 課題

少数民族支援プロジェクトの適正期間での実施:これまでの NGO 関係者の経験によると、少数民族の工芸支援については、最低でも3年間程度をかける必要がある。それは、これまで自分たちの衣服や生活のために製作していた織物を市場に向けた商品として製作し販売するという行為の意義を十分に理解するためには、単に製作技術だけでなく、少数民族が工芸製作に対する意識を変えていく必要があるためである。本 PP では、アンザン省のターゲットグループは既に以前 NGO 支援を受けていたこと、またライチャウ省のグループにとって商品開発は初めてであったにも関わらず、商品開発に非常に意欲的であったことが幸いし、11 ヶ月間の実施期間で一定の成果をみることが出来た。しかし一般的には、少数民族が外部の人間との接触に慣れていないこと、工芸品の市場の存在を知らないことなどに充分留意し、支援の適正な実施期間を予め検討する必要がある。

プロジェクト完了と継続の方法:外部支援によるプロジェクトの完了時に、どこまでの成果を得られる必要があるかを定量的に定めることは困難である。すなわち少数民族グループがマネジメント能力を身につけ、商品開発を自分たちで行ない、安定した市場で継続した販売が出来る、という保証が無い限り、外部支援の引き際を決めることは困難である。

地元政府による少数民族支援への関心:支援を受けた少数民族グループ自らが活動の意志

を外部に向けて示すことは未だ困難であるものの、このような地元から支援を求める声を受け止めるためには、地元政府、特に女性連合が常に少数民族の工芸振興活動について目を向けておく必要がある。

3.7.3 越側による今後の展開

ターゲットグループによる商品開発の継続:本 PP における数回の現地トレーニング実施とセミナーの開催後、どのようにターゲットグループが継続的に工芸品開発を続けていくかについて、関係者と議論を行った。その結果、NGO ショップを通じて注文と販売を続けること、また他の NGO に本 PP の成果を広め、継続支援を呼びかけるなど、PP 実施主体であるローカル NGO を中心とした呼びかけが中心となっている。

ハンドブックの活用:本 PP の成果品の一つとして主に政府関係者や関係機関を対象とした「少数民族工芸支援のためのハンドブック」を活用しつつ、今後の活動を継続していくことが期待される。最終セミナーでは、政府関係者にハンドブックが配布され、その意義と活用方法について NGO から説明を行った。工芸振興を目的とした少数民族支援についてとりまとめた文献はこれまで存在せず、単に支援・指導にあたる NGO や工芸関係者のみならず、資金や政策面での支援にあたるべき政府関係者にも充分活用される価値のある内容となっている。また、国際市場でもベトナム工芸品への関心は高いため、例えばこれまでフェアトレードなどで少数民族の工芸品を扱っている海外の団体へも頒布するなど、幅広い活用が考えられる。

地元政府による支援:ライチャウ及びアンザン省の参加者及び地方政府、婦人連合等の関連機関では、同様のトレーニングの継続が要望されており、これも今後の展開として期待される活動の一つであるといえる。また、遠隔地や山間地域に居住することの多い少数民族は、他地域での工芸製作・販売活動の実態や市場の状況について、情報から隔離されている場合が多い。したがって、地域間交流などの形で情報への接点を作りだしていく活動も高い効果が期待される。さらに、ビジネスマネジメントのみでなく、工芸製作・販売に関するさまざまな側面について、彼らの知識・技術の向上を図る機会を設定することも重要であろう。少数民族は市場に対する物理的、心理的距離が大きく、本 PP において彼らが得た基礎知識をもとに、更なる投入が必要であることも改めて明らかとなった。そのためにも、中央及び地方政府による継続的な支援が必要であり、こうした連携を強化していく必要が、本 PP の関係者、特に政府関係者より強く認識されている。

3.8 工芸村開発戦略

3.8.1 成果

コミュニン・工芸村レベルでのマスタープランの作成:村民及び関連組織の参加により村の抱える問題、及びその解決に向けて工芸振興が果たす役割を分析し、ハタイ省ハータイ村では工芸村レベルの、ニンビン省アンホアコミュニン No.8 村ではコミュニンレベルでの、開発戦略を作成した。同戦略は、省、ディストリクト及びコミュニンレベルの関係機関に対して公表され、幅広く賛同を得ている。コミュニンや工芸村の現状分析、マスタープラン、アクションプランの3

部構成からなり、これにより、政府関係者や他のドナーや NGO 支援を求めるときのツールとして活用が可能となった。これら 2 つの工芸村は、工芸製作の歴史や地方政府の性質などさまざまな面で異なる要素を有しているが、いずれの村においても村民参加により作成された開発戦略への評価と期待は高く、ベトナム国内の他地域においても高い適用可能性を示唆している。

アクションプランの実施: ハタイ省政府は、既に同戦略を実施に移すべく同省の工芸振興マスタープランへの導入を検討している。また、ハータイ村は次へのステップとして工芸アソシエーションを設立し、工芸振興にかかわる課題解決に向けて関係機関への支援要請ほかの活動を開始する段階である。

参加型ツールの活用による村民の意識向上: プロジェクトの過程に PRA (Participatory Rural Appraisal, 参加型農村調査) と呼ばれる参加型による調査手法を取り入れており、村民によるデータ及び情報収集・分析を行なうだけでなく、調査員(ローカルコンサルタント)と地域住民がコミュニケーションをとりつつプロジェクトを進めることが出来た。対象村の村民にとってこのような参加型による計画づくりは初めてであり、参加者はこのプロジェクトを自分の村を自分たちで考える良いチャンスと捉え、積極的に活動に参加し、このプロセスにより村民の自発性や自立発展性を保つことが出来るようになった。

3.8.2 課題

自発的なアクションプランの実施と支援: 本 PP の実施過程においては、村民が何らかの技術、資金等の具体的支援を受けることはなく、計画作成にとどまっている。地元政府と協力して具体的な計画づくりを行なうことによって、地元政府からの理解と協力を得ることが出来た。そのため今後、優先的なアクションプランを選択し、実施または支援の呼びかけを進めるためには、村民の主体性及び行政の理解と協力体制の有無にかかっている。

個別課題の詳細分析と実効性の担保: 農村開発、経済活動、保健医療など、村レベルでの広汎な課題を対象としているため、マスタープラン及びアクションプランの骨格は提案したものの、個別課題について詳細な分析検討を行なうには至っていない。そのため今後アクションプランを具体化していくためには、コミュニティや村内だけの提案にとどまらず、その実効性の有無について、専門家や政府関係者による十分な検討が必要とされる。

村レベルでのマネジメント能力向上: 村レベルの工芸アソシエーションについては、ハータイ村でマネジメントを担当する人材の選定及び組織の設立が行われた。今後、各工芸村の開発戦略に記された各種開発課題の解決に取り組んでいくにあたり、同アソシエーションはその中核として関係者・機関間の調整や外部機関との連携強化、活動の進捗管理などを行っていくことになる。こうした意味においても、同アソシエーションの組織づくりは非常に重要であると思われる。しかしアソシエーションの組織力は未だ脆弱であり、スタッフにその運営ノウハウが欠けていることから、今後は組織内の人材育成が充分に行われる必要がある。また他地域において同様の戦略作成活動を行なう際には、計画能力の向上(書類作成ノウハウ等)につい

て、十分な対応が必要である。

アソシエーションを中心とした組織力強化: 工芸アソシエーションを設立する意義は、地方政府、そして中央政府に向けて工芸村側から自らのニーズや優先順位等を示していく一連の流れを、明確に組織化していくための必要不可欠な第一ステップとしてのものである。したがって、その設立及び活動の開始の後には、地方政府レベルでこうしたニーズや優先順位に基づいて対応していくための体制を整備し、必要に応じて中央政府の支援を得られる体制を整備することが必要である。

専門家による指導・支援: 工芸村の人々は村の実態を理解しており、将来像を描いてはいるものの、計画能力、文章力、分析力など、実際のプランニングを行なう能力を持った人材はほとんどいない。そのため村民の潜在意識や能力を引き出し、計画作成を支援するための専門家が必要である。本 PP では PRA スキルを持ったコンサルタントによるトレーニングを中心に開発戦略づくりを進めたため、十分な成果を得ることが出来た。今後このプロセスを他地域でも実施するためには、村レベルでの活動を主導し、計画づくりをサポートできるコンサルタントの支援が必要である。本 PP でまとめられた「PRA マニュアル」と「開発戦略」をツールとして、NGO や BDS プロバイダーに、これらの計画づくりを支援するための人材を育成し、現地へ派遣できるよう呼びかける必要がある。そしてこれらのコンサルタント育成や派遣・計画策定活動に対する政府支援も求められる。

3.8.3 越側による今後の展開

コミュニン・工芸村レベルマスタープランの実現化: このプロジェクトでは全てのプロセスに省政府やコミュニン PC が参加しており、この手法を政府が学ぶことにより、政策提言を行なう地方政府が工芸村の実態を知る機会となるとともに、今後の具体的な政策提言や支援策づくりに寄与することが出来る。また、政府によるこのプロセスの他地域への汎用も期待される。対象とした2省では、省政府関係者から本 PP の成果及び村レベルマスタープランの意義について十分な理解が得られたことから、今後は、省政府や地元政府の指導のもとに、村レベルでの現状分析と将来計画づくりのための活動が広まることが望まれている。

アクションプランの実現化: 提案されたアクションプランについては、既に参加者内での議論によって優先順位がつけられ、一部で活動が始まった。ハータイ村では①アソシエーション設立(90 余名のメンバーと、9名のコミッティによる運営)、②伝統的工芸品の発掘(村民によるインタビュー調査)、③工芸品開発(PP5 で育成されたコーディネーターの指導による漆器開発)、が進められている。アクションプランの実施を通じてアソシエーションのマネジメント能力を高めると共に、工芸村の発展に寄与するよう努めている。

外部支援団体によるトレーニングの実施: 対象工芸村に対して、NGO や女性連合などによる継続支援の意向が示されている¹⁾。ハータイ村においては、今後工芸村戦略に基づき関係機

¹⁾ 本 PP の 2 つの対象工芸村においては、同アソシエーションの活動強化や人材育成に関して、既にオランダの NGO

関の支援を得るため、各種活動に関するプロポーザルを作成、提出していくが、村民自ら申請書を作成する能力の向上が必要不可欠である。

3.9 パイロットプロジェクトの評価

2002年11月から2003年9月まで、11ヶ月間にわたった8つのパイロットプロジェクトは、期待以上の成果を挙げて完了することが出来た。各パイロットプロジェクトの成果、課題及びベトナム側による今後の展開をまとめた(表 3.9.1 参照)。

全体の成果を下記に述べる。

- イ) **工芸産地への具体的なインパクト**: 主要政策課題に対する改善活動を産地内で実践したことにより、産地への具体的なアクションやインパクトを与えることが出来た。特に首相決定132号での指導内容が、具体的に産地での改善に結びついていないという課題があるなかで、政策決定者である政府関係者と、生産者である村民が同じ目標を持って活動に取り組むことで、より効果のある政策実現のための教訓を得ることが出来た。
- ロ) **政府関係者の産地への理解と協力**: プロジェクトの実施過程で、政府関係者との意見交換や参加の場を数多く設けることで、彼らが産地の現状と課題を理解し、これまで提言してきた政策や方針の具体化を図ることが可能となった。裨益者である工芸村にとっても、工芸村や工芸産業の現状と問題点などの声を、政府関係者に直接あげることが出来る機会となった。
- ハ) **裨益者による積極的な参加と意識向上**: パイロットプロジェクトの目的や方法は裨益者である村民にも充分理解され、積極的な参加が見られた。どの裨益者にとっても工芸製作はこれまで、職業や生活の一部に過ぎなかったものの、プロジェクトの実施を通じて、それぞれが工芸振興の意義を理解し、明確な目標を持つことが出来るようになった。

また、パイロットプロジェクトをさらに発展させるために重要と考えられる対応策は下記である。

- イ) **工芸振興のための人材育成と仕掛けづくり**: 本 PP は、専門知識と能力を持ったタスクフォースによる集中的な現地への直接指導により、活動に参加した政府関係者や農村部裨益者のキャパシティ向上を効果的に図ることが出来た。今回活動を行ったタスクフォースは、省政府関係者や職業訓練学校、研究者、大学関係者、博物館、NGO など、必ずしも工芸セクターに詳しい専門組織ではなかったものの、各課題に対する対応能力を十分に有していた。ベトナムにとって工芸セクターは、農村開発や地場産業を支えるための重要なセクターであり、持続的な工芸振興のためには、単に技術指導による工芸品開発だけにとどまらず、それを支える人材育成が欠かせない。工芸専門家(研究者や職人を含む)による技術的な調査と指導だけでなく、このような工芸振興に関わる多様なセクターの専門集団の指導によって、農村部での工芸振興活動の仕掛けをつくることが重要である。

である SNV が支援の意思を表明している。また女性連合による工芸製作トレーニングも検討されている。

- ロ) **成果品の充実と活用**: 本 PP での活動を他地域で広めていくためには、成果品として作成された数々のマニュアルが幅広く活用され、商品や写真類が人々の目に触れ評価されることが必要である。本 PP の成果品は PP に参加した裨益者や各省政府だけでなく、関係機関に配布されるとともに、関係機関での教材として活用されることが望まれる。
- ハ) **産地間の連携と交流活動の推進**: 本 PP で裨益者に与えるインパクトが特に大きかったのは、他地域との人材や技術交流であった。農村部の工芸従事者の多くは他の産地の存在や工芸品、技術を知らないことが大半である。特に自分たちの村を出たことのない少数民族も多い。そのため、PP2 で実施したハタイ省からクアンナム省への講師派遣、PP7 で実施したハノイでのバザー参加や隣接省観光地への訪問ツアーなど、人材交流や視察活動は、裨益者が工芸振興意欲を高めるにあたって、非常に有効な活動であった。現状では、工芸従事者が自らこのような機会をつくることは財政的に難しいため、今後政府支援による交流活動の促進が期待される。ベトナム工芸が海外市場からも注目されている昨今、国内だけでなく、海外との交流活動の促進も望まれる。海外見本市への参加や、外国人専門家の派遣などにより、ベトナム工芸品の国際的な評価を得られる機会をさらに増やすことで、交流活動だけでなく、市場開拓が一層進むことが期待される。
- ニ) **官民パートナーシップ**: 最終的に工芸品の市場拡大を狙うためには、民間セクターの活性化が欠かせない。本 PP の活動では主に地方政府と工芸村との協力体制の確立を主眼に置いて、地方政府が工芸村の現状と課題を直接理解する機会を提供できた。一方で PP の成果を活用した民間セクターとの連携や市場での評価を得ることは今後の課題である。農村部における人材や近代的な経営知識の圧倒的な不足を考慮すれば、官主導の地域振興が重要とする側面もある。しかし一方で、複雑で時間のかかる行政対応や制度運用、政府内での人材不足を考慮すれば、特に市場拡大や工芸品の競争力向上を目的とした場合、国内外の民間セクターの活性化が重要であり、それらを支える行政の役割が欠かせない。政府関係者や農村部の生産者だけでなく、市場を支える民間セクターが本 PP の活動を評価し、教訓や成果を活用していくことが重要である。

表 3.9.1 各パイロットプロジェクトの成果・課題と今後の展開

プロジェクト	成果	課題	越側による今後の展開
1) 工芸情報システム	<ul style="list-style-type: none"> 工芸ウェブサイトの設立 モデル省との情報伝達 全国 61 省との情報連携体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> MARD 内でのウェブ管理のための技術不足 情報収集・更新能力の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 省政府による情報収集・処理能力の向上 マッピング調査の継続と情報活用 課題別情報の充実 ウェブサイト以外の情報提供手段の確立
2) 工芸クラスタ一開発	<ul style="list-style-type: none"> コンサルティングサービスによる経営管理能力と意識の向上 工芸技術訓練プログラムによる産地間の技術者交流 指導マニュアルの作成 絹糸及び手織絹製品の品質向上 省政府オーナーシップの向上 	<ul style="list-style-type: none"> 政府内の人材不足 民間セクターとの協力の必要性 市場からの最終評価 省政府での責任体制の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> コンサルティングセンターの設立(ハタイ省) 産業拡大プログラムの活用 産地間の人材交流 技術訓練と教材作成 検品制度の活用と技術指導
3) 工芸の伝統的価値保存システム構築	<ul style="list-style-type: none"> 参加型調査手法の確立 工芸村におけるきめ細かな情報収集 観光資源としての活用 	<ul style="list-style-type: none"> 既存調査や工芸専門家との連携 調査資金の不足 地方博物館のキャパシティ不足 	<ul style="list-style-type: none"> 観光開発とのリンケージ 工芸品振興活動への発展 民族学博物館による継続活動
4) 工芸品振興のためのデザイン振興策の構築	<ul style="list-style-type: none"> デザインガイドブックの作成によるデザインへの認識向上 デザイン振興へのムーブメント 	<ul style="list-style-type: none"> 既存のデザイン関連活動との連携不足 デザイン振興のための行政の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> デザインガイドブックの活用 デザインセンター設立への具体的検討 民間セクターによるデザイン活動の推進
5) 国際競争力のある工芸品開発	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの育成 ベトナムの伝統を活用した新商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターに必要なスキルの明確化 コーディネーターの育成と活動機会の提供 市場での販売と評価 商品デザインの保護 	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関を通じたコーディネーターの育成 行政機関による支援 民間セクターでのコーディネーターの活用
6) 工芸村の環境改善	<ul style="list-style-type: none"> 工芸村レベルでの環境問題の明確化 環境改善ガイドライン及びマニュアルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 責任体制に対する合意形成 工芸従事者からの理解と協力 インダストリアルゾーン開発における環境対策 資金源の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 既存計画の見直しと具体化 村民による理解の浸透
7) 少数民族のマネジメントキャパシティ向上	<ul style="list-style-type: none"> 少数民族のマネジメントキャパシティの向上 少数民族支援ハンドブックの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 少数民族支援プロジェクトの適正期間での実施 プロジェクト完了と継続の方法 地元政府による少数民族支援への関心 	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットグループによる商品開発の継続 ハンドブックの活用 地元政府による支援
8) 工芸村開発戦略	<ul style="list-style-type: none"> コミュニオン・工芸村レベルでのマスタープランの作成 アクションプランの実施 参加型ツールを活用による村民の意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> 自発的なアクションプランの実施と支援 個別課題の詳細分析と実効性の担保 村レベルでのマネジメント能力向上 アソシエーションを中心とした組織力強化 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニオン・工芸村レベルマスタープランの実現化 アクションプランの実現化 外部支援団体によるトレーニングの実施

出典:JICA 調査団作成

第二部

省政府工芸マスタープラン

1. はじめに

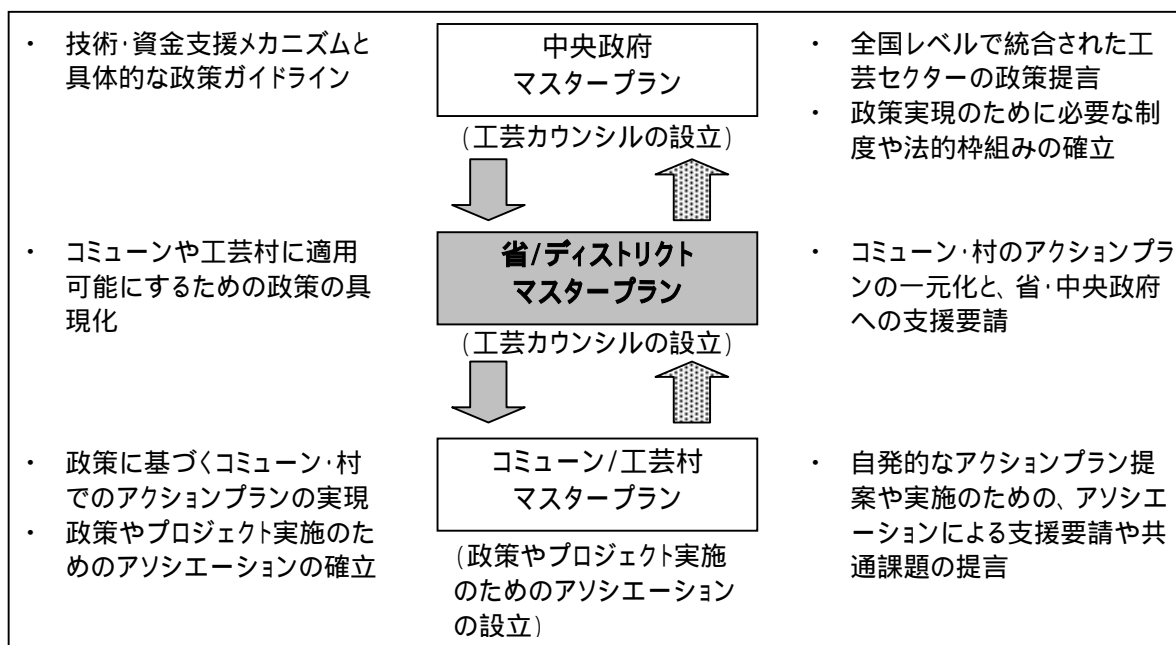
1.1 必要性和役割

工芸振興を通じた地域の社会・経済の開発とりわけ工芸村や工芸従事者の民生の向上は、ベトナム国家計画にうたわれる“農村地域の貧困削減と持続的成長”を達成するための重要かつ効果的な戦略手段になることが明らかになった。第1編で述べた中央レベルでのマスタープランはこのための総合的な政策フレームワークを示すものであるが、発動された政策によって地域が効果的に裨益するためには、地域条件にあった省レベルでの政策調整とアクションの実施が重要であることも明らかとなった。そしてこのためには中央と同様、省レベルでの総合的な工芸振興のためのマスタープランの作成と運用が重要であると結論づけられた。

工芸村や工芸従事者の抱える問題やニーズ、地域の工芸セクターが克服すべき課題を中央政府が全て汲み上げることは不可能であり、仮に情報で得られたとしても、これに効果的に対応することは大変困難である¹⁾。

第1編でも詳しくみたように、全ての中央政府の政策は必要とするステークホルダーに効果的に届けられなければならない、裨益状況も適切にフィードバックされなければならない。こうした点から三層からなる工芸振興マスタープランシステムを提案したが、このなかで最も中核的な役割を果たすことが期待されているのが省政府マスタープランであり、省政府には適切なプランの作成と運用が求められる(図 1.1.1 参照)。

図 1.1.1 省政府工芸振興マスタープランの位置づけ



¹⁾ 首相決定 132 号決議により、地場産業振興のための制度的枠組みが構築されたものの、その実現には充分に至らず、マスタープランとしての機能は果たしていない。また、提案された政策は地方政府(省、ディストリクト、コミュニティ)がマスタープランを作成するためには充分に活用されていない。

すなわち工芸振興における省政府と省マスタープランの役割は次のように整理できる。

(イ)省政府の役割：中央政府と工芸産地の橋渡し役として、さらには工芸産地への直接の指導・支援組織としての役割を持ち、具体的には下記である。

各地域での工芸振興に向けた、工芸セクターに関わる総合的な政策やプログラムを作成し実践する。

中央政府の政策内容を地域の特性にあうよう具体化すると同時に、地域の要請を中央政府の政策に反映するよう働きかける。

工芸セクターに関わる課題に関する草の根レベルからの声やニーズを集約し、政策に反映し、産地の実情にあった、地域独自の指導や具体的な支援策を推進する。

(ロ)省政府工芸振興マスタープランの役割：省政府マスタープランは、下記の3つの役割を果たすためのツールとなるものである。

中央政府の政策をコミューン・工芸村が裨益するよう具現化すること(上から下への政策の流通)

コミューン・工芸村の現状や課題を把握し、支援を行なうとともに、必要に応じて中央政府に伝えていくこと(下から上への政策の流通)

民間セクター活性化のための環境・基盤整備を行なうこと(官から民への政策の流通)

1.2 モデル省マスタープランの作成

提案した三層構造マスタープランシステムを実現するためには、各省政府が、工芸セクターを地域の重要な経済要素として認識した上で、地域特性に応じたマスタープランを作成し、これが中央政府の政策や優先事項と一致することが求められる。本調査では、省レベルのマスタープランの基本的な役割を明らかにするために、モデル省を対象としたマスタープランの作成を試みた。基本的な目的は下記である。

(イ)パイロットプロジェクトの計画・実施を通じて、政策フレームワークの実効性を検証するとともに、パイロットプロジェクトの持続可能性と反復性(一定条件下で他の地域への適用ができること)を確認すること

(ロ)4地域(北部、中部、南部、山岳地帯)の特性と開発ポテンシャルに応じた地域別の工芸振興の方向性を示すこと

(ハ)地場産業の核である、コミューンや工芸村での工芸振興活動に直接インパクトを与えられるよう、具体的な政策と支援策(アクションプラン・プロジェクト)を示すこと

モデル省のマスタープランは、各省政府にタスクフォースを組織し、これを調査団のローカルコンサルタントが指導するかたちで作成された。この作業を通じて以下のことが分かった。

(イ) マスタープラン作成の過程で、省内で工芸振興に関わる幅広いステークホルダー(省レベルの関連部局、女性連合などの関係機関、民間企業、工芸村や工芸職人等)の参加

の下、「モデル省ワークショップ」を開催した。ワークショップでの意見交換と議論の結果、それぞれの立場からの工芸振興の意義や課題が明らかとなり、モデル省マスタープランの基本的な枠組みや方向性について合意を得られた。このようにマスタープラン作成において、工芸セクターに関わる議論の場が設けられ、地域の課題や振興目標を共有化できたことは、省政府にとって意義のある取り組みとなった。

- (D) 今回のモデル省マスタープラン作成には、省レベルで工芸振興の中核を担う DOI 又は DARD の2機関が中心となって行なった。しかし関連部局をみると、DoTourism による観光振興、DOF による企業への資金支援、DOST による技術改良など、それぞれに工芸振興に関わる計画や支援を行なっている。すなわち省レベルでは産地に対して省政府による様々な支援が行われているものの、工芸振興のための総合的な戦略が欠けており、支援の効果が具体的に現れていない地域が多いことが明らかとなった。
- (H) マスタープラン作成にあたっては、先に述べた総合的な戦略が不可欠であるが、省レベルではまだ包括的に計画を策定する能力を持った人材と機会が不足している。そのため、作成したモデル省マスタープランでは、省全体の工芸振興目標や戦略は示したものの、その実現にあたっては、各組織がそれぞれ独自の支援を行なう段階にとどまっており、既存の組織体制を強化したり、組織間で連携して取り組むための具体策は不足している。
- (I) 今後、省政府マスタープランに基づいた工芸振興への取り組みを一層活性化するためには、省レベルで工芸振興を梃子とした計画策定の強化と、そのための組織作りやネットワーク強化が欠かせない。

1.3 ガイドライン作成の必要性

4モデル省のマスタープランは、中央レベルで策定したマスタープランの構成に則って、各省のマスタープランをモデル省ワークショップを通して作成する方法をとった。しかし省レベルでのプランニング能力にはまだ改善の余地が多く、省政府関係者の人材育成などの支援が必要と考えられる。そのため、他の省政府が同様の方法でマスタープランを構築するための支援ツールとして、本ガイドラインを作成した。

2. ガイドラインの概要

2.1 省政府マスタープラン作成の方法(図 2.1.1 参照)

タスク 現状の分析: 省工芸マッピング調査の実施や、既存の工芸情報の収集・分析により、工芸村や省内の工芸関連企業、組織の状況を把握する。その後主要課題に対応したフォーカスグループディスカッションを開催し、ステークホルダーの選定を行なうとともに、関係者が直面する問題点をより深く分析する。

タスク 主要課題の抽出: 中央政府マスタープランで抽出された主要課題や省の政策プライオリティ等を考慮して、工芸セクター開発の可能性、機会、制約を明らかにする。

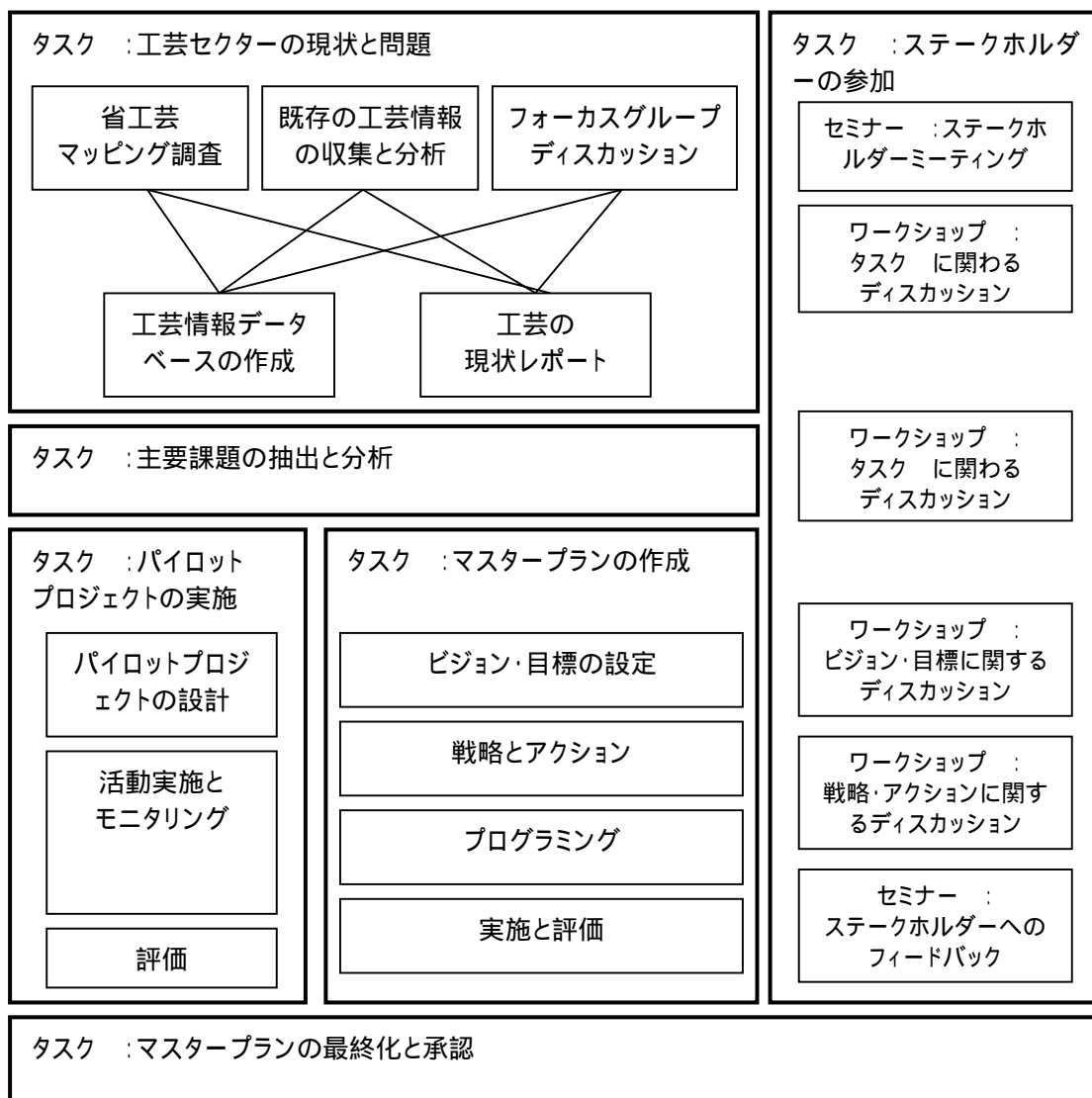
タスク パイロットプロジェクトの実施: 省レベルでの政策担保と、マスタープランや施策の実行力検証のために、モデル地域で主要課題に対応したプロジェクトを実施し、そこから抽出された課題や教訓をマスタープランに反映させる。

タスク 省政府工芸振興マスタープランの作成: 現状と課題の分析結果、パイロットプロジェクトの成果と教訓、中央政府マスタープランの方向性に基づき、省政府マスタープランを構築する。

タスク マスタープランの最終化と承認: ワークショップやセミナーでドラフトマスタープランに関する議論を経て最終化する。省PCの承認手続きにより、省の政策として位置づけるとともに、国の政策にも反映出来るよう、中央政府(中央レベル工芸振興カOUNシル)にも提出する。

タスク ステークホルダーの参加: 持続可能な施策・事業として担保されるように、各タスクの実施プロセスで、ワークショップやセミナーを開催し、様々な手段の参加型アプローチをとる。参加者は省政府関係機関を中心に、中央政府、ディストリクト・コミューン政府、関係機関、工芸企業や工芸村、さらにはNGOやドナーなど、幅広く設定する。また、マスタープランの実行や計画・プロジェクトのモニタリングは省工芸振興カOUNシルが中心となることが望ましく、そのためにはタスク実施の当初から省のステアリングコミッティとしてカOUNシルの母体となる組織を立ち上げ、マスタープラン策定と同時にカOUNシルとして承認されるようにする。

図 2.1.1 省マスタープラン作成の方法と工程(案)



2.2 省政府マスタープランの内容

タスク：工芸セクターの現状と問題

1) 省工芸マッピング調査

中央政府マスタープランの作成の手順と同様、下記の手順と考え方で工芸マッピング調査を実施する。

- (イ) 工芸村・伝統工芸村の定義とクライテリアの設定: 省独自の工芸村や伝統工芸村に関するクライテリアを、工芸従事世帯数の割合、工芸生産高の割合、工芸製作の重要性、工芸村の歴史などの視点から設定する。
- (ロ) コミューン・工芸村の現状調査(省レベル工芸マッピング調査): 省政府の管理のもと、コミュ

ーン政府に対して調査票を送付し、一定のクライテリアに基づいて工芸村を抽出し、工芸村リーダーや企業の回答をコミューン政府が回収し、ディストリクト政府を通じて省政府がとりまとめる(全国レベルマッピング調査の構成は表 2.2.1、全国工芸マッピング調査の調査票はアペンディクス参照)。

表 2.2.1 全国工芸マッピング調査票の構成

調査票	目的	主な内容
フォーム 1	コミューンの概況と調査対象工芸村 ¹⁾ の抽出	全国約 9,400 コミューンの基礎的データの収集と調査対象工芸村のリストアップ
フォーム 2	対象工芸村の詳細情報収集	工芸村(特に工芸品に関わりが深く、その振興に関心のある村)の特定と対象工芸村に関する詳細な情報の収集と問題点の把握
フォーム 3	対象工芸村を含むコミューンでの関連情報収集	コミューンレベルでの工芸品に関わる企業や組合の活動状況の把握

1) 調査対象工芸村の定義を以下とした。MARD はこれまで 50%以上の世帯が工芸に関わっている、または 50%以上の収入が工芸による、という基準に基づいて工芸村を抽出してきたが、今回のマッピング調査では、より広く工芸村の全体像を捉えるため、20%以上の世帯が工芸に関わっている、工芸製作が村にとって重要とコミューンが判断する、のいずれかにあてはまる村を調査対象とした。

2) 既存の工芸情報の収集と分析

- (I) 既存の政策・制度：省の社会経済開発計画はじめ、産業振興、中小企業振興、伝統文化保全、少数民族支援など、関連セクターの開発計画のレビューを行ない、工芸セクター開発との関係性を明らかにする。工芸セクター開発に関わる政策・制度・決定について、その内容と工芸セクターとの関係性をまとめる(表 2.2.2、2.2.3 参照)。
- (II) 主要機関の責務と役割分担：工芸セクターに関わる省内の関係機関それぞれの責務と役割分担、また関係機関の協力や連携体制を明らかにする。
- (III) 既存文献・調査のレビュー：歴史や文化に関わる文献や、環境に関する既存調査等、工芸に関わる既存の文献や調査をレビューし、地域内での重要課題を抽出する。

3) フォーカスグループディスカッション

省の問題意識、制度・組織面の枠組み、プロジェクトや計画実施への対応能力等を明らかにするために、マッピング調査結果や既存情報から抽出した、工芸セクターの主要課題に関わる幅広いステークホルダー(省・ディストリクト・コミューン政府関係者、工芸村リーダー、省 VCA、女性連合、農民連合、工芸企業、職業訓練学校、省内の博物館、マスターアルティザン、教育機関、NGO 等)を集めたフォーカスグループディスカッションを実施する。

4) 工芸データベースの作成

マッピング調査の結果をもとに工芸データベースを作成する。このデータベースは、省内のコミューンや工芸村に関する一般データを網羅すると同時に、支援内容や対象地域を抽出し、パイロットプロジェクトやアクションプランを実施するための基本的なデータとして活用する。データベースのフォーマットは中央政府や他の省との比較が出来るように中央政府のガイドラインに則る。

表 2.2.2 中央政府による工芸セクターに関わる主要な政策・決定

課題	政策・決定等の名称	実施機関	内容及び工芸セクターとの関係性
制度改革	Decision No. 132/2000/QD-TTg of November 24, 2000 on a Number of Policies to Encourage the Development of Rural Trades	MARD	
	Decision No. 132/2001/QD-TTg, of September 7, 2001 on Financial Mechanisms for the Implementation of the Programs on Developing Rural Traffic Roads, Infrastructure for Aquaculture and Infrastructure in Rural Craft Villages	MOF	
貧困削減	Decision No. 143/2001/QD-TTg of September 27, 2001 Approving the National Target Program on Hunger Elimination, Poverty Alleviation and Employment in the 2001-2005 Period	MOLISA	
	Decision No. 138/2000/QD-TTg of November 29, 2000 on the Integration of the Segmentation Projects, The Project on Support of Ethnic Minorities, People Meeting with Special Difficulties, The Program on Building Centers of Mountain and Highland Commune Clusters into the Program on Socio-Economic Development of Mountainous, Deep-lying and Remote Communes Meeting with Great Difficulties	CEM MPI, MOF, MOLISA MARD	
投資促進	No.3/1998/QH10 of May 20, 1998, The Law on Domestic Investment Promotion (amended)	Government	
	Decree No. 51/1999/ND-CP of July 8, 1999 Detailing the Implementation of Law No. 03/1998/QH10 on Domestic Investment Promotion (amended)	MPI	
輸出促進	Decision No. 195/1999/QD-TTg by Prime Minister on Establishment of Export Promotion Fund	MoF	
	Decision No. 46/2001/QD-TTg of April 4, 2001 on the Management of Goods Export and Import in the 2001-2005 Period	MoT	
中小企業 振興	Decree No. 90/2001/ND-CP of November 23, 2001 on Support for Development of Small and Medium Enterprises	MPI	
	Decree No. 02/2000/ND-CP of February 3, 2000 on Business Registration	MPI	
伝統保全	Decision 124/2003/QD-TTg of June 17 2003 approving cultural preservation and development for minority groups in Vietnam to fully utilize traditional crafts	MOCI	

表 2.2.3 省政府による工芸セクターに関わる主要な政策・決定

課題	政策・決定	実施機関	内容及び工芸セクターとの関係性
工芸村の基準	工芸村及び伝統工芸村に関する指標・基準	DOI & DARD	
工芸開発計画	a. 2010年までの工業・零細工業開発プログラム	DOI & DARD	
	b. 人材育成計画	DOLISA	
	c. 原材料地域開発	DARD	
	d. 品質改良(デザイン、原材料、技術等)	DOST	
	e. 工芸村及び工芸クラスターのインフラ整備	DOC	
投資	工業生産開発投資プログラム又は工業拡大プログラム(中小企業支援、工芸品・工芸村開発支援、工芸村への投資プロジェクト等)	DOI	
市場開拓	a. 輸出促進	DOT	
	b. 市場拡大、展示会参加、市場情報支援	DOT	
	c. 工芸村観光開発	DoTourism	
伝統的価値保全	a. 伝統的工芸品・工芸村の復興	DOI	
	b. 伝統的工芸品の開発	DOCI	
少数民族支援	少数民族による工芸製作支援	CEM、他	
その他			

5) 工芸の現況レポート

マッピング調査、情報分析、フォーカスグループディスカッションの結果をもとに、下記の項目を含んだ現況レポートを作成する。

(1) 省の概況

省の地理・自然状況、社会状況、経済状況を、既存資料や統計書、関連機関への調査等によってまとめる(表2.2.4チェックリスト参照)。統計データについては表2.2.5～表2.2.17に示した表形式にとりまとめる。

表 2.2.4 省の概況作成チェックリスト

	項目	データ
地理・自然状況	行政界	
	地理的条件	
	気候及び水勢	
	自然資源	
	土地利用	
社会状況	人口及び労働力	
	教育及び保健	
	交通	
	電力・通信・水供給・保健施設	
経済状況	経済構造	
	農産品及び主要穀物産地	
	森林地域	
	林産物	
	水産品	
	工業セクター生産高	
	輸出量	

表 2.2.5 気候及び水勢

	月												平均	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
気温 ()														
雨量 (mm)														
湿度 (%)														
河川水量 (mm)														

表 2.2.6 土地利用

土地利用	1999	2000	2001	2002	2003
全面積					
農地					
平坦地					
丘陵・山岳地					
森林地					
天然林					
人工林					
特殊用途					
住宅地					
未利用地					

表 2.2.7 人口及び労働力

	単位	2000	2001	2002	2003
総人口	人				
人口密度	人/ km ²				
人口分布					
- 都市部	%				
- 地方部					
出生率	%				
人口増加率	%				
労働人口					
総人口に対する割合	%				
総労働人口に対する 失業者の割合					
労働力構成					
- 農林水産業	%				
- 工業・建設					
- サービス業					
労働力分布					
- 都市部	%				
- 地方部					
民族					
- キン族(多民族)	%				
- その他(少数民族)					
貧困世帯の割合	%				

表 2.2.8 教育及び保健

	2000	2001	2002	2003
識字率 (%)				
初等教育 (%)				
高等教育 (%)				
職業訓練学校(件)				
訓練済み労働者(人)				
大学卒業労働者 (%)				

表 2.2.9 交通

ディストリ クト	コミュニ オン	舗装率 (%)				道路状況 ¹⁾
		アスファルト	砂利	ラテライト	土	

1) 1:良好、2:まあまあ、3:悪い、から三択

表 2.2.10 電力・通信・水供給・保健施設

	単位	2001	2002	2003
電力発電にアクセス可能なコミュニ オン	%			
消費電力	Kw/head			
電力使用可能な農村世帯	%			
通信網にアクセス可能なコミュニ オン	%			
通信網にアクセス可能な農村世帯	%			
飲み水にアクセス可能な農村世帯	%			
医者の数	人/ 1万人			

表 2.2.11 経済構造

セクター	2001		2002		2003	
	10 億ドン	%	10 億ドン	%	10 億ドン	%
農林水産業						
工業・建設						
サービス業						

表 2.2.12 農産品及び主要穀物産地

穀物名		面積(ha)	量(トン)	主な産地 (ディストリクト名)
食用穀物				
工芸作物				

表 2.2.13 森林地域

森林種名	面積 (ha)		
	総面積	保護林	特殊林
自然林			
人工林			

表 2.2.14 林産物

林産物	単位	2000	2001	2002	2003
木					
薪					
竹・籐					
その他					

表 2.2.15 水産品

水産品	単位	2000	2003

表 2.2.16 工業セクター生産高

		単位	2000	2001	2002	2003
生産高		10 億ドン				
GDP	工業	10 億ドン				
	零細工業					
	工芸					
主産品						

表 2.2.17 輸出量

		2000	2001	2002	2003
総輸出高(百万ドン)					
工芸品輸出高(百万ドン)					
割合(%)	対工業セクター				
	対総輸出高				

(D) 工芸品及び工芸村の概況

工芸品や工芸村に関わる情報は、既存の情報が少なく、情報源も限られているため、マッピング調査の結果やフォーカスグループディスカッションの内容を反映してまとめる(表 2.2.18 チェックリスト参照)。これらの情報をもとに工芸データベースが作成されるよう、各テーマについて、可能な限り、表形式で整理する(表 2.2.19～表 2.2.24 参照)。

表 2.2.18 工芸品・工芸村概況チェックリスト

項目		データ
主要工芸品と工芸村の現況	工芸村及び伝統工芸村の定義	
	コミュニティの現況	
	工芸村・伝統工芸村の現況	
	代表的な工芸村・伝統工芸村	
	主要工芸品及び各課題の評価	
	マスターアルティザン	
	工芸村での生産状況	
	工芸生産高と輸出量	
零細・工芸産業に関わる既存の制度・政策	組織体制	
	工芸品・工芸村開発に関わる政策・制度	
工芸セクター開発に関わる主要課題		
工芸セクター開発の可能性、機会と制約	可能性	
	機会	
	制約	

- (a) 工芸村及び伝統工芸村の定義: 省独自の工芸村や伝統工芸村に関するクライテリアを設定する。
- (b) 工芸村・伝統工芸村の現況: 工芸村の分布(位置、工芸村名、品目名等)と写真を省全体の地図上に示す。

表 2.2.19 コミュニティの状況

地名		人口(人)			世帯数	貧困世帯率(%)	セクター分布(%)			工芸従事状況(%)	
ディストリクト	コミュニティ	男性	女性	合計			農業	兼業	非農業	工芸従事世帯割合	工芸生産高割合

表 2.2.20 工芸村の状況

地名			人口(人)			世帯			主要工芸品目	平均月収(千ドン/人)	
ディストリクト	コミュニティ	村	男性	女性	合計	全世帯数	貧困世帯率(%)	工芸従事世帯(%)		男性	女性

(c) 代表的な工芸村・伝統工芸村と開発目的

表 2.2.21 代表的な工芸村・伝統工芸村と開発目的

工芸村名			工芸従 事の歴 史(年)	工芸品生産・開発の主目的						
ディストリ クト	コミュニ オン	村		雇用創出/ 収入向上	経済開発	輸出・ 工業促進	観光開発	伝統文化 保全	社会保障	その他

(d) 主な工芸品:主要工芸品目の各課題についての現況を評価する。

表 2.2.22 主要工芸品及び各課題の評価

課題		工芸品				
原材料	品質					
	量					
	価格					
生産	技術					
	デザイン					
	製造工程					
	製品の品質					
	技法					
	マネジメント能力					
	資金・投資					
	労働環境					
流通	流通コスト					
	時間					
	輸送コスト					
	輸出コスト					
市場	市場情報					
	市場競争力					
	市場価格					
その他						

注:各品目について1-4のいずれかを選択する。

1 深刻な問題 2 問題である 3 普通 4 ほとんど問題はない

(e) マスターアルティザン:マスターアルティザンの認定方法とその認定基準を示す。

表 2.2.23 マスターアルティザン

地名			氏名	生年	工芸品	後継者数
ディストリ クト	コミュニ オン	村				

(f) 工芸生産と市場

- ・ 工芸村での生産状況、生産体制
- ・ 工芸企業の規模、活動
- ・ 工芸品毎の生産高
- ・ 工芸品生産が GDP 構造など経済に与える影響
- ・ 工芸品の輸出の可能性、輸出にあたっての問題点

表 2.2.24 工芸生産高と輸出量

工芸品目	生産高			輸出量		
	単位	量	年次成長率(%)	単位	量	年次成長率(%)

タスク : 主要課題の抽出

1) 課題抽出の方法

現状分析を通して省及び個々の工芸村やコミュニティでの工芸セクターの直面する問題、開発の可能性と制約条件等が明らかになったが、効果的な政策立案につなげるために、更に下記を考慮して、取り組むべき課題を鮮明にする。

- (イ) 中央のマスタープランの抽出された課題
- (ロ) 省の全体社会経済開発計画における政策プライオリティ
- (ハ) マーケットに精通した内外の専門家グループの意見

2) 課題抽出のチェックリスト

以下は省レベルでの工芸セクターの課題を抽出するにあたってガイドラインとなるチェックリストである。省の現状と将来の見通しに照らして、必要に応じてリストを改訂し、具体的に記述をする(表 2.2.25 参照)。

表 2.2.25 工芸セクターに関わる主要課題チェックリスト

課題分野	課題抽出の視点
原材料の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工芸生産と原材料採取に関わる問題。地場原材料利用の重要性。適切な採取、原材料資源の保護と開発の計画に関わる課題 ・ 持続可能な原材料供給を可能にする原材料ゾーン開発計画の方向性 ・ 工芸品生産のための原材料供給(木、工芸作物、再生原材料等) ・ 多地域への原材料供給 ・ 原材料加工と品質改良、原材料加工技術の開発
技術改良	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産技術や設備の現況 ・ 技術や設備導入の必要性や品質・価格に与える影響 ・ 技術導入や技法改良の方向性 ・ 品質や均一性の向上、コスト削減と労働集約性、労働生産性の向上 ・ 伝統的技術の保全 ・ 工芸村の環境保護への影響 ・ 原材料加工技術の平準化 ・ 生産技術の専門化と技術トレーニング

表 2.2.25 続き...

課題分野	課題抽出の視点
品質改良	<ul style="list-style-type: none"> 製品の品質、品質と市場競争力との関係 品質向上のための要因 品質管理方法の現状、原材料及び工芸品の品質基準の設定 品質管理・評価システム構築のための対応策
生産工程	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の生産システムとその課題 工芸村家内工業の生産システムとその課題 市場ニーズに対応した生産システムの在り方 生産工程改善及び組織体制(企業、家内工業、製造グループ等)の方向性
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> デザインとデザイン開発システムの必要性和意義 市場開拓のためのデザイン開発戦略 地域特性を活かしたデザイン開発戦略 伝統的価値を活かしたデザイン開発の可能性 デザイン振興システム構築の可能性と取り組み
情報	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関わる問題点と課題 工芸生産・マネジメントに関わるステークホルダーに必要な情報 情報アクセスのための対応策(ステークホルダーとの連携、官民セクターの連携、展示会への参加、ウェブサイト構築等)
クラスター開発	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換、資金支援、技術移転、流通等のための工芸村と外部組織(企業、コーポラティブ等)との連携の必要性 工芸製作、管理、市場販売のための工芸村での生産組織開発の方向性(アソシエーション、コーポラティブ、家内工業生産グループ等) 工芸を梃子とした地域クラスター開発の可能性と方向性(制度・資金支援、ビジネス環境、BDS プロバイダーの活動、生産グループの競争力向上、市場開発等)
人材開発	<ul style="list-style-type: none"> 現行の手工芸技術訓練制度の長所と短所 技術訓練の方向性(若年層、熟練者、マスターアルティザン、企業経営者等) 品質向上とデザイン改良のための訓練の方向性と内容 生産者と市場、デザイナーをつなぐコーディネーターの必要性和役割 訓練組織の役割と体制 職業訓練学校における工芸訓練及び人材育成の状況 訓練教材の開発と改良 人材育成における中央レベルと省レベルの連携
ビジネス・経営管理能力	<ul style="list-style-type: none"> 工芸企業における経営マネジメントの状況 経営マネジメント能力向上のための方策(企業内レベル、セクターレベル) 省の現況に即した工芸村での企業開発の方向性
資金	<ul style="list-style-type: none"> アクセス可能な資金源と金融システムの現況 工芸村の家内工業に必要な資金規模、資金アクセスに対する阻害要因 中小企業に適した貸付方法(短中期貸付等) 資金アクセス向上のための対応策
労働環境	<ul style="list-style-type: none"> 工芸村における労働環境の現況 労働者の健康や生産性に影響を与える問題点 家内工業レベルにおける職業病等の発生状況 労働環境改善のための対応策
流通	<ul style="list-style-type: none"> 工芸品の流通に関わるステークホルダーとその役割 平等な利潤分配を目的とした流通システム改善のための対応策
マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> 現況と将来の国内外市場とその現況 市場開拓の問題点と要因 市場開拓のための対応策と政府による民間支援方策

表 2.2.25 続き...

課題分野	課題抽出の視点
観光との リンク ー ジ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光開発の現況 ・ 工芸開発における観光の役割 ・ 観光開発のための対応策(土産品開発、インフラ整備、工芸品展示、工芸ツアー開催等)
自然環境 への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工芸開発における周辺地域への環境影響の現況 ・ 工芸村の環境への影響とその要因(天然資源の搾取、不適切な生産技術等) ・ 環境改善と保護のための対応策(技術、制度、政策)
少数民族 の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少数民族分布の特徴と工芸製作の現況 ・ 少数民族による伝統工芸品復興と保全の重要性 ・ 少数民族の工芸製作支援策(モデル地域での開発支援、訓練コース開催等) ・ 他の少数民族支援プログラム(交通、教育、保健等)と工芸支援の統合と連携
伝統的価値の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工芸品と工芸村の伝統的価値保全の重要性と意義 ・ 伝統的価値保全に関わる活動やプロジェクト実施の可能性(伝統工芸品の記録、博物館支援、職業訓練学校での教育指導等) ・ 伝統的価値保全に関わる省の政策及び省政府や関係機関の役割

3) 工芸セクター開発の可能性、機会と制約

開発目標や戦略を検討するために、省の内部環境と、それを取り巻く外部環境について、それぞれ好影響(強み)と悪影響(弱み)を明らかにする。省が独自性をもって、競争力を高めていくためには、省に存在する可能性や機会を伸ばし、制約を機会に変えていくことが重要である。そのため、ここでの分析をマスタープランや戦略の検討に十分に反映させる必要がある。

(イ) 可能性:省内に存在する様々な資源(人材、自然資源、原材料、交通インフラ、歴史文化資源、観光地等)や、資金、法制度など、他地域に比べて、工芸振興をより有利に進める環境要因を抽出し、その可能性を分析する。また、工芸品の品質、販売力、技術力、生産能力、資金力、組織力の点から、省の工芸振興における強みと弱みについて分析する。

(ロ) 機会:周辺地域における交通・地理条件、市場動向や他地域との競争などの変化、環境保全への影響などの外部環境のなかで、工芸振興にあたって好機となる要因を抽出し、分析する。

(ハ) 制約:可能性や機会を阻害する要因や、省が克服すべき弱点について分析する。

タスク :パイロットプロジェクトの実施

中央政府マスタープラン作成にあたっては、マスタープランを実行力のあるものとするために、省レベルで政策が担保されること、具体的な課題(イシュー)についての、あるいは現場(工芸村)での施策が実際に機能し効果が検証できること、の2点を具体的に検討するために4つのモデル省を選定し、9つのパイロットプロジェクトを実施した。いずれも抽出した主要課題を受けて、特に現地活動の実施によって改善が可能と考えられるものを対象に対応策や活動方針を明らかにし、設計されたものである。

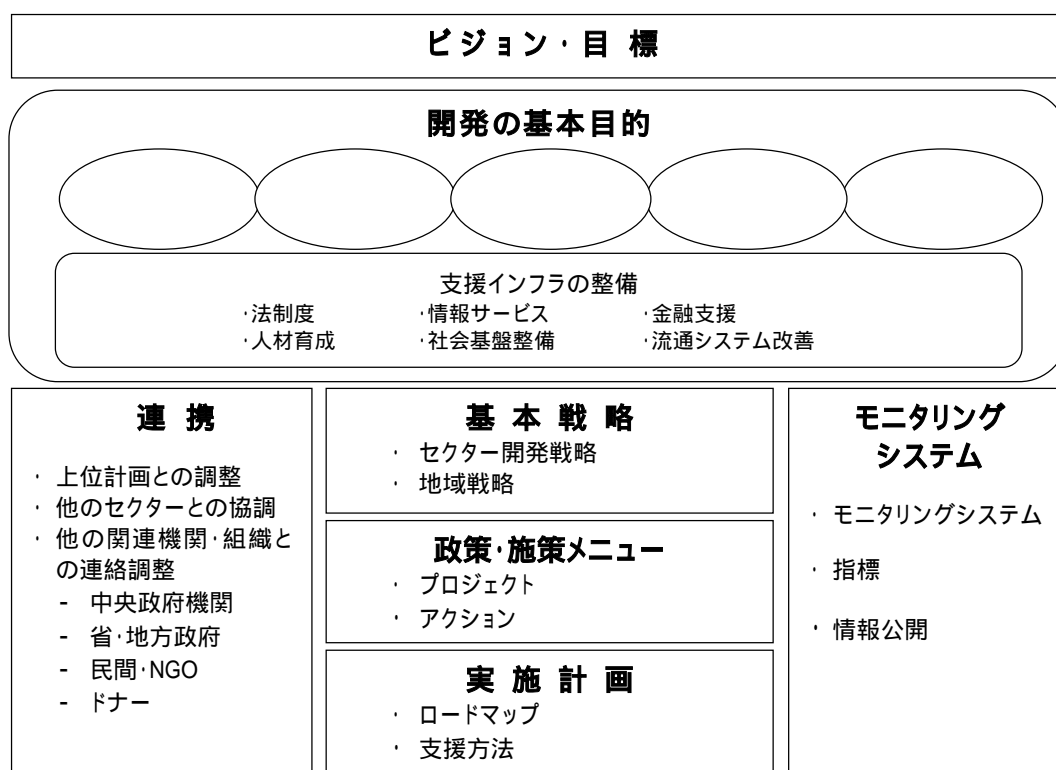
省政府マスタープランで提言する内容が具体的な地域での支援活動につながり、人々が裨益することを検証するために、省内でいくつかの地域(工芸村、コミュニティ)を選定し、対応すべき主要課題を改善するためのプロジェクトを実施する。

タスク : 省政府工芸振興マスタープランの作成

1) マスタープランの構成

長期の目標達成と実施プロジェクト・アクションの間に連続性を保つために、マスタープランは 将来の基本目標(ビジョン)、 目標の具体化(開発目的)、 目標を達成するための基本方針(戦略)、 戦略に則ったアクション(プロジェクト・プログラム)、 プロジェクト実施の方策(モダリティ)からなる、ヒエラルキカルな構造で作成する。(図 2.2.1 参照)

図 2.2.1 中央レベルの工芸振興マスタープランの全体像



2) ビジョン構築と目的設定

省として工芸振興のビジョンを構築し、目的を明らかにすることは、工芸に関わる多くのステークホルダーに活動の基本的な道筋を示すものであり、関係者の意欲と力を結集するため、さらには個々の政策やアクションの意味を明らかにするために必要である。

このプロセスには省の工芸セクターに關与する官民の様々な代表の参加が必要であり、マッピング調査、フォーカスグループディスカッション、ワークショップ、セミナー等を通じて広く議論をすることが必要である。またこうして理念や進むべき方向を明らかにすると同時に、これらを具体的な目標とするインディケータを示すことも必要である(表 2.2.26、2.2.27 参照)。

表 2.2.26 2010 年までの省の社会経済開発指標

開発指標		現況	2005 年	2010 年
GDP 構成(%)	農林水産業			
	工業・零細工業			
	サービス業			
GDP 成長率 (%)				
1人あたり平均 GDP 成長率 (米ドル/人/年)	省全体			
	農村部			
農林水産品生産高(10 億ドン)				
工業・零細工業産品生産高(10 億ドン)				
輸出高(千米ドル)				
輸出高成長率(%)				
1人あたり平均年収(米ドル/人)				
貧困世帯率 (%)	省全体			
	農村部			
就業率(%)	工業・零細工業			
	建設			
	農林水産業			
	サービス業			
電力利用可能な世帯率 (%)				
道路アクセス可能なコミュニティの割合(%)				
電話普及率(%)				
電話数(百人あたり)				
飲み水利用可能な世帯率(%)				
教育普及率(%)	初等教育			
	中等教育			
識字率(%)				
医療施設のある村の割合(%)				
観光客数	合計			
	外国人			
	ベトナム人			
観光客数増加率(%)				
観光による売上高(10 億ドン)				

表 2.2.27 工芸開発指標

指標		現況	2005 年	2010 年
工芸品生産高 (10 億ドン)	竹・籐製品			
	刺繍			
	陶磁器			
	木工品			
	その他			
工芸産業の総生産高に占める割合(%)				
成長率(%)				
輸出高 (百万米ドル)	工業製品			
	零細工業製品			
	工芸品・手工芸品			
工芸品の総輸出高に占める割合(%)				
工芸に従事する村の数				
工芸従事村の全村に占める割合(%)				
省の基準を満たす工芸村数				
零細工業従事者数(人)				
工芸セクター従事者数(人)				
工芸従事者平均月収(千ドン/月)				

3) 戦略とアクションプラン

(イ) 工芸セクターの課題と戦略の計画フレーム

中央政府マスタープランの構築にあたっては、工芸セクターにおける様々な課題について検討と分析を行ない、さらにそれぞれの問題や課題を特定化するために、パイロットプロジェクトを実施した。そしてそれらから得られた教訓と現地調査等の結果から、ビジョン・目標、基本目的、戦略、アクションプランを含んだ基本的な政策の方向性と具体的なアクションを示した(図 2.2.2 参照)。

省政府マスタープランの作成にあたっては同様に、省レベルマッピング調査等の実施により現状分析と課題の特定を行ない、具体的なビジョンと基本目的を示す必要がある。さらに戦略やアクションの具体化と実現にあたっては、モデル地域におけるパイロットプロジェクトの実施を行なうことにより、工芸産地の現状により適した政策や支援策を構築することが可能となる。

(ロ) 戦略とアクションプランの作成

戦略はさらにアクションプランに分解される。各アクションプランは実施可能なものでなくてはならず、個々のアクションプランについてアクションデータシートを作成する(表 2.2.28 参照)。

全国マスタープランで多くのアクションが作成されたが、これらを同時に実施することは事実上極めて困難であり、この段階で戦略とアクションはプライオリティをつける必要がある。プライオリティの設定には下記に留意する。

- (a) 省政府全体の社会経済開発目標と計画
- (b) 中央政府工芸振興マスタープランとの関係
- (c) 省の工芸ステークホルダーの参加

図 2.2.2 工芸セクターの課題と戦略の計画フレーム(例)

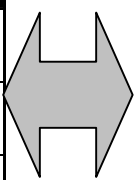
対応すべき主要課題		戦略	基本目的
原材料の確保	 主要課題と 戦略の対応	A1 工芸村の伝統の記録運動	A 伝統価値保全メカニズムの確立
技術改良		A2 ローカルミュージアムの整備	
品質改善		A3 伝統工芸研究の推進	
生産工程		A4 マスターアルティザン制度の充実	
デザイン		A5 伝統工芸品の指定	
情報		B1 デザイン教育の充実	B 工芸品開発システムの改善
クラスター開発		B2 工芸品コーディネーターの育成	
人材育成		B3 工芸スキルの向上	
ビジネス・経営管理能力		B4 オリジナルデザイン・技術の保護システム	
労働環境		B5 市場での評価機会の提供	
金融・資金		C1 原材料保全・利用管理システムの確立	C 持続可能な競争力のある生産システムの確立
流通		C2 産地振興	
マーケティング		C3 技術改良・品質管理システムの確立	
観光とのリンケージ		C4 経営者の育成	
自然環境への影響		C5 生産現場の労働環境改善	
少数民族の支援		D1 工芸振興教育・啓蒙活動	D 少数民族支援体制の確立
伝統的価値の保全		D2 伝統技術・工芸品の保全・保存	
(その他)		D3 技術・経営指導プログラムの策定と普及	
		D4 フェアトレードシステムの拡充	
		D5 少数民族支援組織の支援	
	E1 参加型 VDS(工芸村開発戦略)の策定	E 工芸村/コミュニティの向上	
	E2 工芸振興組織・団体の設立		
	E3 工芸活動の財源確保		
	E4 工芸村の環境改善		
	E5 村の工芸品のマーケティングシステム整備		
	F1 工芸振興に関わる法制度の確立	F 支援インフラの整備	
	F2 情報サービス支援		
	F3 金融支援		
	F4 社会基盤整備		
	F5 人材育成		

表 2.2.28 アクションデータシート(例)

アクション名		A11:発掘・記録のガイドライン作成		
背景・目的・概要		伝統的価値を認識するためには、当該地域の内在的視点に加えて外部からの評価システムが必要であるが、現状ではそうした評価システムが存在しない。そのため、工芸村に連綿と受け継がれた伝統について村の外部からの評価システムを導入し、工芸品産業の価値創造のために役立てるような発掘と記録の手法と実践方法、実施体制等について、調査関係者・工芸村向けマニュアルを作成することを目的とする。		
期待する効果		<ul style="list-style-type: none"> ・ 裨益者:工芸村、工芸品製造者 ・ 伝統工芸村で記録活動を推進するための共通マニュアルとしての活用 ・ 国内外の学術・研究機関による、ベトナム伝統工芸に対する認識の向上 		
実施計画	実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ (所轄省庁)MOCI ・ (実施機関)DOCI、民俗芸術協会、VME、研究機関 		
	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工芸村を対象に、地域の伝統と工芸品を一体として地域ブランドとするような方法を生み出す。 		
	実施ステップと達成目標	短期(2004-05年)	中期(2006-10年)	長期(2010年以降)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 発掘・記録の方法論の形成 ・ ガイドラインの作成 ・ モデル地域における方法論の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全省での記録の収集とデータベース化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的更新と改善
	インプット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家チーム(MOCI,DOCI, 民俗芸術協会,VME,NPO) ・ MOCI 予算 		
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統価値発掘と記録のためのガイドライン 			
外部支援の必要性		<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の NPO 		
他のアクションとの連携		<ul style="list-style-type: none"> ・ (A12)工芸村の伝統の保全と記録 ・ (A13)伝統工芸品の記録成果の発表 		
参考事例		<ul style="list-style-type: none"> ・ PP3 伝統的価値保全活動の事例 ・ 民俗芸術協会による工芸調査 		
その他留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・ フォトボイス手法の活用を検討する。 		

(ハ) 戦略とアクションプランの重要度

全国を対象とした中央レベルのマスタープランで設定した 30 の戦略及び 90 のアクションプランに関する各省にとっての重要度について下記の3段階で示す。(表 2.2.29 参照)

- ・ A...重要な戦略/アクションであり、すぐに取り組みたい
- ・ B...関心はあるが、すぐに取り組む予定はない
- ・ C...特に関心がない、又は省には関係ない

さらに、省の地域特性にあった独自の戦略やアクションプランを具体的に示す。

表 2.2.29 戦略とアクションプラン

基本目標	戦略	重要度	アクションプラン	重要度	
A: 伝統価値保全メカニズムの確立	A1 工芸村の伝統の記録運動		A11 発掘・記録のガイドライン作成		
			A12 工芸村の伝統の保全と記録		
			A13 伝統工芸品の記録成果の発表(省、中央)		
	A2 ローカルミュージアムの整備		A21 ローカルミュージアムの実態調査		
			A22 既存ミュージアムでの工芸品の展示整備		
			A23 ローカルミュージアムのネットワーク整備		
	A3 伝統工芸研究の推進		A31 伝統工芸学会の設立		
			A32 研究機関のネットワーク化		
			A33 研究テーマのリストアップ		
	A4 マスターアルティザン制度の充実		A41 マスターアルティザン制度の活性化		
			A42 マスターアルティザンの作品の収集・展示		
			A43 マスターアルティザンの交流		
	A5 伝統工芸品の指定		A51 伝統工芸品指定制度の策定		
			A52 指定工芸品の収集・保存		
			A53 伝統工芸品の広報活動		
	B: 工芸品開発システムの改善	B1 デザイン教育の充実		B11 既存教育機関でのデザインカリキュラムの作成	
				B12 デザイン振興のための組織設立	
				B13 国内外デザイン組織ネットワークの拡充と交流	
		B2 工芸品コーディネーターの育成		B21 コーディネーター育成システムの構築	
B22 コーディネーターの資格制度の創設					
B23 コーディネーターの産地・市場派遣					
B3 工芸スキルの向上			B31 工芸スキルの特定		
			B32 工芸スキルのコンペティションの開催		
			B33 工芸スキル訓練システムの構築と普及		
B4 オリジナルデザイン・技術の保護システム			B41 知的財産権保護システムの構築		
			B42 知的財産権国際基準への登録		
			B43 優良工芸品認定マークの発行		
B5 市場での評価機会の提供			B51 国内外の品評会・展示会への参加支援		
			B52 専門家の派遣・人材交流		
			B53 バイヤーとのマッチングシステムの整備		

表 2.2.29 続き...

基本目標	戦略	重要度	アクションプラン	重要度
C: 持続可能な生産システムの確立	C1 原材料保全・利用管理システムの確立		C11 原材料の実態調査	
			C12 原材料保全システムの確立	
			C13 原材料の品質改善	
	C2 産地振興		C21 産地間リンケージの強化	
			C22 BDS プロバイダーの育成	
			C23 産地ブランドの確立	
	C3 技術改良・品質管理システムの確立		C31 品質管理基準の確立	
			C32 技術改良とそのため設備投資支援	
			C33 職業訓練学校の充実	
	C4 経営者の育成		C41 経営管理マニュアルの作成	
			C42 起業家支援制度	
			C43 工芸中小・零細企業支援制度の確立	
	C5 生産現場の労働環境改善		C51 労働安全基準の設定	
			C52 労働安全指導支援システムの確立	
			C53 国際環境基準への登録	
D: 少数民族支援体制の確立	D1 工芸振興教育・啓蒙活動		D11 工芸教育方法・教材作成方法の確立	
			D12 村内トレーナーの育成	
			D13 遠隔地教育方法の整備	
	D2 伝統技術・工芸品の保全・保存		D21 伝統価値の調査・特定・記録	
			D22 伝統技術の復興	
			D23 伝統工芸品の保全	
	D3 技術・経営指導プログラムの策定と普及		D31 製作・生産技術の指導	
			D32 マネジメント・管理運営マニュアルの作成と指導	
			D33 域外研修	
	D4 フェアトレードシステムの拡充		D41 国際フェアトレードシステムへの参加メカニズムの確立	
			D42 アンテナショップの開設	
			D43 エンドユーザーによるフィードバックシステム	
	D5 少数民族支援組織の支援		D51 少数民族支援組織の拡充と政府との連携強化	
			D52 少数民族支援モデルの作成	
			D53 少数民族支援組織によるフォーラムの組織	

表 2.2.29 続き...

基本目標	戦略	重要度	アクションプラン	重要度
E: 工芸村/コミュニ ーのキャパ シティの向上	E1 参加型 VDS ¹⁾ (工 芸村開発戦略)の 策定		E11 VDS マニュアル・ガイドラインの作成	
			E12 VDS 実施体制の確立と作成支援	
			E13 VDS の制度化	
	E2 工芸振興組織・団 体の設立		E21 工芸アソシエーションの設立支援	
			E22 コーポラティブの工芸振興活動支援	
			E23 工芸振興組織・団体のネットワーク化(産地間交流)	
	E3 工芸活動の財源 確保		E31 クラフトファンドの創設	
			E32 既存制度金融へのアクセス方法の確立	
			E33 ODA へのアクセス方法の検討	
	E4 工芸村の環境改 善		E41 工芸村の環境の現状調査	
			E42 工芸村の環境アセスメント制度の整備	
			E43 環境改善活動の支援	
	E5 村の工芸品のマ ーケティングシス テム整備		E51 産地工芸品 ²⁾ 取説 ²⁾ と商標作成と認定	
			E52 観光ルート/観光客受け入れ態勢の整備	
			E53 地場の材料と技術を活かした商品開発	
F: 支援インフラの 整備	F1 工芸振興に関わる 法制度の確立		F11 中央レベル工芸振興カウンシルの設立	
			F12 省レベル工芸振興カウンシルの設立	
			F13 工芸セクター関連制度の合理化	
	F2 情報サービス支援		F21 工芸ウェブサイトの更新	
			F22 ワンストップ工芸センターの設立	
			F23 僻地への遠隔情報サービス	
	F3 金融支援		F31 工芸セクターへの政府予算配分	
			F32 既存融資制度へのアクセス改善	
			F33 ODA の有効的活用	
	F4 社会基盤整備		F41 市場への交通アクセスの整備	
			F42 工芸村の生活インフラ改善支援	
			F43 工芸振興のための共同生産施設整備	
	F5 人材育成		F51 政府機関内工芸セクター担当の人材育成	
			F52 工芸セクターに関わる人材・組織データベースの確立	
			F53 海外交流プログラムの確立	

1) VDS は Village Development Strategy の略。政府や外部機関でなく、工芸村の人々によって計画される将来計画のこと。

2) 工芸品の「取説」とは、材料や品質だけでなく、工芸品の歴史や産地特性、職人からのメッセージなどの情報を盛り込んだ札(タグ)のこと。工芸品を「もの」としてだけでなく「情報」による付加価値を加えて販売するための方法である。

4) プログラミング

重要度の高く設定されたアクションプランから、優先度が高く、今後5年以内の実現化が可能なアクションについて、今後5ヶ年の実施スケジュールを作成する。(表 2.2.30 参照)

プログラミングにあたっては、実施地域、実施期間、組織体制等についてそれぞれの関係機関と合意する必要がある(ステークホルダーへのフィードバックセミナーの開催)。

表 2.2.30 工芸アクション実施スケジュール

アクションプラン	実施機関	実施スケジュール(5ヶ年)				必要な支援
		2004	2005	2006	2007-08	
1. 工芸村の伝統の保全と記録	DOCI					MOCI, VME
2. 工芸カウンスルの設立	省 PC					ドナー
3.						
4.						

5) 実施方策

アクションの実現にあたっては、省独自の資金や技術で出来る内容と、外部支援を必要とする内容に大別される(アクションの実施方策のチェックリストを表 2.2.31 に示す)。

省独自で実施するアクションについては、既存の計画やプログラムの見直し、必要な予算配分を行なうなど、なるべく既存の枠組みのなかに、工芸セクター振興プログラムを位置づけていくなど、省の人材と資源を十分に活用して実施方策を構築する。

また、外部支援が必要なアクションについては、資金、技術、政策・制度、人材、の何れに対してどのような外部支援を必要とするかを検討する。特に省レベルでは ~ だけでなく、それらを運用するための能力を強化する必要があり、人材の支援、すなわち国内外からの指導者・専門家派遣など、はじめは人材育成に重点を置くことが望ましい。

表 2.2.31 アクションの実施方策チェックリスト

アクションプラン	省独自での実施		外部支援の内容と支援機関			
	中心機関	実現方策	資金	技術	制度改革	人材
1. 工芸村の伝統の保全と記録	DOCI	コミュニオンへのマニュアルの配布	MOCI 予算	VME からの調査員派遣		省博物館でのトレーニング実施
2.						
3.						
4.						

6) 役割分担

提案したマスタープランにはビジョン、基本目的、戦略、アクションを含んでいるが、これらの戦略やアクションに対しては、セクター横断的かつクロスカッティングイシューに対して責任ある官と民の両セクターからの幅広いステークホルダーの協力のもとに取り組む必要がある。それぞれの戦略について、所管すべき主要機関を示す。(表 2.2.32 参照)

表 2.2.32 目的・戦略別の省レベル関係省庁の役割分担

目的	戦略	中央政府		関係機関
		主要	支援	
A 伝統価値保全メカニズムの確立	A1 工芸村の伝統の記録運動	DOC/	DOI	博物館, VCA
	A2 ローカルミュージアムの整備			
	A3 伝統工芸研究の推進			
	A4 マスターアルティザン制度の充実			
	A5 伝統工芸品の指定			
B 工芸品開発システムの改善	B1 デザイン教育の充実			
	B2 工芸品コーディネーターの育成			
	B3 工芸スキルの向上			
	B4 オリジナルデザイン・技術の保護システム			
	B5 市場での評価機会の提供			
C 持続可能な競争力のある生産システムの確立	C1 原材料保全・利用管理システムの確立			
	C2 産地振興			
	C3 技術改良・品質管理システムの確立			
	C4 経営者の育成			
	C5 生産現場の労働環境改善			
D 少数民族支援体制の確立	D1 工芸振興教育・啓蒙活動			
	D2 伝統技術・工芸品の保全・保存			
	D3 技術・経営指導プログラムの策定と普及			
	D4 フェアトレードシステムの拡充			
	D5 少数民族支援組織の支援			
E 工芸村/コミュニティキャパシティの向上	E1 参加型 VDS(工芸村開発戦略)の策定			
	E2 工芸振興組織・団体の設立			
	E3 工芸活動の財源確保			
	E4 工芸村の環境改善			
	E5 村の工芸品のマーケティングシステム整備			
E 工芸村/コミュニティキャパシティの向上	E1 参加型 VDS(工芸村開発戦略)の策定			
	E2 工芸振興組織・団体の設立			
	E3 工芸活動の財源確保			
	E4 工芸村の環境改善			
	E5 村の工芸品のマーケティングシステム整備			
F 支援インフラの整備	F1 工芸振興に関わる法制度の確立			
	F2 情報サービス支援			
	F3 金融支援			
	F4 社会基盤整備			
	F5 人材育成			

1) 主要機関は1機関のみ。

2) 関係機関は VCA、VCCI、研究調査機関、銀行、博物館、女性連合、ドナー、NGO 等。

7) モニタリング

モニタリングはプロジェクトやアクション毎だけでなく、政策や戦略によっても行われる必要がある。同時に、実施機関ではなく裨益者側からもモニタリングされるべきである。これが提案した中央及び省レベルの工芸振興カウンシルの最も重要な機能の一つである。

評価クライテリアは、イ)工芸振興により農村部(工芸村やコミュニティ)が裨益すること、ロ)持続可能な工芸生産が行われること、ハ)国家の重点政策課題に方向性が合致すること、を前提として設定し、省の特性に則した具体的な指標を定める。(表 2.2.33 参照)

表 2.2.33 モニタリングの評価クライテリア

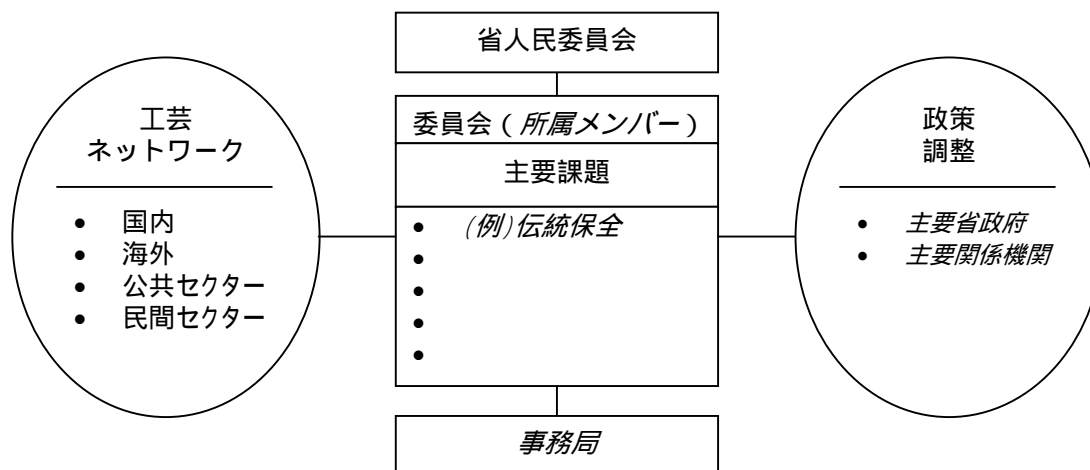
評価の視点		指標
工芸村/コミュニティ	1.ベトナム伝統・文化・社会の発展	・
	2.農村社会・経済の発展	・
	3.農村地域の自立性の向上	・
工芸品生産システム・活動環境改善	1.持続可能な生産システム	・
	2.販売促進	・
	3.活動計画の妥当性	・
特定重点政策課題	1.少数民族へのインパクト	・
	2.貧困削減	・

タスク : マスタープランの作成と承認、運用

中央レベルのマスタープランでは、中央政府(MARD, MOI, MOCI, MoTrade)及び関係機関(コーポラティブ・アソシエーション、博物館、研究調査機関等)から構成される「中央工芸カOUNシル」の設立を提案している。省レベルでの工芸カOUNシルの役割は、中央政府による政策や支援策の実施を支援し、工芸村やコミュニティが裨益できる環境を構築することにある。ここでは、省レベル工芸カOUNシルの設立の必要性、役割、参加組織を示す。(図 2.2.3 参照)

- (イ) 省レベル工芸カOUNシルの設立の必要性
- (ロ) 工芸カOUNシルの果たすべき役割
- (ハ) 具体的な活動内容
- (ニ) 議長、実行委員会、事務局及び所属メンバーの選定

図 2.2.3 省政府工芸カOUNシルの組織概念



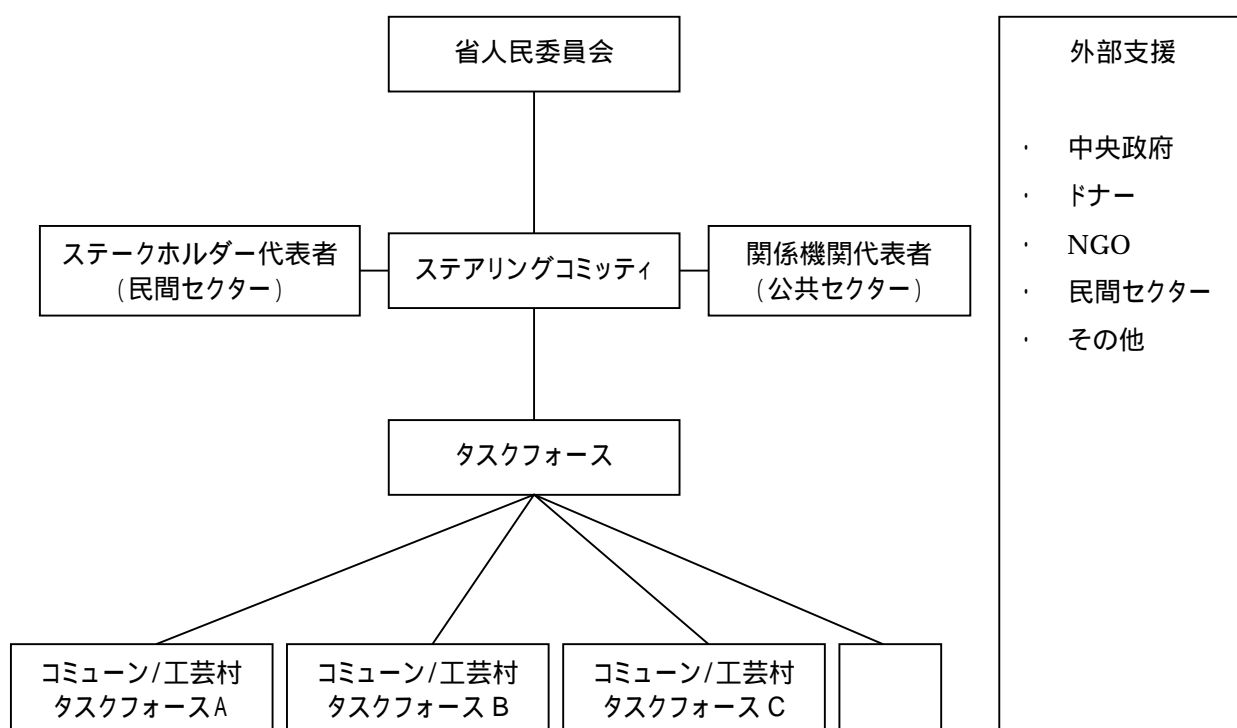
タスク : ステークホルダーの参加

マスタープランの作成プロセスで工芸セクターに直接関係するフォーカスグループを中心にワークショップを、幅広くステークホルダーを対象としたセミナーを実施し、マスタープランの内容と方法について合意形成を図り、成果のオーナーシップを高める努力をする。

2.3 実施体制

マスタープラン作成に際して調査、実施体制を整える(図 2.3.1 参照)。省政府の責任者と担当局の代表者に加えて、民間セクターからの代表者を加えたステアリングコミッティのもとにタスクフォースを設置して、工芸セクターに関わる主要分野を適切にカバーする体制とする。同時に工芸村やコミュニンレベルでもカウンターパートチームを編成し、即地的な情報や問題抽出、課題設定、戦略立案等の一連の計画プロセスに参加を促す。この体制は調査完了後も政策やアクションの実施に有効に利用出来、ステアリングコミッティは“省工芸カウンシル”として制度化につなげることが望ましい。

図 2.3.1 実施体制



アペンディクス
全国工芸マッピング調査 調査票

マニュアルフォーム

フォーム1 コミューン調査票

フォーム2 工芸村調査票

フォーム3 工芸関連情報調査票

The Study on Artisan Craft Development Plan for Rural Industrialization
Manual for Questionnaire Form 1 (Profile of Commune)

1. Objective of Questionnaire Form 1

The purpose of this Questionnaire is 1) to collect the data of communes / villages, 2) to find out Craft-Related Villages which have important artisan crafts and wish to promote / develop their crafts products in Vietnam.

The objective of Form 1 is to capture the general information of each commune, as well as to know where crafts making are conducted in Vietnam, by collecting basic information / data. Therefore, Form 1 should be distributed to all communes and filled in for each commune data/information.

2. Procedure for filling in this Questionnaire Form 1

First, the commune should fill in this Form 1. Question 1 to Question 5 should be filled in with the general information of the Commune.

Regarding to Question 6 “Craft Making”, please fill in the data / information of all villages engaged in Craft Making as much as the Commune knows / can collect.

After the commune replies this Form 1, the district will check and supplement insufficient information, then, next step, the Department of Agricultural and Rural Development (DARD) will complete the questionnaire.

All of the Questionnaire Form 1 will be collected and submitted to Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD) for data processing and analysis.

3. How to fill in the questions

“Information Provider” refers to the chairman of Commune People’s Committee or an officer of the commune.

Most questions can be answered by ticking the appropriate column which you think the best answer to the question.

In some cases the name (such as craft item, ethnic group), and number (such as population, percentage, or code number) must be supplied. If accurate data are not available, estimated figures are acceptable.

4. Survey Area

- Subjects: Communes in rural areas or townlets or suburbs of cities...
- For Item 6.2 of Question 6, besides 11 craft products listed in the table of craft products, others could be added (marking No.12) except agricultural, aquatic products and construction...

The Study on Artisan Craft Development Plan for Rural Industrialization
Manual for Questionnaire Form 2 and Form 3
(Detailed Information on Craft-Related Village)

1. Objective of Questionnaire Form 2 and Form 3

The objective of Form 3 is to collect more detailed data/information on villages with a large number of households engaging in craft making or traditional artisan crafts. Therefore, Form 2 is used for villages meeting Criteria 1) or 2) or both. Criteria for communes/villages to fill in Form 2 & Form 3 are at Item 7 of Questionnaire Form 1. Form 3 includes questions on other craft-related information, e.g. enterprises, finance and overall assessment in the commune.

2. Procedure for filling to this Questionnaire Form 2 and Form 3

For Form 2, communes should collect data from each village to fill in by interviewing chiefs of communes/villages.

After the commune replies this Form 2 and Form 3, the district will check and supplement insufficient information, then, next step, the Department of Agricultural and Rural Development (DARD) will complete the questionnaire.

All of the Questionnaire Form 2 and Form 3 will be collected and submitted to Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD) for data processing and analysis.

3. How to fill in the questions

“Information Provider” should be chiefs of the villages

Most questions can be answered by ticking the appropriate column which you think the best answer to the question

In some cases the name (such as craft item, ethnic group), and number (such as population, percentage, or code number) must be supplied. If accurate data are not available, estimated figures are acceptable.

4. Survey Area

- Subjects: Communes/villages engaging in craft making locate in rural areas or townlets or suburbs of cities...
- For Item 2.2 of Question 2, besides 11 craft products listed in the table of craft products, others could be added (marking No.12) except agricultural, aquatic products and construction...

Questionnaire Form 1 (Profile of Commune)

Name of Province	
Name of District	
Code No. (don't fill)	

Information Provider

Name		
Organization/Position		Chairman of Commune P.C. / Officer of commune
Contact	Address	
	Tel/Fax	

1. Commune and Village Profile

Name of Commune						
Population In Commune	1995			Ethnic Group*	(1)	%
		Male			(2)	%
	2001	Female		(3)	%	
		Total		Others	%	
Name of Village		Population In Village	No. of Households In Village	Estimated % of Households engaged in Craft Making		
1.				%		
2.				%		
3.				%		
4.				%		
5.				%		
6.				%		
7.				%		
8.				%		
9.				%		
10.				%		

Note: *Enter the names of 3 major groups and their percentages.

2. Household Profile in the Commune

Type of Household	No. of Households	Main Source of Income*	Average Household Income (VND000/month)	% of Poor Households
Agriculture				
Mixed-Type				
Non-Agriculture				
Total				

Note: *Select the corresponding numbers. (more than two can be chosen)

1 Agriculture	2 Livestock	3 Fishery	4 Forestry
5 Craft	6 Production	7 Service/Business	8 Others

3. Access to Basic Services

	Primary HealthCare	Education		Drinking Water	Elect-ricity	Tele -phone	Drain -age
		Primary	Secondary				
Coverage of Households (%)	%	%	%	%	%	%	%
Service Level	Good						
	Fair						
	Poor						
	Very Poor						

4. Road Conditions

From Commune Center	Distance	Pavement		Road Condition			Seasonal Disruption		Average Travel Time by Vehicle
				Good	Fair	Bad	Yes	No	
To District Center	km	Paved	%						min
		Gravel	%						
		Earth	%						
To Provincial Center	km	Paved	%						min
		Gravel	%						
		Earth	%						

5. Environmental Issues

Environmental Problems	Very Serious	Serious	Fair	No Problem
Water pollution				
Soil pollution				
Air pollution				
Land slide				
Deforestation				
Others (specify:)				

6. Craft Making

6.1 Are there any households/establishments engaged in craft making?

Yes: No:

Pls go to 6.2

Pls go to 6.3

6.2 For those who answered "Yes" in 6.1,

Profile of Villages engaged in Craft Making

Name of Village engaged in Craft Making	Craft Item*		Willingness for further promotion/development of Craft Making	
	Main	Minor	Yes	No
1.				
2.				
3.				

This table continue to next page

Name of Village engaged in Craft Making	Craft Item*		Willingness for further promotion/development of Craft Making	
	Main	Minor	Yes	No
4.				
5.				
6.				
7.				
8.				

Note: *Select the corresponding numbers of Craft Items in the table below (more than two can be chosen).

1 Rush products	2 Lacquer wares	3 Bamboo and Rattan products	4 Ceramics
5 Embroideries	6 Woven fabrics	7 Woodcrafts	8 Stone carving
9 Craft paper	10 Wood block printing	11 Metal work products	12 Others

6.3 For those who answered “No” in 6.1,

Are there any villages which are interested in craft development in the future?

Yes: No:

If “Yes”, fill in the table below.

Name of Village which is interested in Craft Development in the future	Potential in Craft Development		
	High	Medium	Low
1.			
2.			
3.			
4.			

6.4 Importance of Craft Making in the Commune

Importance of Craft Making from the viewpoint of	Very Important	Important	Not Important
Poverty Alleviation			
Industry Promotion	Export		
	Domestic		
Preservation of Culture			

7. Criteria for Commune to fill Form 2 and Form 3

Criterion 1): Villages with more than 20% of the households involved in Craft Making

Criterion 2): Villages which do not meet Criterion 1) but are considered important by the Commune

Villages which comply with one of the following criteria should be covered by the Form 2 and Form 3. Please enter the name of only those villages which are related to the 11 craft items in the table below.

Name of village	
1.	2.
3.	4.
5.	6.
7.	8.
9.	10.

Name of Province	Name of District	Code No. (don't fill)
------------------	------------------	-----------------------

Questionnaire Form 2 (Detailed Information on Craft-Related Village)

Information Provider

Information Provider			Interviewer		
Name			Name		
Organization /Position		Chief of Village	Organization /Position		
Con-tact	Village Address		Con-tact	Address	
	Tel/Fax			Tel/Fax	

1. Profile of Craft Items

		Name of Craft Item			
		1.	2.	3.	4.
History of Craft Making	100years&more				
	30-100years				
	10-30years				
	10years&less				
Popularity of Craft Item in Vietnam	Very popular				
	Moderately popular				
	Not popular				
Main Market of Craft Item	Overseas				
	Domestic				
	Own Consumption				
Competitiveness (Quality)	Strong				
	Moderate				
	Weak				
Competitiveness (Price)	Strong				
	Moderate				
	Weak				
Attach Photos*	Yes				
	No				

Note: *Please attach photos of typical products of each craft.

2. Profile of Craftsperson

2.1 Characteristics

		Name of Craft Item			
		1.	2.	3.	4.
No. of Craftpersons	Male				
	Female				
	Total				
Age (years)	Between ___ to ___	___ to ___	___ to ___	___ to ___	___ to ___
	Average				
Origin (%)	Same village	%	%	%	%
	Same province	%	%	%	%
	Other province	%	%	%	%
	Total	100%	100%	100%	100%
Formal Training* (% Yes)		%	%	%	%
Period of Engagement (months/year)	Male				
	Female				
Average Working Hour (hours/day)	Male				
	Female				
Average Income (VND000/person/month)	Male				
	Female				

Note: * Estimated % of the craftpersons who obtained training at official organizations such as university, college, school, training institution, etc.

2.2 Outstanding Craftpersons with Golden Hand or Equivalent Craftsmanship (maximum 3 persons)

Name of Craftperson	Male	Female	Age	Craft Item*
1.				
2.				
3.				

Note: * Select corresponding number of Craft Items in the table below.

1 Rush products	2 Lacquer wares	3 Bamboo and Rattan products	4 Ceramics
5 Embroideries	6 Woven fabrics	7 Woodcrafts	8 Stone carving
9 Craft paper	10 Wood block printing	11 Metal work products	12 Others

3. Marketing

3.1 Main Market

		Name of Craft Item			
		1.	2.	3.	4.
Estimated Sales (VNDmil./year)					
Market Share	For Sale	%	%	%	%
	Own Consumption	%	%	%	%
	Total	100%	100%	100%	100%
Main Domestic Market*					
Main Overseas Market**					
Future Target Market***	Domestic				
	Overseas				

Note: *Select corresponding numbers of major areas from the table below. (maximum 3)

1 HCMC	2 Hanoi	3 Da Nang	4 Hai Phong	5 Others
--------	---------	-----------	-------------	----------

** Select corresponding numbers of major countries from the table below. (maximum 3)

1 Japan	2 Korea	3 Taiwan	4 Hong Kong	5 China
6 Italy	7 Germany	8 France	9 Australia	10 USA
11 Other Asia	12 Other Europe	13 Others		

***Select corresponding numbers from the above notes. (maximum 3)

3.2 Marketing Channel

		Name of Craft Item			
		1.	2.	3.	4.
Trading Through	Cooperative				
	SOE				
	Private Company				
	Own/ Individual				
	Others				

3.3 Availability of / Access to Market Information

Information on	Source/ Means								Not Available
	Media	NGO	Traders		Tourists	Official Organization	Own Efforts	Others	
			Private	State					
Design									
Price									
Quality									

4. Production

4.1 Cost Structure

		Name of Craft Item			
		1.	2.	3.	4.
Production Cost Structure (%)	Raw Materials	%	%	%	%
	Power/ Water	%	%	%	%
	Equipment	%	%	%	%
	Labour	%	%	%	%
	Others	%	%	%	%
	Total	100%	100%	100%	100%

4.2 Name of Raw Materials

		Name of Craft Item			
		1.	2.	3.	4.
Name of Main Raw Materials	1A	2A	3A	4A	
	1B	2B	3B	4B	
	1C	2C	3C	4C	
	1D	2D	3D	4D	
	1E	2E	3E	4E	

4.3 Characteristics of Raw Materials

		Main Raw Materials*									
Source to get	Within Commune										
	Within Province										
	Domestic										
	Imported										
Manner of Acquisition	Through traders										
	Through cooperative										
	Own/ Village										
Quality	Good										
	Fair										
	Bad										
Quantity	Sufficient										
	Insufficient										
Average Price	Unit**										
	VND000										

Note: *Enter corresponding code identified in 4.2, e.g., "1A", "4C", etc.

** Enter the unit of measurement, e.g. per "kg", per "m", etc.

4.4 Power Source

		Name of Craft Item			
		1.	2.	3.	4.
Power Source	Firewood				
	Fossil Fuel				
	Coal				
	Electricity				
	Others				

Power Source		Firewood	Fossil Fuel	Coal	Electricity	Others
Availability	Sufficient					
	Insufficient					
Cost	Expensive					
	Reasonable					

4.4 Design/ Technology

		Name of Craft Item			
		1.	2.	3.	4.
Design	Traditional				
	Mixed/Modified				
	Modern				
Technology	Traditional				
	Mixed/Modified				
	Modern				

5. Tourism

5.1 Do tourists visit the village?	Yes		No	
5.2 If "Yes", how many tourists per year?				
5.3 Does the village want to attract tourists?	Yes		No	
5.4 Are craft items sold to tourists who visit the district?	Yes		No	
5.5 If "Yes", percentage of craft items sold to tourists (in total sales)	%			

6. Main Problems Facing

6.1 Problem Areas

Problem Areas		Name of Craft Item													
		1.			2.			3.			4.				
		Fair	Some Problem	Serious Problem	Fair	Some Problem	Serious Problem	Fair	Some Problem	Serious Problem	Fair	Some Problem	Serious Problem		
Lack of Craftpersons															
Lack of Raw Material															
Loss of Traditional Value															
Lack of Finance															
Lack of Transportation															
Lack of Market Information															
Lack of Leaders/Managers															
Lack of Technology															
Others (specify)															

6.2 Is there a change in the traditional way of craft making?	Yes		No	
6.3 Is the change advantageous for the village?	Yes		No	
6.4 Is the preservation of traditional value important to the village?	Yes		No	

Name of Province	Name of District	Code No. (don't fill)
------------------	------------------	-----------------------

Questionnaire Form 3 (Other Craft-Related Information in the Commune)

Information Provider

Name		
Organization/Position		Chairman of Commune P.C. / Officer of commune
Contact	Address	
	Tel/Fax	

1. Profile of Craft-Related Enterprises

Name of Enterprises	Is this Head Quarter?		Type of Enterprise *	No. of Employees			Main Function **
	Yes	No		Male	Female	Total	
1.							
2.							
3.							
4.							
5.							
6.							
7.							
8.							
9.							
10.							

Note: * Choose the corresponding number from the table below.

1 State-owned Enterprises (SOEs)	4 Private Companies (Domestic)
2 Provincial Gov. - owned Enterprises	5 Private Companies (Foreign)
3 Joint-ventures between domestic and foreign firms	6 Others

** Choose the corresponding number from the table below. (more than two can be chosen)

1 Production	4 Collection of Raw Materials
2 Trading	5 Management
3 Design	6 Others

2. Profile of Craft-Related Cooperatives/ Associations

Name of Cooperatives/Associations	Year established	No. of Members	Own Office		No. of Staffs		Membership Fee	
			Yes	No	Male	Female	Yes	No
1.								
2.								
3.								
4.								

3. Access to Finance

Access to Finance			Borrower			
			SOE	Private Enterprise	Cooperative	Individual
Access to Finance	Yes	Easy				
		Difficult				
	No					
Main Financing Institution and Interest Rate (%)	Bank of Agriculture		%	%	%	%
	Bank for the Poor		%	%	%	%
	Micro Credit		%	%	%	%
	Others()		%	%	%	%

4. Overall Assessment of Craft Making in the Commune

Craft Items	Judgment	Quality	Tech-nology	Raw Material	Market	Price of Products	Trans- portation	Training	Finance	Work Condi- tion	Environ- mental Problem
1.	Good/ No Problem										
	Fair										
	Problematic										
2.	Good/ No Problem										
	Fair										
	Problematic										
3.	Good/ No Problem										
	Fair										
	Problematic										
4.	Good/ No Problem										
	Fair										
	Problematic										

5. Questions for Head Quarters of Craft-Related Enterprises

Name of Enterprises	Type of Enterprise*	No. of Employees			No. of Branch offices	Main Function**	Total Sales (VNDmil)
		Male	Female	Total			
1.							
2.							
3.							
4.							
5.							
6.							
7.							
8.							
9.							
10.							

Note: * Choose the corresponding number from the table below.

1 State-owned Enterprises (SOEs)	4 Private Companies (Domestic)
2 Provincial Gov. - owned Enterprises	5 Private Companies (Foreign)
3 Joint-ventures between domestic and foreign firms	6 Others

** Choose the corresponding number from the table below. (more than two can be chosen)

1 Production	4 Collection of Raw Materials
2 Trading	5 Management
3 Design	6 Others